

Tohoku University Fact Book 2007

# 東北大学概要 2007



TOHOKU  
UNIVERSITY

## CONTENTS

## 〈はじめに〉

歴史的背景	01
使命と目指す大学の姿	02
総長挨拶	03
歴代総長	04
100周年記念関連事業	05
沿革図	07
ノーベル賞・文化勲章等受賞者	09
学内表彰	12

## 〈組 織〉

運営組織	15
機構図	16
役員・主な役職者	17
総長選考会議	20
役員会	20
経営協議会	20
教育研究評議会	20
役員・職員数	21
学部	22
大学院	23
附置研究所	25
学内共同教育研究施設等	25
特定事業組織	26
先進医工学研究機構	26
附属図書館	26
病院	27

## 〈学 生〉

学生数	29
入学状況	30
学部卒業生数	32
学位授与者数	32
卒業後の状況	33
産業別就職者数	34
学友会	35

## 〈財 務〉

平成18年度決算	37
研究費等受入状況	38
土地・建物	39

## 〈特色ある研究・教育・社会貢献活動〉

COE等	41
教育	44
寄附講座・寄附研究部門	45
産学連携ポリシー	45
産学連携	46
社会との連携協力	46

## 〈国際交流〉

学術交流協定締結等	49
研究者等受入状況	53
海外拠点	54
外国人留学生数	55
国際シンポジウム等開催状況	57
国際交流戦略の基本指針	57

## 〈キャンパス〉

施設所在地一覧	59
建物配置図	61

## ■ 歴史的背景(Historical Background)

東北大学は、1907年(明治40年)に、東京帝国大学、京都帝国大学に続く3番目の帝国大学として創立。設立当初から、専門学校、高等師範学校の卒業生にも門戸を開き、さらに1913年(大正2年)には、当時の政府からの圧力にも屈せず、日本の国立大学として初めて、3名の女子の入学を許可し、「門戸開放」が本学の不動の理念であることを世に示した。

東北帝国大学は、創立に当たって、世界の学界でトレーニングを積んだ若き俊秀が教授として集まったこともあって、研究者が独創的な研究成果を次々と生み出しながら、それを学生に対する教育にも生かすという「研究第一主義」の精神が確立された。さらに、東北大学は、戦前からいち早く大学発のベンチャー企業を設立して地域産業の育成を図ったり、日常生活に最も密着した法律である家族法の研究の日本の中心になるなど、世界最先端の研究成果を社会や人々の日常生活に役立てる「実学尊重」の伝統も育んできた。

このような精神は、第二次世界大戦、戦後の成長期を経て、グローバル化が進行する現代にも生き生きと息づいている。

2005年12月27日

## ■東北大学の使命(Mission Statement)

東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造する。また、研究の成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献する。

## ■東北大学が目指す大学の姿(Towards Tohoku University 2016)

東北大学は、その使命を果すため、今後10年間で、次のような大学になることを目指す。

### 〈世界最高水準の総合研究拠点の確立〉

- 自然科学、人文科学、社会科学にわたる、幅広い分野において、世界をリードする研究成果を恒常的に創造する。
- 知識の加速度的集積と知識基盤型社会の要請に応えるために、たえず最適の研究組織の編成を図る。
- 国内外の主要研究機関との研究ネットワーク連携を整備すると共に、世界的総合研究拠点としての声望・評価を確立する。

### 〈社会の発展と新たな知の創造を担う指導的人材の養成〉

- 教員は、最先端の研究に従事しながら、その成果を教育に反映させる。
- すべての授業を「世界最高水準の教育拠点」にふさわしい内容と方法で提供する。
- 新たな知の創造に必要な基礎知識と社会の指導者としての責任意識を涵養する教育を実施する。
- 高度の国際性、専門知識、応用能力を備えた高度専門職業人を養成する教育プログラムと組織を整備・発展させる。

### 〈世界と地域への貢献〉

- 研究成果を社会に普及させ、指導的人材を社会に送り出すことによって、人類社会及び地域社会の発展に寄与する。
- 資質と意欲があれば、誰もが、国籍・人種・性別・年齢・宗教・社会階層等に関わりなく、平等に、学生・職員として受け入れられる機会を与える。
- 「実学尊重」の伝統を踏まえて、産学連携を推進し、サイエンスパークを整備する。
- 市民を対象にした教育や、専門知識を活用する相談サービス等の提供を、質・量ともに飛躍的に充実させる。
- キャンパスを市民との共生の場として開放すると共に、大学所蔵の図書・学術資料・施設等の知的資源・財産の社会的有効活用を図る。

### 〈世界最高水準の研究・教育拠点にふさわしい文化・環境・経営体制の整備〉

- 世界最高水準の研究・教育を活性化するような学内の文化を保持・発展させる。
- キャンパスの景観の美的統一と自然環境との調和を図り、知的創造活動にふさわしい雰囲気醸出する。
- 世界最高水準の研究・教育活動を柔軟且つ機動的に展開するのに必要な施設、人的・物的・財政的基盤及び経営体制を整える。

## ～世界リーディング・ユニバーシティに向けて～

東北大学は、1907年（明治40年）の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。また、研究の成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献してきました。その歴史は、東北大学に関わる人々のためめ挑戦を通して築き上げられてきたものです。東北大学は、本年創立100周年を迎えました。



いま、人類社会は地球規模で克服すべき様々な複雑かつ困難な課題に直面しています。東北大学は100年という歴史の中で継承してきた知の蓄積と、絶えざる研究・教育の創造を通して、前途に横たわる諸課題に堂々と立ち向かう先導力となる決意をしています。それこそが「世界リーディング・ユニバーシティ」として人類社会の発展に貢献する大学の姿と考えるからです。

こうした決意をもってこれからの東北大学について考えると、「Challenge（挑戦）」、「Creation（創造）」、「Innovation（革新）」という3つのキーワードを基軸に行動することが重要と考えます。そして核となるのは、これからの人類社会の形成に向けた卓越性の追求をもって取り組む「挑戦」の精神です。

東北大学は「知の継承体」として、不撓不屈な挑戦の精神を持つ人材を数多く輩出し、更には国際社会で指導的な役割を果たす人材を各方面に送り出すことによって、人類社会に対する貢献を果していきます。

また、東北大学は「知の創造体」として、挑戦の精神をエネルギーに世界最高水準の知を「創造」し、その知を実際に活用することによって、人類社会に対する貢献を果していきます。特に、人類社会の重要課題である地球環境問題、エネルギー問題、食料問題、生命・福祉問題などを解決する「革新」を求めて、横断的学際化（Transdiscipline）を重視した融合領域分野における研究に挑戦していきます。

そして、東北大学は内外に開かれた「知の経営体」として、目標達成のための戦略を立て、学内外のさまざまな英知を結集して努力していくことにより、本学が培った実力を如何なく発揮し、世界最高水準の研究中心大学として輝かしい前途を切り拓いていきます。

東北大学は本年3月に2007年度を初年度とする「井上プラン2007」（東北大学アクションプラン）をとりまとめました。このプランは人類社会への貢献という揺るぎなき姿勢をもって、教育、研究、社会貢献、キャンパス環境、組織・経営という5つの柱ごとに、「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指した戦略実行プランを打ち出したものです。現在、東北大学では様々な新しい課題に挑戦しています。一例は、卓越した知識と創造的総合知を備えた、21世紀の学術をリードする研究者を育成する「国際高等研究教育機構」の創設です。自然科学から人文・社会科学にわたる13の「21世紀COEプログラム」の成果を結集し、創出された新融合領域を基盤とした全学横断の若手人材の育成を行います。また、世界の大学と提携し、国際的な視野を備えた学生を育成するための「海外インターンシップ制度」も積極的に導入します。さらに、世界トップレベルの戦略的研究拠点の形成、産学官連携事業等を通じた新実業の創出の先導、世界に開かれた国際水準キャンパスの構築、国際競争力を支える「東北大学式人事システム」の構築など、オリジナリティに溢れた取組をしていきます。

「世界リーディング・ユニバーシティ」になるという目標は、一朝一夕に実現できるものではありません。大学を取り巻く環境が絶えず激しく変化することも忘れてはなりません。しかし、これからの進むべき道程を明確にし、東北大学の教職員、学生、そして同窓生が相互に切磋琢磨をして一体となってその力を発揮し、更には広く社会の方々と連携して人類社会の様々な課題に挑戦すること、これが東北大学に託された使命なのです。

これからの東北大学が果たすべき使命及び活動を皆さまにご理解いただくとともに、多くの方々と共に挑戦していくことにより、社会から信頼、尊敬、そして愛情を得られる大学として人類社会の発展に貢献して参る所存です。

2007年6月  
東北大学総長 井上明久

歴代総長

歴代総長

代数	氏名	在任期間
初代	沢柳政太郎	明治44. 3.24~大正 2. 5. 8
第2代	北条時敬	大正 2. 5. 9~大正 6. 8.24
(事務取扱)	小川正孝	大正 6. 8.25~大正 6.10.14
第3代	福原鑑二郎	大正 6.10.15~大正 8. 6.20
第4代	小川正孝	大正 8. 6.21~昭和 3. 6.14
第5代	井上仁吉	昭和 3. 6.15~昭和 6. 6.14
第6代	本多光太郎	昭和 6. 6.15~昭和15. 5.30
第7代	熊谷岱蔵	昭和15. 5.31~昭和21. 2.11
第8代	佐武安太郎	昭和21. 2.12~昭和24. 3.31
第9代	高橋里美	昭和24. 4. 1~昭和32. 6.30
第10代	黒川利雄	昭和32. 7. 1~昭和38. 6.30
第11代	石津照璽	昭和38. 7. 1~昭和40.10. 4

代数	氏名	在任期間
(事務取扱)	元村 勲	昭和40.10. 5~昭和40.11.19
第12代	本川弘一	昭和40.11.20~昭和46. 2. 2
(事務取扱)	水野弥彦	昭和46. 2. 3~昭和46. 4.30
第13代	加藤陸奥雄	昭和46. 5. 1~昭和52. 4.30
第14代	前田四郎	昭和52. 5. 1~昭和58. 4.30
第15代	石田名香雄	昭和58. 5. 1~平成元. 4.30
第16代	大谷茂盛	平成元. 5. 1~平成 2. 9.30
(事務取扱)	吉永 馨	平成 2.10. 1~平成 2.11. 5
第17代	西澤潤一	平成 2.11. 6~平成 8.11. 5
第18代	阿部博之	平成 8.11. 6~平成14.11. 5
第19代	吉本高志	平成14.11. 6~平成18.11. 5
第20代	井上明久	平成18.11. 6~



初代 沢柳政太郎



第2代 北条時敬



第3代 福原鑑二郎



第4代 小川正孝



第5代 井上仁吉



第6代 本多光太郎



第7代 熊谷岱蔵



第8代 佐武安太郎



第9代 高橋里美



第10代 黒川利雄



第11代 石津照璽



第12代 本川弘一



第13代 加藤陸奥雄



第14代 前田四郎



第15代 石田名香雄



第16代 大谷茂盛



第17代 西澤潤一



第18代 阿部博之



第19代 吉本高志

東北大学は2007年6月の創立100周年にあたり、2004年より「TOHOKU UNIVERSITY、CREATING GLOBAL EXCELLENCE」(東北大学は世界最高水準の研究・教育を創造します)をキャンペーンスローガンとして、「東北大学100周年キャンペーン」を開始し、様々な事業を開催しています。

東北大学pre-Centenaryイベント～100周年を1年後に控えて～

2006年6月22日(木) 東北大学片平キャンパス等

- 広告バス出発式
- 東北大学ロゴタピストリー除幕式
- 東北大学pre-Centenary祝賀会



東北大学100周年記念セミナー「科学が次の100年で創り出せること」

主催：東北大学、日本経済新聞社

第6回

文明の危機とグローバルコミュニティの再生 2006年8月2日(水) 日経ホール

「地球規模大災害と国際協力～インド洋津波から見えるもの～」	工学研究科附属災害制御研究センター教授	今村 文彦
「グローバル化とヒトBSEの脅威」	医学系研究科教授	北本 哲之
「国境を越えるウィルス感染症～鳥インフルエンザと地球規模大感染の危険性～」	医学系研究科教授	押谷 仁
「プラスチック地雷を見つける電波技術～先端テクノロジーによる地雷除去～」	東北アジア研究センター教授	佐藤 源之
「グローバルネットワークの光と影～ハッカーとの飽くなき闘い～」	情報科学研究科教授	根元 義章
「オーロラから見る地球の未来～進展する国際宇宙共同観測～」	理学研究科教授	福西 浩

第7回

きれる子、無気力な子、挫折する子—親の力、教師の力、社会の力を考える— 2007年1月13日(土) 日経ホール

「ほどほどの子育ては、愛とスキルから!?—児童精神科医療の現場で見えること—」	前宮城県立こども病院児童精神科科長	本多 奈美
「友愛と信頼、親子の絆を育む遺伝子—オキシトシンの謎—」	農学研究科教授	西森 克彦
「学生の自殺をどう防止してきたのか—大学の模索—」	高等教育開発推進センター教授 (学生相談所カウンセラー)	吉武 清貴
「将来が見えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築—」	文学研究科教授	佐藤 嘉倫
「自分づくりを支援する教育はできているのか—幼稚園から大学までのカリキュラムの点検—」	教育学研究科教授	水原 克敏
特別講演 『家族で食事』がすべての基本—テレビドラマの取材から—	脚本家・東北大学相撲部監督	内館 牧子

東北大学100周年記念仙台セミナー

主催：東北大学、河北新報社

第1回

先端科学の挑戦—『健康で長生き』を目指して 2006年12月3日(日) 仙台国際センター

「岩手・大迫の研究が世界標準に～血圧測定を科学する～」	薬学研究科教授	今井 潤
「食べ物とがん予防～健康食品はほんとうに効くか～」	法学研究科教授	坪野 吉孝
「マイクロ技術で病気をなおす」	工学研究科教授	江刺 正喜
「サイボーグへのみち～人間は機械である?～」	加齢医学研究所教授	山家 智之

パネル討論

〈コーディネーター〉	副学長	大西 仁
〈パネリスト〉	薬学研究科教授	今井 潤
	法学研究科教授	坪野 吉孝
	工学研究科教授	江刺 正喜
	加齢医学研究所教授	山家 智之
〈進行〉	東北放送アナウンサー	藤沢 智子



東北大学100周年記念仙台セミナー



東北大学pre-Centenary祝賀会

## 東北大学100周年記念サテライトセミナー

回	開催日	開催地	内 容	
第6回	2006年11月25日	福 岡	「人工生殖を考える～生まれてくる小さな生命の視点から～」 「オーロラから見る地球の未来～進展する国際宇宙共同観測～」	法学研究科教授 水野 紀子 理学研究科教授 福西 浩
第7回	2006年11月29日	名 古 屋	「脳科学から新産業を創生する」 「血液脳関門の働きと脳へのドラッグデリバリー」 「MEMS(微小電気機械システム) ーシステムの重要な部品は半導体技術を中心に作られるー」 「ニュートリノで宇宙を見透す巨大な地下の目」	加齢医学研究所教授 川島 隆太 薬学研究科教授 寺崎 哲也 工学研究科教授 江刺 正喜 理学研究科教授 井上 邦雄

## その他の100周年各種事業

開催日(2006年度)	事業名	部局等名
5月18日	講演会「量子化学国際会議」	理学研究科
6月12日	公開国際交流プログラム「仙台-レンヌ交流40周年記念フランス文化講演会」	国際文化研究科
9月29日	公開シンポジウム「代謝・栄養・生理科学の最前線-家禽産業との融合を目指して-」	農学研究科
10月18日	公開国際交流プログラム「ヨーロッパ文化講演会」	国際文化研究科
10月20日～12月27日	「学都仙台・明治の学生群像-東北大学がなかった頃-」展	史料館・第二高等学校尚志同窓会
11月 3日～14日	企画展「江戸の遊び-けっこう楽しいエコレジャー-」	附属図書館
11月 6日～ 8日	農学国際シンポジウム「イネ科学の最前線-遺伝子からフィールドまで-」	農学研究科
11月 8日～12月15日	青葉工業会創立50周年・東北大学創立100周年記念第25回写真コンテスト	青葉工業会・工明会
11月16日～17日	国際シンポジウム「生物産業創成科学研究の新展開」	農学研究科
12月17日	第50回東北大学歯学会	東北大学歯学会
12月23日	理系白書シンポジウムin仙台「夢を形にするチカラ-女性科学者ってかっこよくない？」	
2月 3日	公開国際交流プログラム 日中韓学術交流フォーラム「東アジアにおける日本研究-言語・文学・思想-」	国際文化研究科
2月 6日～ 3月 4日	総合学術博物館のすべてVI「脳のかたち、心のちず-東北大学・脳の研究・心の研究」	総合学術博物館
2月 8日～ 9日	日仏ジョイントフォーラム「Lyon・Tohoku, Teaming for the Future」2020年の科学・技術の姿	
2月12日	第19回東北大学柔道部青葉杯優勝大会	学友会体育部・学友会柔道部
2月14日	第5回情報シナジー研究会	情報シナジー機構・情報シナジーセンター
2月18日～19日	第2回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム	歯学研究科
2月26日～28日	ACCMS-VO創立国際会議	ACCMS-VO創立国際会議実行委員会
3月 3日	「知の世紀」グローバル・サミット ～Challenge(挑戦)、Creation(創造)& Innovation(革新)が次代を切り拓く～	
3月 8日～11日	「上野の山発 旬の情報発信シリーズ第13回」ユビキタスネットワーク情報化社会の実現へ	未来科学技術共同研究センター
3月15日	国際シンポジウム High School Educators in Comparative Perspective	教育学研究科

## ■ 東北大学学章・スクールカラー・学生歌・ロゴマーク

東北大学は長年にわたり正規の学章、スクールカラー、学生歌を持っていませんでしたが、2007年6月にこれを制定しました。学章は東北大学ロゴマークとし、スクールカラーは東北大学ロゴマークの公式カラーの「紫」としました。学生歌は、昭和28年度に学友会で学生歌として選定され、歌い継がれてきた「青葉もゆるこのみちのく」としました。

ロゴマークは、2007年6月に東北大学創立100周年を迎えることを機に、ユニバーシティ・アイデンティティを明確にし、国内外の知名度や信頼性を向上させるため、2005年4月に制定されました。「creativity」「global」「tradition」をキーコンセプトに、昔から宮城野や仙台を象徴する植物とされている「萩」をモチーフとして、品格を持って、世界に大きく広がっていく動きを表現しています。公式カラーは「紫」と「黒」で、「紫」は知性と創造力を、「黒」は勤勉と実践力を表しています。



# 沿革図

はじめに

明治9年8月  
札幌農学校

明治40年  
創立  
明治40年9月  
農科大学  
明治40年6月  
東北帝国大学

大正7年4月  
分離独立・北海道帝国大学  
大正8年4月  
大学令

昭和22年10月  
東北大学  
昭和24年5月  
新制大学

明治44年1月  
理科大学

大正8年4月  
理学部

明治20年8月  
第二高等学校医学部

明治34年4月  
仙台医学専門学校

明治45年4月  
医学専門部

大正4年7月  
医科大学  
大正7年4月  
廃止

大正8年4月  
医学部

昭和14年5月  
臨時附属医学専門部

昭和19年3月  
附属医学専門部

明治39年4月  
仙台高等工業学校

明治45年4月  
工学専門部

大正8年5月  
工学部

大正10年4月  
分離独立・仙台高等工業学校

昭和19年4月  
仙台工業専門学校



正門（昭和初期）



史料館（旧図書館・昭和初期）

昭和22年4月  
農学部

大正11年8月  
法文学部

昭和24年4月  
3学部に分立

明治20年4月  
第二高等学校

明治27年6月  
第二高等学校大学预科

大正8年4月  
第二高等学校

昭和24年5月  
教育学部  
昭和24年5月  
包括  
昭和25年3月  
廃止

昭和24年6月  
分校第一教養部

昭和24年6月  
分校第二教養部

昭和24年6月  
分校第三教養部

昭和24年5月  
併合

昭和24年5月  
包括

明治19年4月  
宮城県尋常師範学校

明治31年4月  
宮城県師範学校

大正15年4月  
宮城県女子専門学校

大正18年4月  
宮城師範学校

大正2年4月  
宮城県女子師範学校

昭和24年6月  
分校教育教養部

昭和32年4月  
北分校に改称

昭和20年4月  
宮城青年師範学校

昭和24年6月  
包括



東京分室サビアタワー



片平さくらホール

大正8年5月  
附属鉄鋼研究所

大正11年8月  
金属材料研究所

昭和16年12月  
抗酸菌研究所

昭和18年10月  
高速力学研究所

昭和10年9月  
附属電気通信研究所

昭和19年1月  
電気通信研究所

昭和14年8月  
農学研究所

昭和16年3月  
選鉱製錬研究所

昭和18年1月  
科学計測研究所

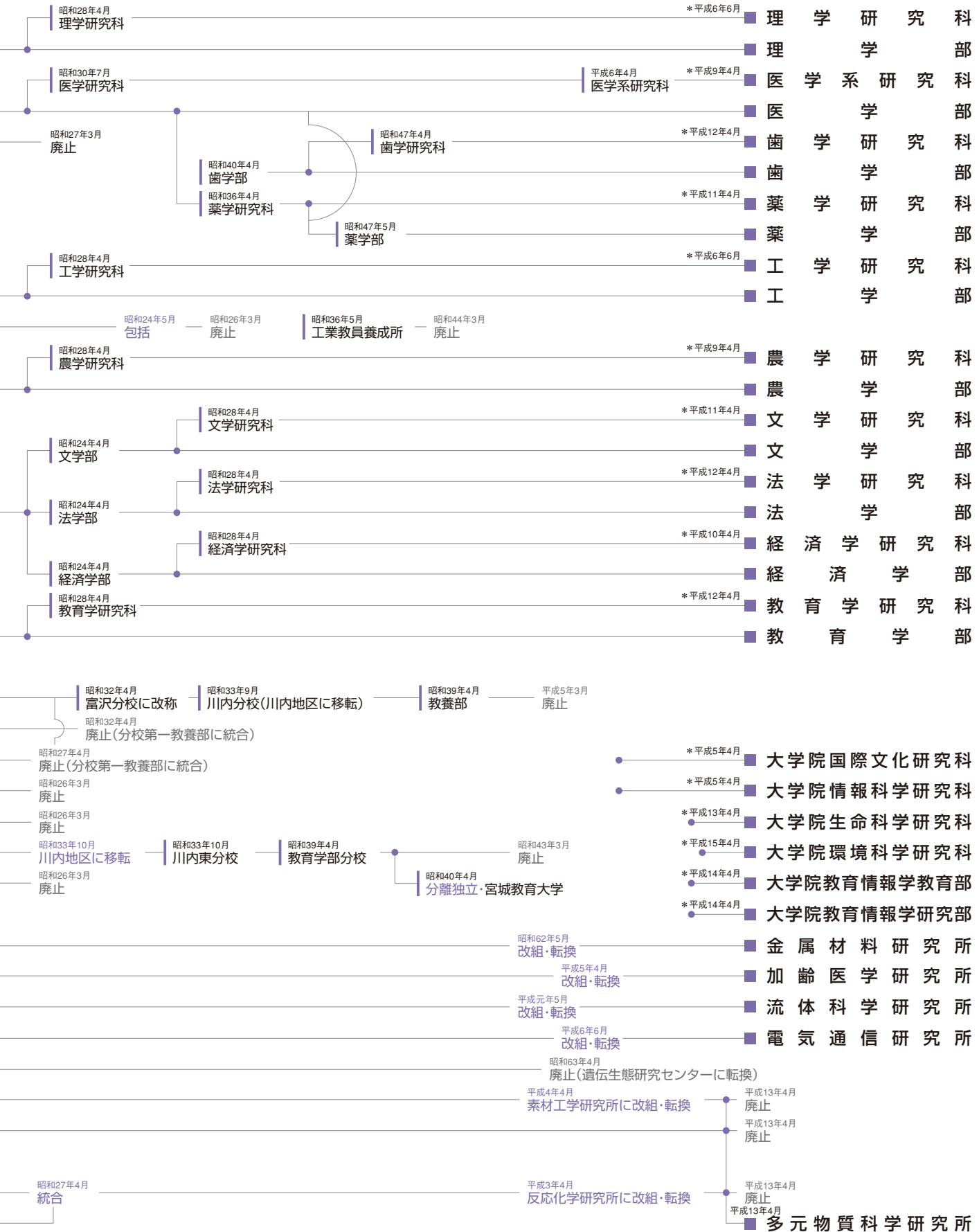
昭和18年10月  
航空医学研究所  
昭和21年1月  
廃止

昭和19年1月  
非水溶液化学研究所

昭和20年1月  
硝子研究所(ガラス研究所)



昭和28年4月 新制大学院 昭和32年 創立50周年 昭和57年 創立75周年 昭和62年 創立80周年 平成16年4月 国立大学法人 ■ 東 北 大 学



\* 大学院重点化時期

# ノーベル賞・文化勲章等 受賞者

(2007年5月現在)

## ノーベル賞受賞者(誉博…名誉博士)

受賞年	氏名	部局	受賞理由
1987年	ハンス・ハインリッヒ・ローラー	金属材料研究所(客)、誉博	走査型トンネル電子顕微鏡の開発
1999年	アハメッド・ズウェイル	ユニバーシティプロフェッサー、誉博	化学反応の超短時間解析技術の開発
2002年	田中耕一	工学研究科(客)、誉博	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

## 文化勲章受章者、文化功労者

文化勲章受章	文化功労者	氏名	部局	主な業績
昭和12年	昭和26年	本多光太郎	金属材料研究所	鉄に関する金属物理学研究、特にKS鋼・新KS鋼の発明
昭和19年	昭和26年	岡部金治郎	工学部	分割陽極マグネトロンが発見等の極超短波に関する研究
昭和21年		宮部金吾	農科大学	植物病理学の基礎構築と北方における植物の新種発見
昭和24年	昭和26年	真島利行	理学部	漆等の天然物有機化学の研究
昭和24年	昭和26年	岡田武松	理学部(併)	気象学の先駆的研究と気象予報体制の整備
昭和25年	昭和26年	田辺元	理学部	絶対弁証法による田辺哲学体系を確立
昭和25年	昭和26年	土井晩翠	文学部	雄渾な漢文調に思想を含めた詩風を確立
昭和27年	昭和27年	熊谷岱蔵	抗酸菌病研究所	豚ホルモンのインシュリン発見と結核医学の研究
昭和28年	昭和27年	矢部長克	理学部	糸魚川・静岡地質構造線提唱等の地質学・古生物学研究
昭和28年	昭和27年	宇井伯寿	法文学部	近代的インド哲学研究の基礎を構築
昭和29年	昭和29年	萩原雄祐	理学部	天体力学の研究および天文台の整備充実
昭和30年	昭和30年	増本量	金属材料研究所	不銹不変鋼をはじめとする特殊合金に関する研究
昭和31年	昭和31年	村上武次郎	金属材料研究所	特殊鋼の物理冶金学的研究、村上試薬の発明
昭和31年	昭和31年	八木秀次	工学部	八木アンテナ発明等の電気工学研究
昭和32年	昭和28年	山田孝雄	法文学部	日本語文法の理論的体系化
昭和33年	昭和33年	野副鉄男	理学部	ヒノキチオールおよび関連有機化合物の研究
昭和34年	昭和34年	吉田富三	医学部	がんの発生・成長過程の研究、吉田肉腫瘍の発見
昭和39年	昭和39年	茅誠司	金属材料研究所	強磁性結晶体の磁気的研究および戦後学術研究体制刷新の推進
昭和40年	昭和40年	赤堀四郎	理学部	アミノ酸等に関する生物有機化学研究
昭和43年	昭和43年	黒川利雄	医学部	がんの研究とがん集団検診の創始者
昭和46年	昭和46年	安井琢磨	経済学部	我が国の近代経済学の発展に貢献
昭和48年	昭和37年	石原謙	文学部	キリスト教史の研究
昭和50年	昭和50年	広中平祐	理学部(併)	代数幾何学の研究、特に代数多様体の特異点解消
昭和59年	昭和54年	高橋信次	医学部	X線CTの基礎となる回転断層撮影法の開発等の放射線医学研究
昭和62年	昭和54年	桑原武夫	法文学部	人文科学百般にわたりスケール大きく行動した学者・文化人
平成元年	昭和58年	西澤潤一	電気通信研究所	トランジスタ、半導体、ダイオードおよび光通信三大要素に関する研究
平成14年	平成14年	田中耕一	工学部、誉博	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発
-	昭和29年	松村松年	農科大学	昆虫学全般に関する研究
-	昭和33年	高橋里美	法文学部	哲学、特に包弁証法等を通して独自の思想体系を展開
-	昭和34年	伊藤誠哉	農科大学	我が国の作物病害と菌類に関する植物病理学研究
-	昭和35年	武内義雄	法文学部	中国哲学、特に老子に関する研究
-	昭和38年	原龍三郎	非水溶液化学研究所	液体アンモニア・青化物および非水溶液化学の応用に関する応用化学研究
-	昭和40年	真嶋正市	理学部	計測工学、特に高速衝撃破壊に関する研究
-	昭和45年	渡辺寧	電気通信研究所	二重帰還増幅器・仙台放電管等の電磁機器発明・電子工学の先駆的研究
-	昭和51年	坂村徹	農科大学	小麦の染色体に関する植物細胞学やカビ類の植物生理学に関する研究
-	昭和51年	沼知福三郎	高速力学研究所	機械工学、特に翼型のキャビテーション性能に関する研究
-	昭和53年	武井武	理学部	酸化金属磁性材料に関する研究、特にOP磁石の発明
-	昭和60年	金倉圓照	文学部	インド哲学、特にインド中世精神史
-	昭和61年	日沼頼夫	歯学部	成人T細胞白血病のウイルス病因に関する研究
-	昭和62年	岩崎俊一	電気通信研究所	高密度磁気記録等の電子工学研究
-	平成4年	今井勇之進	金属材料研究所	鉄鋼の熱処理加工に関する金属学研究
-	平成4年	島田謹二	法文学部	日本における外国文学の比較文学研究
-	平成11年	中西香爾	理学部	機能性天然物有機化合物の構造および生体内機能発現に関する研究
-	平成12年	横堀武夫	工学部	金属材料の強度に関する研究
-	平成12年	増本健	金属材料研究所	アモルファス金属に関する基礎的および応用的研究
-	平成14年	ドナルド・キーン	文学部(客)、誉博	日本文学・文化の研究および海外への紹介・解説
-	平成15年	岩田靖夫	文学部	哲学、ギリシア倫理思想、特にプラトン、ソクラテス研究
-	平成15年	飯島澄男	科学計測研究所	高分解能電子顕微鏡の開発とカーボンナノチューブの発見
-	平成18年	伊藤英覚	高速力学研究所	曲がり管・回転管の流動における管摩擦抵抗法則の確立

## 日本学士院賞受賞者

学士院賞受賞	氏名	部局	受賞理由
第4回 (大正3年)	日下部 四郎太	理学部	岩石の力学的研究
第6回 (大正5年)	本多 光太郎	金属材料研究所	鉄に関する研究
第7回 (大正6年)	真島 利行	理学部	漆の主成分に関する研究
○第8回 (大正7年)	柴田 桂太	農科大学	植物界に於けるフラヴォン体の研究
○第9回 (大正8年)	石原 純	理学部	相対性原理、万有引力論及び量子論の研究
第9回 (大正8年)	市川 厚一	農学部	癌腫の人工的発生研究(共同研究)
○第11回 (大正10年)	布施 現之助	医学部	脳の解剖的研究
第11回 (大正10年)	松本 彦七郎	理学部	蛇尾綱(クモヒトデ)の研究
第15回 (大正14年)	畑井 新喜司	理学部	白鼠に関する研究
△第17回 (昭和2年)	村上 武次郎	金属材料研究所	特殊鋼の物理冶金学的研究
○第18回 (昭和3年)	掛谷 宗一	理学部	連立積分方程式及び之に関連せる函数論的研究
第21回 (昭和6年)	宇井 伯寿	法文学部	印度哲学研究(全六巻)
第21回 (昭和6年)	増本 量	金属材料研究所	強磁性元素及び其の合金の物理冶金学的研究
△第22回 (昭和7年)	宇田 新太郎	工学部	超短波長電波の研究
△第23回 (昭和8年)	野村 博	理学部	生薑の辛味成分の研究
第24回 (昭和9年)	田所 芳秋	理学部	耐火物に関する研究
第25回 (昭和10年)	海野 三朗	理学部	鉄炭素系合金の比熱及び其の諸相の変化に伴う熱量に関する研究
○第26回 (昭和11年)	吉田 富三	医学部	α-Amidoazotoluolの経口的投与による肝臓癌成生の実験的共同研究
△第26回 (昭和11年)	星野 敏雄	理学部	インドールの誘導体の合成的研究
第30回 (昭和15年)	菊田 多利男	臨時理化学研究所	鑄鉄の研究
○第31回 (昭和16年)	岡部 金治郎	工学部	磁電管に関する研究
第31回 (昭和16年)	尾形 輝太郎	理学部	感光色素合成に関する研究
第32回 (昭和17年)	茅 誠司	金属材料研究所	強磁性結晶体の磁気的研究
第33回 (昭和18年)	木原 玉汝	医学部	樟脳の強心作用の本態に関する研究(共同研究)
第34回 (昭和19年)	小竹 無二雄	理学部	薑毒の化学的研究
第34回 (昭和19年)	寺尾 博	農学研究所	水稻冷害の生理学的研究
○第36回 (昭和21年)	増本 量	金属材料研究所	異常特性を有する鉄合金の研究
第37回 (昭和22年)	真島 正市	理学部	高速衝撃破壊とこれに関連せる二三の現象
第40回 (昭和25年)	沼知 福三郎	高速力学研究所	翼型のキャビテーション性能に関する研究
第41回 (昭和26年)	小川 鼎三	医学部	錐体外路系に関する研究(共同研究)
第42回 (昭和27年)	鮫島 實三郎	理学部	膠質学に関する研究
第43回 (昭和28年)	金倉 圓照	文学部	印度中世精神史
第43回 (昭和28年)	野副 鐵男	理学部	ヒノキチオール及びその関連化合物に関する研究
第43回 (昭和28年)	成瀬 政男	工学部	歯車に関する研究(共同研究)
○第43回 (昭和28年)	吉田 富三	医学部	吉田肉腫の病理学的研究
第44回 (昭和29年)	本川 弘一	医学部	脳電図の研究
第45回 (昭和30年)	金倉 圓照	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第45回 (昭和30年)	山田 龍城	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第45回 (昭和30年)	羽田野 伯猷	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第45回 (昭和30年)	多田 等覬	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
第45回 (昭和30年)	赤堀 四郎	理学部	蛋白質を構成するアミノ酸の結合状態に関する研究
第46回 (昭和31年)	堀 一郎	文学部	我が国民間信仰史の研究
第47回 (昭和32年)	折茂 豊	法学部	国際私法の統一性
○第47回 (昭和32年)	中村 元	文学部	初期のヴェーダーンタ哲学
第49回 (昭和34年)	高田 修	文学部	居庸関(共同研究)
○第50回 (昭和35年)	高田 修	文学部	醍醐寺五重塔の壁画(共同研究)
○第50回 (昭和35年)	宮 次男	文学部	醍醐寺五重塔の壁画(共同研究)
第50回 (昭和35年)	神田 英蔵	金属材料研究所	低温度における凝縮気体の性質及び極低温における磁性の研究
第51回 (昭和36年)	佐藤 知雄	工学部	鉄鋼中の炭化物に関する研究
第51回 (昭和36年)	磯 永吉	農科大学	亜熱帯における稲の育種に関する研究
第53回 (昭和38年)	関口 春次郎	金属材料研究所	鋼の溶接棒ならびに炭酸ガス酸素アーク溶接法に関する研究
第57回 (昭和42年)	今井 勇之進	金属材料研究所	鉄鋼の熱処理加工に関する基礎研究

\*11ページにつづく

# ノーベル賞・文化勲章等 受賞者

## 日本学士院賞受賞者

受賞年度	氏名	部局	受賞理由
第58回 (昭和43年)	加藤 愛雄	理学部	地磁気の変化磁場の測定とその微細変動の原因に関する研究
第58回 (昭和43年)	神立 誠	農学研究所	反芻胃内消化に対する繊維虫類の機能に関する生化学的研究
第59回 (昭和44年)	宮田 光雄	法学部	西ドイツの精神構造
第59回 (昭和44年)	水島 宇三郎	農学部	ジュウジバナ科アブラナ類の核遺伝学的研究
第60回 (昭和45年)	山本 義一	理学部	大気放射の研究
第60回 (昭和45年)	広中 平祐	理学部	(併)代数的多様体の研究
第61回 (昭和46年)	横堀 武夫	工学部	金属材料の強度に関する研究(共同研究)
第62回 (昭和47年)	岡本 耕造	医学部	糖尿病と高血圧症の基礎的研究
第63回 (昭和48年)	西山 善次	金属材料研究所	合金のマルテンサイト変態に関する研究
第64回 (昭和49年)	西澤 潤一	電気通信研究所	半導体及びトランジスタに関する研究
第65回 (昭和50年)	北住 敏夫	文学部	写生説の研究、写生派歌人の研究、写生俳句及び写生文の研究
第65回 (昭和50年)	樋口 陽一	法学部	近代立憲主義と現代国家
第65回 (昭和50年)	伊藤 英覚	高速力学研究所	管内流れ特に曲がり管内の流れに関する流体力学的研究
第65回 (昭和50年)	久保田 尚志	理学部	植物の苦味物質に関する研究
※ 第67回 (昭和52年)	高橋 信次	医学部	X線による生体病理解剖の研究
第67回 (昭和52年)	島田 謹二	法文学部	日本における外国文学—比較文学研究—
第67回 (昭和52年)	赤祖父 俊一	理学部	磁気圏擾乱の研究
第69回 (昭和54年)	佐藤 武敏	法文学部	中国古代絹織物史研究
第70回 (昭和55年)	亀谷 哲治	薬学部	「レトロマススペクトル法」による天然物の全合成
第71回 (昭和56年)	木下 彰	経済学部	名子遺制の構造と崩壊—農村における封建的労働の構造分析—
※ 第72回 (昭和57年)	角谷 静夫	理学部	函数解析の研究
第73回 (昭和58年)	増本 健	金属材料研究所	アモルファス金属テープの創製とその基礎的および応用的研究
第77回 (昭和62年)	石田 名香雄	医学部	センダイウィルスの発見及びその構造と機能に関する研究
第77回 (昭和62年)	岩崎 俊一	電気通信研究所	高密度磁気記録の研究
第77回 (昭和62年)	坪井 善勝	工学部	曲面構造の研究と大空間建築構造への適用
◎ 第78回 (昭和63年)	沼田 眞	農学研究所	(併)植物群落の構造と動態に関する研究とその応用
※ 第79回 (平成元年)	日沼 頼夫	歯学部	成人T細胞白血病のウイルス病因に関する研究
※ 第80回 (平成2年)	中西 香爾	理学部	機能性天然有機化合物の構造および生体内機能発現に関する研究
第80回 (平成2年)	辻 廣	工学部	(併)火災の構造および基礎的特性的研究
第82回 (平成4年)	鈴木 秀次	金属材料研究所	固体ヘリウムの塑性変形及び機械的性質の転位論的研究
第83回 (平成5年)	山本 肇	歯学部	レーザー照射による齲蝕予防その他歯科応用に関する研究
第83回 (平成5年)	多田 啓也	医学部	高グリシン血症に関する研究(共同研究)
第83回 (平成5年)	菊地 吾郎	医学部	高グリシン血症に関する研究(共同研究)
※ 第84回 (平成6年)	櫻井 英樹	理学部	有機ケイ素化学に関する研究(共同研究)
第84回 (平成6年)	丸山 雍成	文学部	日本近世交通史の研究
第88回 (平成10年)	杉原 高嶺	法学部	国際司法裁判制度
※ 第92回 (平成14年)	飯島 澄男	科学計測研究所	高分解能電子顕微鏡の開発とカーボンナノチューブの発見
◎ 第92回 (平成14年)	栗原 康	理学部	生態系解析手法の研究とその環境保全への応用
第92回 (平成14年)	井上 明久	金属材料研究所	過冷却金属液体の安定化とバルク金属ガラスの開拓
第92回 (平成14年)	日向 康吉	農学部	アブラナ科植物の自家不和合性にかかわる自己識別機構の研究(共同研究)
第93回 (平成15年)	岡本 宏	医学部	実験糖尿病の発症とその防止に関する研究
第93回 (平成15年)	遠藤 貴	医学部	筋細胞におけるカルシウム・イオン動員機構に関する研究
※ 第94回 (平成16年)	安元 健	農学部	海洋生物毒の化学とそれらの毒物の海洋生態系における動態解析
第95回 (平成17年)	大野 英男	電気通信研究所	半導体ナノ構造による電子の量子制御と強磁性の研究(共同研究)
第96回 (平成18年)	鈴木 厚人	理学研究科	反ニュートリノ科学の研究
第97回 (平成19年)	加藤 康司	工学研究科	トライボロジーに関する研究(共同研究)
第97回 (平成19年)	平 朝彦	理学部	プレート沈み込み帯の付加作用による日本列島形成過程の研究

○は恩賜賞のみ受賞

※は恩賜賞及び学士院賞両方を受賞

◎日本学士院賞エジソンバラ公賞のみ受賞者

△日本学士院大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞のみ受賞者

## 学内表彰

### 総長特別賞受賞者

学術文化の発展に特に顕著な成果を挙げ、かつ、本学の教育研究の発展に多大な功績があった本学在職職員を表彰するものです。

受賞年月日	氏名	職名等	受賞理由
平成19年 3月27日	加藤 康 司	工学研究科教授	平成19年3月12日に「摩擦や磨耗、潤滑を包括するトライボロジーの研究」を受賞題目として、「平成19年日本学士院賞」の受賞が決定したため。
平成18年 9月25日	井上 明 久	金属材料研究所所長・教授	平成18年6月11日に「革新的金属材料『金属ガラス』を用いた産業用小型・高性能デバイスの開発」を対象として、「内閣総理大臣賞」を受賞したため。
平成18年 7月31日	小柳 光 正	工学研究科教授	平成18年6月24日に「材料とデバイス科学技術又は応用への多大な貢献」を対象として、「Jun-ichi Nishizawa Medal」を日本人として初めて受賞したため。
平成18年 3月24日	鈴木 厚 人	副学長・理学研究科教授	平成18年3月13日に「反ニュートリノ科学の研究」を受賞題目として、「平成18年日本学士院賞」の受賞が決定したため。
平成17年11月26日	小谷 元 子	理学研究科教授	平成17年5月28日に「離散幾何解析学による結晶格子の研究」を対象として、自然科学の分野で優れた業績を収めた女性科学者に贈られる「第25回独橋賞」を受賞したため。
平成17年 6月29日	大野 英 男	電気通信研究所教授	平成17年6月13日に「半導体ナノ構造による電子の量子制御と強磁性の研究」を対象として、「平成17年度日本学士院賞」を受賞したため。

### 総長教育賞受賞者

授業やその支援と、課外活動、国際交流等における指導、教育方法及びその支援等について優れた教育上の成果を挙げた教職員を表彰するものです。

#### 平成18年度

氏名	職名等	受賞理由
今井 秀 雄	情報科学研究科助教授	全学教育における優れた授業実践「授業の改善・工夫による学生からの高い授業評価」
佐々木 伸 樹	理学研究科助手	実験科目の教育方法改善「化学一般実験における実験内容の改良及び実験装置整備等の貢献」
大学院生態学合同講義世話人	生命科学 研究科	大学院における優れた授業実践「生態・環境をキーワードにした学際的視野構築の貢献」

#### 平成17年度

氏名	職名等
邑本 俊 亮	情報科学研究科助教授
小野田 泰 明	工学研究科助教授
情報探索マニュアル作成ワーキンググループ	附属 図書館

#### 平成16年度

氏名	職名等
融合型理科実験に向けてのワーキンググループ	理 学 研 究 科
渡会 祐 子	理学研究科教務補佐員
伊東 理 子	
貴田 勝 彦	歯学研究科技術補佐員

### 総長賞受賞者(平成18年度)

学業成績が特に優秀な学生を表彰するものです。

#### 学士

坂田 美 咲 文学部	阿子島 聡 志 工学部
渡辺 美 波 文学部	関根 宗一郎 工学部
池澤 璃 紗 教育学部	加藤 健太郎 工学部
角谷 美 緒 法学部	石田 仁 志 工学部
丹野 貴 之 法学部	大平 祐 介 工学部
佐藤 慧 経済学部	高井 興 工学部
高橋 資 経済学部	金野 宏 之 工学部
百島 雄 経済学部	伊藤 恒 平 工学部
高力 麻衣子 理学部	北島 陽 介 工学部
上原 悠 一 理学部	村松 優里香 農学部
渡邊 可奈子 理学部	尾形 旦 子 農学部
伊木 れい佳 医学部	
吉川 桃 子 歯学部	
大峰 健 薬学部	

#### 修士

上田 裕 法学研究科	大石 久 医学系研究科
新田 大 輔 理学研究科	島津 太 一 医学系研究科
畠本 拓 郎 理学研究科	鄧 雪 歯学研究科
丸田 佳 織 工学研究科	杉浦 寛 記 薬学研究科
難波 良 一 工学研究科	山崎 涉 工学研究科
榎本 賢 農学研究科	飯田 浩 司 工学研究科
榎 潤 健 一 情報科学研究科	武田 和 晃 工学研究科
	田中 宏 幸 工学研究科

#### 博士

大山 岩 根 文学研究科	車谷 麻 緒 工学研究科
井本 佳 宏 教育学研究科	横山 悟 国際文化研究科
八島 隆 之 経済学研究科	遠藤 諒 生命科学研究科
奥山 大 輔 理学研究科	渡邊 則 昭 環境科学研究科
前田 理 理学研究科	永山 貴 洋 教育情報学教育部



片平キャンパス



川内キャンパス

学内表彰

はじめに

沢柳賞受賞者

「沢柳賞（東北大学男女共同参画奨励賞）」は、東北大学における男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関連する研究や活動を行った人及び団体を表彰するものです。

平成18年度

氏名	職名等	受賞部門	受賞課題名
吉田 浩	経済学研究科助教授	研究部門	男女共同参画社会実現における政策効果に関する実証研究
遠山 智子	理学研究科教育研究支援者	活動部門	理学研究科での「女子学生支援の取り組み」
鈴木 美智子	理学研究科教育研究支援者		
玉江 京子	理学研究科助手	活動部門	子育てに関する女性医師のテーラーメイド勤務体系確立の試み
海老原 孝枝	病院「子育てに関する女性医師の会」代表	活動部門	子育てに関する女性医師のテーラーメイド勤務体系確立の試み
橋本 鮎市	教育学研究科助教授	プロジェクト部門	女性研究者のキャリア展開とその制度的環境

平成17年度

氏名	職名等	受賞部門
矢野 恵美	法学研究科21世紀COEセンター法・政策研究センター研究員	研究部門
石垣 政裕	経済学研究科助手	活動部門
畠山 正人	経済学研究科博士課程学生	プロジェクト部門
松崎 瑞美	文学研究科博士課程学生	プロジェクト部門(特別賞)

平成16年度

氏名	職名等	受賞部門
李 仁子	教育学研究科講師	研究部門
田代 亜紀	法学研究科大学院研究生	研究部門(特別賞)
亀井 あかね	情報科学研究科博士課程学生	活動部門
福土 審	医学系研究科教授	プロジェクト部門
三隅 多恵子	文学研究科博士課程学生	プロジェクト部門(特別賞)

東北大学藤野先生賞受賞者(魯迅賞)

学術交流を通じ東北大学の教育研究の発展に功績のあった中国人又は中国の団体を表彰するものです。

東北大学藤野先生賞

平成18年度該当なし

授賞年度	氏名	所属等
平成17年	孫 毅	北京魯迅博物館館長

東北大学魯迅賞

授賞年度	氏名	所属等
平成16年	顧 秉 林	清華大学総長

東北大学藤野先生記念奨励賞受賞者

東北大学に在籍する優秀な中国からの大学院留学生であって、今後飛躍的な活躍が期待される留学生を表彰するものです。

東北大学藤野先生記念奨励賞

授賞年度	氏名	部局
平成18年	覃 慧 玲	理学研究科
	杜 瑋	医学系研究科
	韓 峰	薬学研究科
	常 春 湧	工学研究科
	侯 旭 濱	生命科学研究科

授賞年度	氏名	部局
平成17年	薩 日 娜	文学研究科
	金 光 宇	経済学研究科
	代 紅 梅	医学系研究科
	俞 志 前	歯学研究科
	呂 晨	工学研究科

東北大学魯迅記念奨励賞

授賞年度	氏名	部局
平成16年	王 建 軍	工学研究科
	金 明 浩	経済学研究科
	蘭 利	医学系研究科
	馮 珏	薬学研究科

本多光太郎記念賞受賞者

国際学術交流を通じ、東北大学の教育研究の発展に功績のあった外国の個人又は団体を随時表彰するものです。

本多光太郎記念賞

授賞年度	氏名	国籍	所属等
平成18年	バトリック・ブジャン	フランス	国立中央理工学校リヨン校 学長
	ルノー財団		
	アルベール・プレヴォ	フランス	国際教育学研究センター 所長
	アラン・ストーク	フランス	国立応用科学院リヨン校 学長
	レオ・ヴァンサン	フランス	国立中央理工学校 国際交流部長
アラン・レザ・ヤバリ	フランス	グルノーブル国立総合技術研究所 教授	

平成17年度該当なし

授賞年度	氏名	国籍	所属等
平成16年	ジョン・ストラリー	イギリス	クランフィールド大学名誉教授
	リンゼイ・グリアー	イギリス	ケンブリッジ大学教授
	ロバート・ジェニングス卿	イギリス	元国際司法裁判所長官

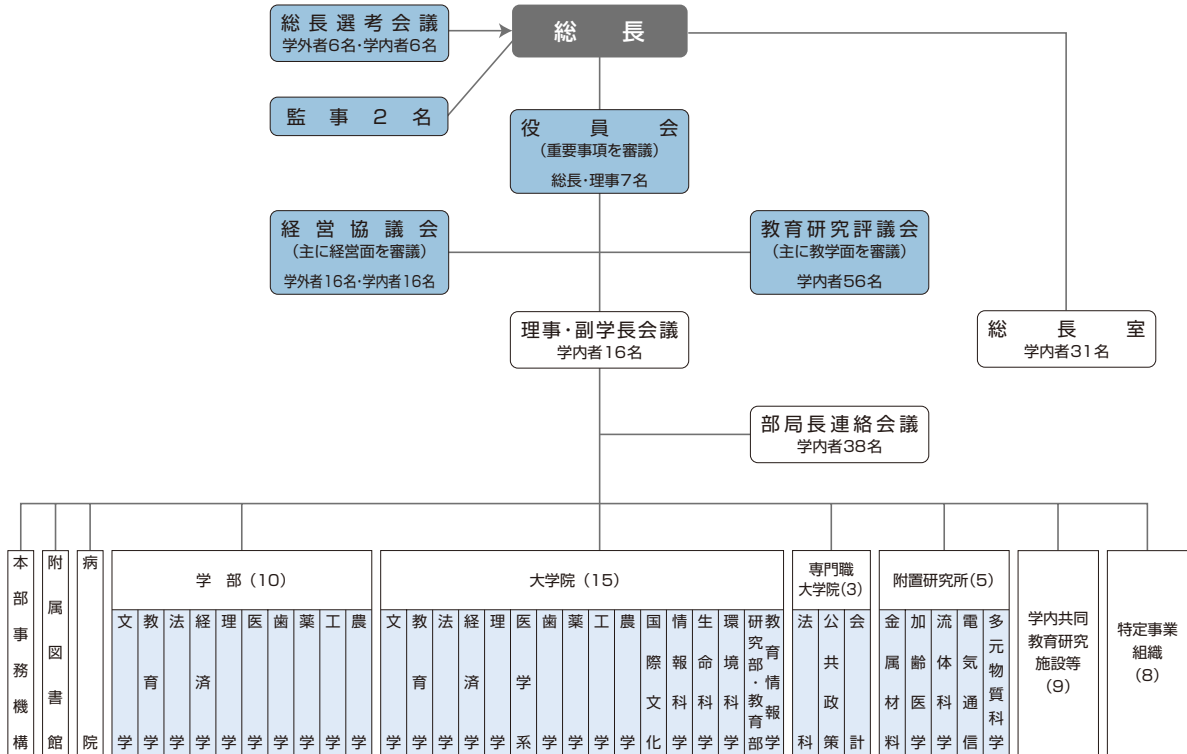
校友会長賞受賞者(平成18年度)

4年間の競技成績が優秀である当該年度卒業生を表彰するものです。

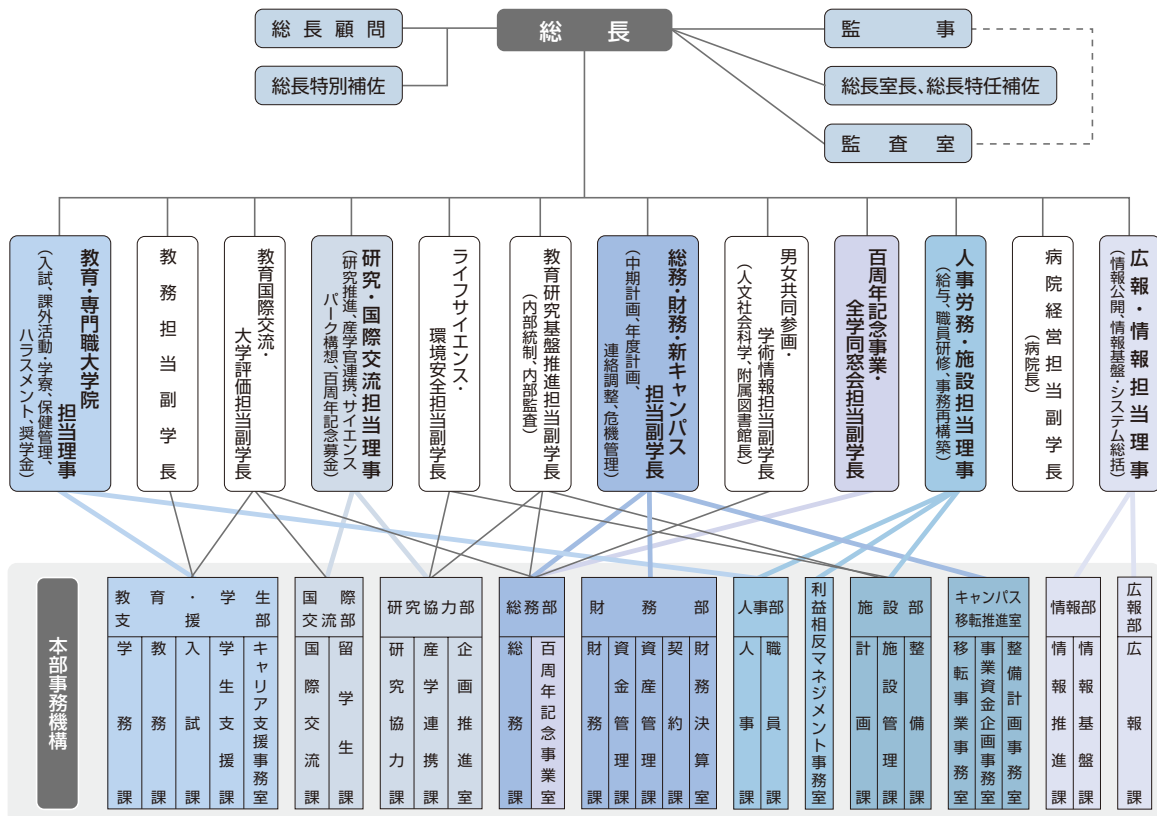
氏名	部・団体名	受賞理由
前田 真 吾	漕 艇 部	各大会にて優秀な成績を残したため。
木 全 智 彦	少 林 寺 拳 法 部	各大会にて優秀な成績を残したため。

# 組 織

運営組織



理事・副学長・本部事務機構



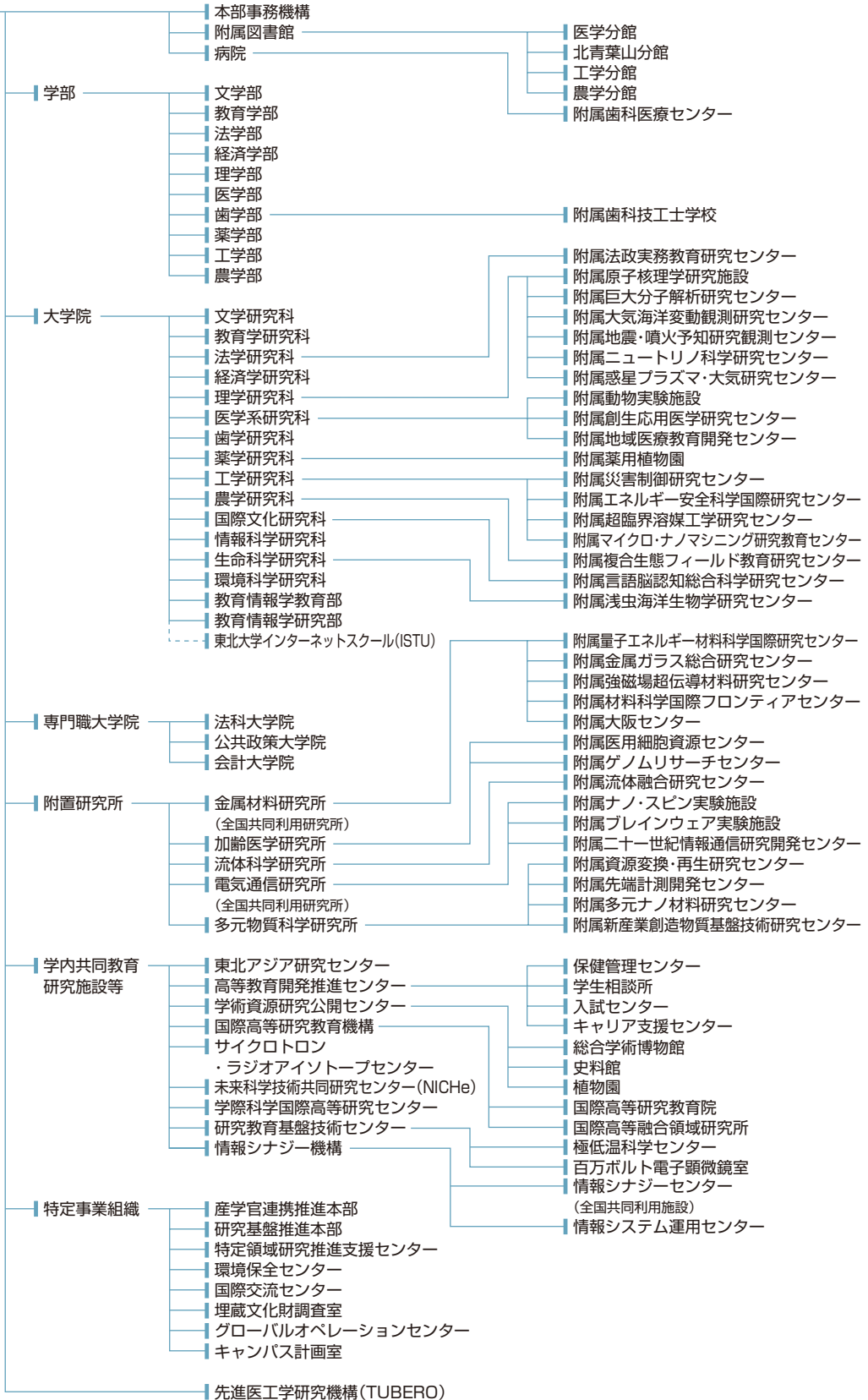


機構図

(2007年4月1日現在)

国立大学法人東北大学

東北大学



## 役員・主な役職者

総長	井上 明 久	総長特別補佐(利益相反マネジメント担当)	西 澤 昭 夫
理事(教育・専門職大学院担当)	植 木 俊 哉	総長特別補佐(百年史編集担当)	今 泉 隆 雄
理事(研究・国際交流担当)	庄 子 哲 雄	総長特別補佐(百周年記念事業担当)	圓 山 重 直
理事(広報・情報担当)	杉 山 一 彦	総長特別補佐(データベース担当)	曾 根 秀 昭
理事(人事労務・施設担当)	徳 重 眞 光	総長特別補佐(交通計画担当)	森 田 康 夫
理事(非常勤)	吉 川 弘 之	総長特別補佐(男女共同参画担当)	大 隅 典 子
理事(非常勤)	石 弘 光	総長特任補佐	大 淵 憲 一
理事(非常勤)	細 川 益 男	総長特任補佐	水 原 克 敏
監事	岡 本 宏	総長特任補佐	吉 田 浩
監事(非常勤)	西 川 知 雄	総長特任補佐	小 谷 元 子
総長室長・副学長(総務・財務・新キャンパス担当)	北 村 幸 久	総長特任補佐	伊 藤 貞 嘉
副学長(教務担当)	荒 井 克 弘	総長特任補佐	山 本 雅 之
副学長(教育国際交流・大学評価担当)	橋 本 治	総長特任補佐	菅 原 俊 二
副学長(ライフサイエンス・環境安全担当)	菅 村 和 夫	総長特任補佐	寺 崎 哲 也
副学長(男女共同参画・学術情報担当)	野 家 啓 一	総長特任補佐	岡 田 益 男
副学長(教育研究基盤推進担当)	渡 邊 誠	総長特任補佐	金 井 浩
副学長(病院経営担当)	里 見 進	総長特任補佐	原 山 優 子
副学長(百周年記念事業・全学同窓会担当)	大 西 仁	総長特任補佐	木 島 明 博
大学経営アドバイザー	吉 本 高 志	総長特任補佐	佐 藤 滋
施設マネジメントアドバイザー	萩 原 久 和	総長特任補佐	青 木 孝 文
総長顧問	リチャード・グッシャー	総長特任補佐	水 野 健 作
総長顧問	マサード・ベニア	総長特任補佐	圓 山 重 直
総長特別補佐(入試担当)	鴨 池 治	総長特任補佐	古 西 真
総長特別補佐(学生生活担当)	東 谷 篤 志	総長特任補佐	兵 頭 英 治
<b>■ 本 部</b>			
特任教授(大学経営担当)	兵 頭 英 治	資産管理課長	門 傳 孝
特任教授(大学経営担当)	佐 藤 義 幸	契約課長	小 野 信 夫
<b>【総長室】</b>		<b>【研究協力部】</b>	
総長室長	北 村 幸 久	研究協力課長	村 岡 利 光
総長室主任経営企画スタッフ	内 丸 幸 喜	産学連携課長	石 田 秀 明
総長室主任経営企画スタッフ(特任教授併任)	佐 藤 義 幸	企画推進室長(特任教授 併任)	佐 藤 義 幸
総長室主任経営企画スタッフ	齋 藤 仁	<b>【施設部】</b>	
総長室主任経営企画スタッフ	大 川 俊 治	施設部長	山 下 治
<b>【総務部】</b>		計画課長	川 田 裕
総務部長	大 友 久 雄	施設管理課長	長 井 一 夫
総務課長	武 田 良 正	整備課長	橋 本 和 昭
<b>【教育・学生支援部】</b>		<b>【広報部】</b>	
教育・学生支援部長	佐 藤 稔	広報部長(総務部長 併任)	大 友 久 雄
学務課長	根 川 博 信	広報課長	白 鳥 彦
教務課長	芳 賀 英 子	<b>【情報部】</b>	
入試課長	浅 沼 良 庸	情報部長(金研教授 併任)	川 添 良 幸
学生支援課長	坂 本 秀 敬	情報推進課長	秋 山 清
<b>【人事部】</b>		情報基盤課長	熊 谷 功
人事部長	石 山 俊 光	<b>【国際交流部】</b>	
人事課長	寺 中 哲 雄	国際交流部長	海 内 保 男
職員課長	石 井 俊 明	国際交流課長	門 脇 英 雄
<b>【財務部】</b>		留学生課長	吉 田 規 雄
財務部長	齊 藤 広 志	<b>【キャンパス移転推進室】</b>	
財務課長	山 口 顕	キャンパス移転推進室長	後 藤 勝
資金管理課長	鈴 木 英 一		
<b>■ 大学院研究科・学部等及び附属施設</b>			
<b>【文学研究科・文学部】</b>		<b>【教育学研究科・教育学部】</b>	
文学研究科長・文学部長	原 純 輔	教育学研究科長・教育学部長	細 川 徹
文学研究科副研究科長・文学部副学部長	大 淵 憲 一	教育学研究科副研究科長・教育学部副学部長	水 原 克 敏
文学研究科副研究科長・文学部副学部長	中 村 捷	事務長	板 橋 憲 雄
事務長	影 山 洋 正		

(2007年7月1日現在)

■ 大学院研究科・学部等及び附属施設			
【法学研究科・法学部】			
法学研究科長・法学部長	稲葉馨	薬用植物園長	大島吉輝
法学研究科副研究科長・法学部副学部長	水野紀子	事務長	菅原健士
法学研究科副研究科長・法学部副学部長	山元一	【工学研究科・工学部】	
法科大学院長	坂田宏	工学研究科長・工学部長	内田龍男
公共政策大学院長	澁谷雅弘	工学研究科副研究科長	山田宗慶
法政実務教育研究センター長	河上正二	工学研究科副研究科長	佐藤正明
事務長	齋藤文男	工学研究科副研究科長	岡田益男
【経済学研究科・経済学部】		災害制御研究センター長	真野明
経済学研究科長・経済学部長	日野秀逸	エネルギー安全科学国際研究センター長	橋田俊之
経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長	秋田次郎	超臨界溶媒工学研究センター長	猪股宏
経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長	平本厚	マイクロ・ナノマシニング研究教育センター長	江刺正喜
会計大学院長	青木雅明	事務部長	畠山正博
事務長	佐藤一永	総務課長	佐藤克義
【理学研究科・理学部】		教務課長	岩井憲彦
理学研究科長・理学部長	橋本治	経理課長	長谷川好則
理学研究科副研究科長	小園英雄	【農学研究科・農学部】	
理学研究科副研究科長	福村裕史	農学研究科長・農学部長	工藤昭彦
理学研究科副研究科長	今泉俊文	農学研究科副研究科長	山口高弘
原子核理学研究施設長	笠木治郎太	農学研究科副研究科長	宮澤陽夫
巨大分子解析研究センター長	平間正博	複合生態フィールド教育研究センター長	中井裕
大気海洋変動観測研究センター長	中澤高 清	附属複合生態フィールド教育研究センター副センター長	清和研二
地震・噴火予知観測センター長	長谷川 昭	附属複合生態フィールド教育研究センター副センター長	齋藤元也
ニュートリノ科学研究センター長	井上邦雄	事務長	吉田隆幸
惑星プラズマ・大気研究センター長	岡野章一	【国際文化研究科】	
事務長	工藤昌秋	国際文化研究科長	石幡直樹
【医学系研究科・医学部】		国際文化研究科副研究科長	小林文生
医学系研究科長・医学部長	菅村和夫	事務長	佐久間久雄
医学系研究科副研究科長・医学部副学部長	山本雅之	【情報科学研究科】	
医学系研究科副研究科長・医学部副学部長	岡芳知	情報科学研究科長	佐々木公明
医学部副学部長	進藤千代彦	情報科学研究科副研究科長	金子誠
動物実験施設長	笠井憲雪	情報科学研究科副研究科長	西関隆夫
創生応用医学研究センター長	北本哲之	事務長	佐藤清幸
地域医療教育開発センター長	伊藤恒敏	【生命科学研究科】	
事務長	高橋秀市	生命科学研究科長	飯島敏夫
【歯学研究科・歯学部】		生命科学研究科副研究科長	水野健作
歯学研究科長・歯学部長	渡邊誠	浅虫海洋生物学研究センター長	大島泰克
歯学研究科副研究科長・歯学部副学部長	佐々木啓一	事務長	門脇豊
歯学研究科副研究科長・歯学部副学部長	高橋信博	【環境科学研究科】	
歯科技工士学校長	小松正志	環境科学研究科長	谷口尚司
事務長	大庭利正	環境科学研究科副研究科長	木村喜博
【薬学研究科・薬学部】		【教育情報学教育部】	
薬学研究科長・薬学部長	竹内英夫	教育情報学教育部長	岩崎信
薬学研究科副研究科長・薬学部副学部長	榎本武美	【教育情報学研究部】	
■ 附置研究所及び附属施設		教育情報学研究部長	岩崎信
【金属材料研究所】		【加齢医学研究所】	
金属材料研究所長	中嶋一雄	総務課長	鈴木孝
金属材料研究所副研究所長	前川禎通	経理課長	邊見裕
金属材料研究所副研究所長	後藤孝	【加齢医学研究所】	
量子エネルギー材料科学国際研究センター長	四電樹男	加齢医学研究所長	福田寛
金属ガラス総合研究センター長	後藤孝	加齢医学研究所副研究所長	佐竹正延
強磁場超伝導材料研究センター長	小林典男	医用細胞資源センター長	佐藤靖史
材料科学国際フロンティアセンター長	櫻井利夫	ゲノムリサーチセンター長	安井明
金属材料研究所附属研究施設大阪センター長	今野豊彦	事務長	高橋豊志
事務部長	渋谷幸雄	【流体科学研究所】	
		流体科学研究所長	井小萩利明

# 役員・主な役職者

(2007年7月1日現在)

組織

■ 附置研究所及び附属施設			
流体科学研究所副研究所長	西山 秀哉	経理課長	佐藤 巖
流体融合研究センター長	早瀬 敏幸	【多元物質科学研究所】	
事務長	小林 忠雄	多元物質科学研究所長	齋藤 文良
【電気通信研究所】		多元物質科学研究所副研究所長	野田 幸男
電気通信研究所長	矢野 雅文	多元物質科学研究所副研究所長	宮下 徳治
電気通信研究所副研究所長	庭野 道夫	資源変換・再生研究センター長	中村 崇
電気通信研究所副研究所長	鈴木 陽一	附属先端計測開発センター長	進藤 大輔
ナノ・スピン実験施設長	大野 英男	多元ナノ材料研究センター長	村松 淳司
ブレインウェア実験施設長	中島 康治	新産業創造物質基盤技術研究センター長	宮下 徳治
21世紀情報通信研究開発センター長	坪内 和夫	事務部長	安島 民夫
事務部長	西田 均	総務課長	二階堂 功
総務課長	阿部 竹廣	経理課長	丸山 正彦
■ 附属図書館及び分館			
図書館長	野家 啓一	医学分館長	佐藤 洋
事務部長	北村 明久	事務長	山越 隆男
総務課長	加藤 信哉	北青葉山分館長	高木 泉
情報管理課長	白井 克巳	工学分館長	阿曾 弘具
情報サービス課長	横山 敏秋	農学分館長	池上 正人
附属図書館副館長	倉本 義夫		
■ 病院			
病院長	里見 進	事務部長	長谷山 則夫
総括副病院長	笹野 高嗣	総務課長	山内 克也
副病院長	岡村 州博	経営管理課長	高橋 正幸
副病院長	糸山 泰人	経理課長	田屋 修一
副病院長	荒井 陽一	医事課長	八木巻 一男
副病院長	川村 仁	医療サービス課長	長井 孝行
副病院長	島内 英俊		
■ 学内共同教育研究施設等			
東北アジア研究センター長	瀬川 昌久	国際高等研究教育院長	井原 聰
東北アジア研究センター副センター長	岡 洋樹	国際高等融合領域研究所長	井小萩 利明
東北アジア研究センター副センター長	菊地 永祐	サイクロトロン・ラジオ・アイソトープセンター長	石井 慶造
高等教育開発推進センター長	荒井 克弘	未来科学技術共同研究センター長	中島 一郎
高等教育開発推進センター副センター長	花輪 公雄	未来科学技術共同研究センター副センター長	西澤 昭夫
保健管理センター所長	飛田 渉	未来科学技術共同研究センター副センター長	長谷川 史彦
保健管理センター副所長	大原 秀一	未来科学技術共同研究センター副センター長	内丸 幸喜
学生相談所長	荒井 克弘	学際科学国際高等研究センター長	中嶋 一雄
入試センター長	鴨池 治	研究教育基盤技術センター長	山本 嘉則
キャリア支援センター長	荒井 克弘	極低温科学センター長	青木 晴善
学術資源研究公開センター長	鈴木 三男	百万ボルト電子顕微鏡室長	今野 豊彦
総合学術博物館長	永廣 昌之	情報シナジー機構長	杉山 一彦
史料館長	今泉 隆雄	情報シナジー機構副機構長	川添 良幸
史料館副館長	倉本 義夫	情報シナジーセンター長	川添 良幸
植物園長	鈴木 三男	情報シナジーセンター副センター長	曾根 秀昭
国際高等研究教育機構長	渡邊 誠	情報シナジーセンター副センター長	小林 広明
■ 特定事業組織			
産学官連携推進本部長	庄子 哲雄	国際交流センター副センター長	重野 芳人
研究基盤推進本部長	渡邊 誠	埋蔵文化財調査研究室長	阿子島 香
特定領域研究推進支援センター長	庄子 哲雄	グローバルオペレーションセンター長	庄子 哲雄
環境保全センター長	山田 宗慶	キャンパス計画室長	杉山 丞
国際交流センター長	庄子 哲雄		
■ 先進医工学研究機構			
先進医工学研究機構長	玉井 信	先進医工学研究機構副機構長	菅村 和夫
先進医工学研究機構副機構長	内田 龍男		

# 総長選考会議・役員会・経営協議会・教育研究評議会

(2007年6月1日現在)

## 総長選考会議

学外委員	
赤祖父 俊一	アラスカ大学国際北極圏研究センター名誉所長
小田 滋	弁護士 日本学士院会員 前国際司法裁判所裁判官
岸 輝雄	独立行政法人物質・材料研究機構理事長
中村 久三	株式会社アルバック代表取締役会長
八島 俊章	社団法人東北経済連合会名誉会長
山野井 昭雄	味の素株式会社顧問

学内委員	
荒井 克弘	副学長
橋本 治	副学長
菅村 和夫	副学長
稲葉 馨	法学研究科長
内田 龍男	工学研究科長
井小萩 利明	流体科学研究所長

## 役員会

井上 明久	総長
植木 俊哉	理事
庄子 哲雄	理事
杉山 一彦	理事

徳重 眞光	理事
吉川 弘之	理事
石 弘光	理事
細川 益男	理事

## 経営協議会

学外委員	
赤祖父 俊一	アラスカ大学国際北極圏研究センター名誉所長
安西 祐一郎	慶應義塾長
梅原 克彦	仙台市長
小田 滋	弁護士 日本学士院会員 前国際司法裁判所裁判官
小野 元之	独立行政法人日本学術振興会理事長
小野 寺正	KDDI株式会社代表取締役社長兼会長
岸 輝雄	独立行政法人物質・材料研究機構理事長
黒田 玲子	東京大学大学院総合文化研究科教授
杉田 亮毅	株式会社日本経済新聞社代表取締役社長
清野 智	東日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長
リチャード・ダッシャー	スタンフォード大学工学部 アジア・米国技術経営研究センター所長
遠山 敦子	財団法人新国立劇場運営財団理事長 元文部科学大臣
中村 久三	株式会社アルバック代表取締役会長
村井 嘉浩	宮城県知事
八島 俊章	社団法人東北経済連合会名誉会長
山野井 昭雄	味の素株式会社顧問

学内委員	
井上 明久	総長
植木 俊哉	理事
庄子 哲雄	理事
杉山 一彦	理事
徳重 眞光	理事
吉川 弘之	理事
石 弘光	理事
北村 幸久	副学長(総長室長)
荒井 克弘	副学長
橋本 治	副学長(理学研究科長)
菅村 和夫	副学長(医学系研究科長)
野家 啓一	副学長
渡邊 誠	副学長(歯学研究科長)
里見 進	副学長(病院長)
内田 龍男	工学研究科長
井小萩 利明	流体科学研究所長

## 教育研究評議会

井上 明久	総長	日野 秀逸	経済学研究科長	花輪 公雄	理学研究科教授
植木 俊哉	理事	竹内 英夫	薬学研究科長	岡 芳知	医学系研究科教授
庄子 哲雄	理事	内田 龍男	工学研究科長	高田 春比古	歯学研究科教授
杉山 一彦	理事	工藤 昭彦	農学研究科長	永沼 章	薬学研究科教授
徳重 眞光	理事	石幡 直樹	国際文化研究科長	澤谷 邦男	工学研究科教授
吉川 弘之	理事	佐々木 公明	情報科学研究科長	山口 高弘	農学研究科教授
石 弘光	理事	飯島 敏夫	生命科学研究所長	小林 文生	国際文化研究科教授
細川 益男	理事	谷口 尚司	環境科学研究科長	西関 隆夫	情報科学研究科教授
北村 幸久	副学長(総長室長)	中嶋 一雄	金属材料研究所長	高橋 秀幸	生命科学研究所教授
荒井 克弘	副学長	福田 寛	加齢医学研究所長	木村 喜博	環境科学研究科教授
橋本 治	副学長(理学研究科長)	井小萩 利明	流体科学研究所長	前川 禎通	金属材料研究所教授
菅村 和夫	副学長(医学系研究科長)	矢野 雅文	電気通信研究所長	安井 明	加齢医学研究所教授
野家 啓一	副学長	齋藤 文良	多元物質科学研究所長	圓山 重直	流体科学研究所教授
渡邊 誠	副学長(歯学研究科長)	岩崎 信	教育情報学研究部長	大野 英男	電気通信研究所教授
里見 進	副学長(病院長)	瀬川 昌久	東北アジア研究センター長	野田 幸男	多元物質科学研究所教授
大西 仁	副学長	中村 捷	文学研究科教授	笹野 高嗣	病院総括副病院長
原 純輔	文学研究科長	宮腰 英一	教育学研究科教授	飛田 渉	教育基盤施設群教授
細川 徹	教育学研究科長	芹澤 英明	法学研究科教授	石井 慶造	学術基盤施設群教授
稲葉 馨	法学研究科長	秋田 次郎	経済学研究科教授		

# 役員・職員数

(2007年5月1日現在)

部 局	職 種	総長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	助手	教員 小計	事務・技術 職員等	計
総長		1								1		1
理事			4 (3)							4 (3)		7
監事				1 (1)						1 (1)		2
総長室										0	3	3
本部事務機構	総務部							1		1	28	29
	教育・学生支援部									0	68	68
	人事部									0	48	48
	財務部									0	70	70
	研究協力部									0	21	21
	施設部									0	46	46
	広報部									0	7	7
	情報部									0	35	35
	国際交流部									0	17	17
	利益相反マネジメント事務局									0	1	1
	事業資金企画室									0	3	3
	キャンパス移転事業室									0	4	4
	監査室									0	6	6
文学研究科・文学部					47	24	8	17		96	17	113
教育研究科・教育学部					19	10	1	2		32	11	43
法学研究科・法学部					27	23	1	5	9	65	16	81
経済学研究科・経済学部					40	20	2		5	67	15	82
理学研究科・理学部					85	75	8	115	3	286	102	388
医学系研究科・医学部					96	73	14	97		280	56	336
先進医工学研究機構					10	12		15		37		37
歯学研究科・歯学部					23	7	8	58		96	25	121
歯学部附属歯科技工士学校							3			3		3
薬学研究科・薬学部					17	15	3	22	10	67	17	84
工学研究科・工学部					116	103	5	114	17	355	195	550
農学研究科・農学部					38	35		28	7	108	61	169
国際文化研究科					26	25				51	10	61
情報科学研究科					37	27	7	23		94	14	108
生命科学研究科					25	22	2	21		70	19	89
環境科学研究科					23	13	2	20		58	5	63
教育情報学研究部					3	4		3		10	0	10
金属材料研究所					27	33	3	64	3	130	92	222
加齢医学研究所					17	8	2	22		49	20	69
流体科学研究所					17	9	2	13		41	26	67
電気通信研究所					24	17		29		70	31	101
多元物質科学研究所					47	25	4	66		142	77	219
図書館	本館									0	25	25
	医学分館									0	9	9
	北青葉山分館									0	4	4
	工学分館									0	11	11
	農学分館									0	3	3
病院					5	18	64	213		300	1,432	1,732
東北アジア研究センター					12	6		5	1	24	0	24
高等教育開発推進センター					14	14	12	18	4	62	13	75
学術資源研究公開センター					3	3		7		13	6	19
国際高等研究教育機構								8		8	2	10
サイクロトロン・RIセンター					5	2		3	3	13	1	14
未来科学技術共同研究センター					9	1	2		2	14	4	18
学際科学国際高等研究センター					3	4				7	1	8
情報シナジー機構					4	4		1		9		9
産学官連携推進本部						1		1		2	2	4
特定領域研究推進支援センター						4		2	3	9	3	12
環境保全センター								1	2	3		3
国際交流センター					2	1				3		3
埋蔵文化財調査室										0	4	4
グローバルオペレーションセンター										0	2	2
キャンパス計画室										0	3	3
合 計		1	4 (3)	1 (1)	821	638	153	994	69	2,685	2,691	5,376

※休職者含む

※評価分析室職員は総務部に含める

※ ( ) は非常勤で外数

## 学部

学部	学科	学科目数	学科目
文学部 1学科5学科目	人 文 社 会 学 科	5	日本文化、東洋文化、西洋文化、人間文化、社会文化
教育学部 1学科2学科目	教 育 科 学 科	2	教育学、教育心理学
法学部 1学科1学科目	法 学 科	1	法学・政治学
経済学部 2学科6学科目	経 済 学 科	3	基礎理論、応用経済、経済史
	経 営 学 科	3	経営学、会計学、統計・数理科学
理学部 7学科7学科目	数 学 科	1	数学
	物 理 学 科	1	物理学
	宇 宙 地 球 物 理 学 科	1	宇宙地球物理学
	化 学 科	1	化学
	地 図 環 境 科 学 科	1	地図環境科学
	地 球 物 質 科 学 科	1	地球物質科学
	生 物 学 科	1	生物学
医学部 2学科15学科目 7講座	医 学 科	15	人体発生・構造学、分子生物・生化学、生理学、薬理学、病理学、感染・免疫学、内科学、外科学、小児科学、精神医学、皮膚科学、泌尿・産婦人科学、感覚器病学、麻酔・救急医学、社会医学
	保 健 学 科	7 (講座)	基礎看護学、臨床看護学、地域保健看護学、放射線基礎技術学、放射線医療技術学、基礎検査学、臨床検査学
歯学部 1学科5学科目	歯 学 科	5	口腔基礎生物学、解剖生理歯科学、口腔機能再建学、口腔保健発育学、口腔病態基礎外科学
薬学部 2学科2学科目	薬 学 科	1	薬学
	創 薬 科 学 科	1	創薬科学
工学部 5学科47学科目	機 械 知 能 ・ 航 空 工 学 科	15	知的デザイン学、エネルギーシステム工学、材料メカニクス、ナノテクノロジー、シミュレーション科学、スペーステクノロジー、原子核システム安全工学、エネルギー物理学、粒子ビーム工学、バイオメカニクス、ロボティクス、太陽地球システム・エネルギー学、自然共生システム学、資源循環プロセス学、環境創成計画学
	情 報 知 能 シ ス テ ム 総 合 学 科	11	電磁工学、電力システム工学、通信システム工学、波動通信工学、電子物性工学、電子システム工学、計算機基礎工学、知能情報処理工学、システム情報工学、応用物性物理学、応用材料物理学
	化 学 ・ バ イ オ 工 学 科	8	環境資源化学、分子システム化学、有機材料合成化学、量子無機材料化学、プロセス要素工学、プロセスシステム工学、生体分子化学、生体機能化学
	材 料 科 学 総 合 学 科	7	創形創質プロセス学、宇宙材料学、材料環境学、ナノ材料物性学、情報デバイス材料学、マイクロシステム学、生体材料システム学
	建 築 ・ 社 会 環 境 工 学 科	6	基盤構造材料学、社会基盤構造学、水環境学、地域システム学、建築計画学、建築構成学
農学部 2学科13学科目	生 物 生 産 科 学 科	8	植物生産科学、植物適応形質学、農業資源経済学、動物資源開発学、動物生命科学、動物資源機能学、水圏生物機能学、水圏動物生産科学
	応 用 生 物 化 学 科	5	分子生物学、生物化学、植物分子生理学、生命有機化学、食品機能科学

文学研究科

専攻
文化科学
言語科学
歴史科学
人間科学

講座数
5
3
6
5

講座
日本文化学、中国文化学、インド文化学、西洋文化学、哲学
言語学、日本語学、日本語教育学
日本史学、東洋史学、ヨーロッパ史学、美術史学、○比較文化学、※文化財科学
社会学、行動科学、心理学、人間文化科学、○科学技術論

教育学研究科

専攻
総合教育科学

講座数
5

講座
人間形成論、教育政策科学、成人継続教育論、教授学習科学、人間発達臨床科学

法学研究科

専攻
綜合法制（法科大学院）
公共法政策（公共政策大学院）
法政理論研究（研究大学院）

講座数
3
2
3

講座
現代市民法、現代企業法、比較法社会論
行政法政策、ガバナンス研究
トランスナショナル法、グローバル政治分析、グローバル法文化分析

経済学研究科

専攻
経済経営学
会計専門職（会計大学院）

講座数
9
4

講座
経済基盤、経営基盤、現代経済、システム科学、現代経営、医療福祉、地域政策、グローバルシステム、◎中小企業政策(中小機構)
会計、経済と経営、ITと統計、法と倫理

理学研究科

専攻
数学
物理学
天文学
地球物理学
化学
地学

講座数
5
16
2
7
11
7

講座
代数学、幾何学、解析学、多様体論、応用数論
量子基礎物理学、素粒子・核物理学、電子物理学、量子物性物理学、固体統計物理学、相関物理学、領域横断物理学、○原子核理学、○高エネルギー物理学、○結晶物理学、○金属物理学、○分光物理学、○核放射線物理学、※加速器科学、※アクトノイド物理、※量子計測
天文学、理論天体物理学
固体地球物理学、太陽惑星空間物理学、流体地球物理学、地球環境物理学、○地殻物理学、○惑星圏物理学、※固体地球物理学
無機・分析化学、有機化学、物理化学、境界領域化学、先端理化学、○生体機能化学、○化学反応解析、○固体化学、※分離化学、※重元素化学、◎分子変換学(サンアロイ)
地圏進化学、環境地理学、地球惑星物質科学、環境動態論、比較固体惑星学、※地圏物質循環学、※地球内部反応

医学系研究科

専攻
医科学
障害科学

講座数
24
2

講座
細胞生物学、生体機能学、病理病態学、内科病態学、発生・発達医学、外科病態学、神経・感覚器病態学、社会医学、○医用動物学、○分化・発達医学、○臓器病態学、○腫瘍制御学、○加齢脳・神経学、○遺伝子制御学、○サイクロトロン核医学、※分子・神経イメージング、※がん医科学、◎先端再生生命科学(江東微生物研究所)、◎先進漢方治療医学(ツムラ)、◎血液病理学(協和発酵工業・ミント)、◎腎不全対策研究(アステラス製薬)、◎地域医療システム学(宮城県)、◎循環器先端医療開発学(日本光電)、◎多発性硬化症治療学(日本シェリング)
機能医科学、◎高齢者高次脳医学

歯学研究科

専攻
歯科学

講座数
10

講座
口腔生物学、口腔機能形態学、口腔修復学、口腔保健発育学、口腔病態外科学、顎口腔建学、○口腔腫瘍病態学、※難治疾患・口腔免疫学、※長寿口腔科学、◎歯科医薬品創生学

薬学研究科

専攻
創薬化学
医療薬科学
生命薬学

講座数
2
5
3

講座
分子制御化学、分子解析化学
機能解析薬学、医療薬学、○病態分子薬学、○天然資源薬学、◎医薬開発構想
生態情報薬学、○分子動態解析学、※分子イメージング薬学

工学研究科

専攻
機械システムデザイン工学
ナノメカニクス
航空宇宙工学
量子エネルギー工学
電気・通信工学
電子工学
応用物理学

講座数
7
7
5
9
9
7
5

講座
知能システム工学、先進機械システムデザイン工学、知的デザイン学、エネルギーシステム工学、○破壊機構学、○知能流体システム学、○多元物質応用システム工学
ナノシステム工学、先進ナノメカニクス、材料メカニクス、ナノテクノロジー、○破壊予知学、○ナノ流動学、○表面ナノ物理計測制御学
航空宇宙システム工学、先進航空宇宙工学、シミュレーション科学、スペーステクノロジー、○航空宇宙流体工学
先進原子核工学、原子核システム安全工学、エネルギー理工学、粒子ビーム工学、○エネルギー材料工学、○エネルギー化学工学、○量子物性工学、○加速器放射線工学、※分子イメージング工学
知的通信ネットワーク工学、電磁工学、電力システム工学、通信システム工学、波動工学、○電磁材料工学、○伝送工学、◎先端電力工学(東北電力)、◎先端応用量子光学(光電製作所ハーモニック・ドライブ・システムズ)
超微細電子工学、電子制御工学、物性工学、電子システム工学、○電子デバイス工学、○電子材料工学、○極限表面制御工学
応用界面物理学、応用物性物理学、応用材料物理学、○低温電子材料物性学、○電子・分光計測学



工学研究科

専攻	講座数	講座
応用化学	5	原子・分子制御工学、環境資源化学、分子システム化学、○反応設計学、○コンビナトリアル計算化学(変化システム、ペガサスソフトウェア)
化学工学	4	プロセス解析工学、プロセス要素工学、プロセスシステム工学、○反応分離プロセス
バイオ工学	4	応用生命化学、生体分子化学、生体機能化学、○生物有機化学
金属フロンティア工学	5	金属プロセス工学、創形創質プロセス学、先端マテリアル物理化学、○プロセス設計学、○プロセス制御学
知能デバイス材料学	6	材料電子化学、ナノ材料物性学、情報デバイス材料学、○ナノ構造物質工学、○物質機能創製学、○材料表面機能制御学
材料システム工学	5	接合界面制御学、マイクロシステム学、生体材料システム学、○物質構造評価学、○材料機能制御プロセス学
土木工学	5	数値システム設計学、基盤構造材料学、社会基盤構造学、水環境学、地域システム学
都市・建築学	4	都市・建築デザイン学、都市・建築計画学、サステナブル空間構成学、建築構造工学
技術社会システム	2	実践技術経営融合、先端社会工学
バイオロボティクス	7	バイオマイクロマシン工学、バイオデバイス工学、先進バイオロボティクス、バイオメカニクス、ロボティクス、○損傷計測学、○知的メカノシステム工学

農学研究科

専攻	講座数	講座
資源生物学	6	植物生産科学、動物生産科学、水圏生物生産科学、資源環境経済学、○沿岸生物生産システム学、○栽培植物環境科学
応用生命科学	5	環境生命科学、植物機能科学、動物機能科学、分子細胞科学、○応用遺伝子工学
生物産業創成科学	6	微生物機能開発科学、食品機能健康科学、天然物生物機能科学、生物産業情報科学、※蛋白質機能開発、○テラヘルツ生物学(竹本油脂・ミツカン)

国際文化研究科

専攻	講座数	講座
国際地域文化論	5	アジア文化論、ヨーロッパ文化論、アメリカ研究、イスラム圏研究、比較文化論
国際文化交流論	7	言語機能論、言語コミュニケーション論、経済交流論、科学技術交流論、○言語文化交流論、○異文化間教育論、○国際資源政策論
国際文化言語論	5	言語生成論、言語システム論、多元言語文化社会論、言語応用論、言語教育体系論

情報科学研究科

専攻	講座数	講座
情報基礎科学	9	情報基礎数理学、情報応用数理学、計算科学、ソフトウェア科学、○情報論理学、○コミュニケーション論、○超高速情報処理論、○情報セキュリティ論、○広域情報処理論
システム情報科学	9	システム情報数理学、知能情報科学、生体システム情報学、知能ロボティクス学、○音情報科学、○高次視覚情報学、○情報コンテンツ学、○融合流体情報学、○ソフトウェア構成論
人間社会情報科学	5	人間情報学、社会政治情報学、社会経済情報学、人間社会計画学、メディア情報学
応用情報科学	9	応用情報技術論、応用生命情報学、○情報通信ソフトウェア学、○情報ネットワーク論、○流動システム情報学、○ブレインファンクション集積学、○健康情報学、※複雑系統計科学、◎先端情報交換技術論(KDDI)

生命科学研究科

専攻	講座数	講座
分子生命科学	3	生命有機情報科学、遺伝子システム学、○生体機能分子科学
生命機能科学	4	細胞機能構築統御学、脳機能解析構築学、○細胞シグナル機構学、○分化制御学
生態システム生命科学	5	環境遺伝生態学、進化生態科学、○植物構造機能進化学、○地域生態学、※ゲノム生態学

環境科学研究科

専攻	講座数	講座
環境科学	14	都市環境・環境地理学、国際環境・地域環境学、太陽地球システム・エネルギー学、自然共生システム学、資源循環プロセス学、環境創成計画学、○地殻環境システム創成学、○東北アジア地域社会論、○東北アジア地域文化論、○環境材料物理化学、○環境システム材料学、※環境適合材料創製学、※地球環境変動学、◎環境物質制御学(同和鉱業)

教育部  
教育情報学  
教育部

専攻	講座数	講座
教育情報学	2	IT教育デザイン論、IT教育ネットワーク論

研究部  
教育情報学  
研究部

部門数	研究部門
5	IT教育システム原論、IT教育認知科学、IT教育アーキテクチャー、IT教育応用実践論、△比較IT教育論

専門職大学院

専攻	講座数	講座
法科大学院	3	現代市民法、現代企業法、比較法社会論
公共政策大学院	2	行政法政策、ガバナンス研究
会計大学院	4	会計、経済と経営、ITと統計、法と倫理

(注) ○は協力講座を、※は連携講座を、◎は寄附講座を、△は客員研究部門を表す。

## ■ 附置研究所

研究所	部門数	研究目的及びその研究部門
金属材料研究所 (全国共同利用研究所)	28	材料科学に関する学理及びその応用の研究 金属材料学、結晶物理学、磁気物理学、量子表面界面科学、低温物理学、低温電子物性学、放射線金属物理学、※材質制御学、結晶欠陥物性学、高純度金属材料学、計算材料学、材料照射工学、原子力材料物性学、原子力材料工学、電子材料物性学、※材料設計学、ランダム構造物質学、生体材料学、超構造薄膜化学、非平衡物質工学、磁性材料学、結晶材料化学、特殊耐熱材料学、複合機能材料学、加工プロセス工学、放射線金属化学、※材料プロセス評価学、◎ナノ金属高温材料学
加齢医学研究所	7	加齢医学に関する学理及びその応用の研究 遺伝子制御、分化・発達医学、臓器病態、腫瘍制御、加齢脳・神経、◎臨床医工学(フクダ電子) ◎抗感染症薬開発
流体科学研究所	4	流動現象に関する学理及びその応用の研究 極限流、知能流システム、マイクロ熱流動、複雑系流動
電気通信研究所 (全国共同利用研究所)	4	高密度及び高次の情報通信に関する学理並びにその応用の研究 情報デバイス、ブロードバンド工学、人間情報システム、システム・ソフトウェア
多元物質科学研究所	7	多元的な物質に関する学理及びその応用の研究 多元設計、多元制御、多元解析、融合システム、◎窒化物結晶(三菱化学・日本製鋼所)、◎有機ナノ結晶科学技術(富士写真フイルム)、◎先端圧電セラミックス(富士セラミックス)

※は客員研究部門を、◎は寄附研究部門を表す。

## ■ 学内共同教育研究施設等

施設名	設置目的
東北アジア研究センター	東北アジア(東アジア及び北アジア並びに日本をいう。)地域に関する地域研究を学際的及び総合的に行う。
高等教育開発推進センター	高等教育等に関する研究開発、企画及び支援を行うとともに、併せて教育内容及び教育方法の高度化を推進する。
学術資源研究公開センター	標本、本学の歴史に関する資料その他の本学が所蔵する学術資料の収集及び保管、植物園の敷地内に生育する生物資源の保全並びに学術資料及び生物資源に関する研究を行い、もって学内の教育研究に資するとともに、広く一般に公開して社会教育の振興に寄与する。
国際高等研究教育機構	異分野の融合領域における新たな研究分野の創出並びにその学理及び応用の研究並びに国際的に通用する若手研究者の養成の推進を図り、もって本学の研究教育の高度化に資する。
サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	サイクロトロン設備を多目的利用に供し、高レベル及び短寿命のラジオアイソトープの取扱設備を共用させるとともに、放射線の安全管理に係る全学的業務を行い、併せて加速器並びに測定器に係る原子核物理学、核薬学、サイクロトロン核医学及び放射線管理に関する研究開発を行う。
未来科学技術共同研究センター	社会の要請に応える新しい技術・製品の実用化並びに新しい産業の創出を社会へ提案することを目指し、産業界等との共同研究の推進を図り、先端的かつ独創的な開発研究を行う。
学際科学国際高等研究センター	部局間の連携により、未踏学際領域を開拓し、国際化を進めて最先端学術分野の創生を目指した研究を行う。
研究教育基盤技術センター	研究教育の推進に資する大型研究設備を設置し、及び管理運営することにより、本学の教員その他これに準ずる者等の共同利用に供するとともに、低温寒剤の安定供給及び低温技術の指導を行う。
情報シナジー機構	研究、教育等に係る情報化を推進するための実践的調査研究、基盤となる設備等の整備及び提供その他専門的業務を行う。



工学研究科



川内北キャンパス

## ■ 特定事業組織

組織名	設置目的
産学官連携推進本部	広範な領域の学術研究の推進を図り、知の創造に資するとともに、学術研究の成果を本学の知的財産として組織的に管理し、及び活用し、並びに新たな事業の創出を支援することにより、産学官連携の推進及び社会の発展に寄与する。
研究基盤推進本部	戦略的に競争的資金等を獲得するための方策等に関し、企画し、並びに情報を収集し、及び発信することにより、本学の研究推進に資する。
特定領域研究推進支援センター	戦略的及び全学的に特定領域研究を推進するための各種事業を支援することにより、本学における知の創造及び有機的構造化を推進し、並びに研究成果の社会への還元を積極的に支援する。
環境保全センター	本学の教育研究活動に伴って生ずる有害物質を含む排水、廃油及び廃有機溶剤(放射性物質を含む廃棄物を除く。)を適正に処理し、及びその処理に関する技術開発等を行うとともに、化学原料化において2次公害となる物質の排出を抑制する技術を確立することにより、環境の保全に資する。
国際交流センター	本学の学生及び研究者の受入れ、派遣、国際展開活動等の支援を行うとともに、外国人留学生及び外国人研究者に対する修学支援及び生活上の支援を行い、もって国際交流の推進を図る。
埋蔵文化財調査室	本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図る。
グローバルオペレーションセンター	戦略的かつ機動的に国際交流に取り組むことによって、本学が国際競争力のある世界最高水準の研究・教育拠点として発展し、また世界のアカデミック・コミュニティにふさわしい組織を完備する。
キャンパス計画室	本学におけるキャンパスの整備及び将来計画に関する調査・研究、資料作成及び原案の立案に当たるとともに、キャンパス関係委員会を専門的な観点から支援する。

## ■ 先進医工学研究機構

### 設置目的

医学と工学を融合した医工学学問分野の創出と、人材育成システムの構築を目指し、生体用材料創製、ナノメディシン、生命機能科学、高度情報通信の4分野にわたり21の研究チームが戦略的研究を展開する。

## ■ 附属図書館

### 所蔵冊数

(2007年3月31日現在)

区分	種別	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
蔵書冊数	和漢書	1,378,397	162,494	73,970	152,485	71,696	1,839,042
	洋書	1,107,575	258,398	290,295	171,698	59,720	1,887,686
	計	2,485,972	420,892	364,265	324,183	131,416	3,726,728
蔵書冊数	和雑誌	21,661	3,515	1,652	3,070	2,774	32,672
	洋雑誌	16,972	9,822	6,589	4,296	1,934	39,613
	計	38,633	13,337	8,241	7,366	4,708	72,285

### 利用状況

(2006年度)

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
入館者	503,791	161,930	72,419	116,241	24,878	879,259
学外閲覧者	14,762	1,956	245	308	127	17,398
貸出図書	146,623	8,370	12,119	35,832	4,714	207,658
レファレンスサービス	9,389	3,107	3,760	4,650	995	21,901
情報検索サービス	17,937	6,619	1,504	2,092	447	28,599
文献複写	9,224	68,514	9,018	20,906	5,088	112,750

### 蔵書の特徴

1. 国宝	史記 孝文本紀第十(平安時代) 類聚國史 卷第二十五(平安時代)
2. 貴重本	和漢書820点(うち狩野文庫574点) 洋書110点 } 計930点
3. 特殊文庫等	狩野文庫(前記の国宝2点を含む約108,000冊)、榊田(民蔵)文庫、漱石文庫、長谷田(泰三)文庫、須永(重光)文庫、和田(佐一郎)文庫、児島(喜久雄)文庫、大類(伸)文庫、阿部(次郎)文庫、晩翠文庫、梅原(末治)文庫、石津(照賢)文庫、矢島(玄亮)文庫、木下(彰)文庫、河野(与一)文庫、柳瀬(良幹)文庫、伊東(信雄)文庫、中野(正)文庫、中村(吉治)文庫、松本(金寿)文庫、高柳(真三)文庫、宮田(光雄)文庫、和算関係文庫、秋田家史料、晴山文書、ヴント文庫(Wilhelm Wundt)、ケーベル文庫(Raphael von Koeber)、シュタイン文庫(Friedrich Stein)、ゼッケル文庫(Emil Seckel)、チーテルマン文庫(Ernst Zitelmann)、西蔵大蔵経(デルグ版)、ヴュルフェル文庫(Georg Würfel)



西蔵大蔵経



坤輿万国全圖



臨穎世之女史蔵卷

## 病 院

(2007年5月1日現在)

部門	診療科	病床数	
医科部門	内科	循環器内科、感染症・呼吸器内科、腎・高血圧・内分泌科、血液・免疫科、糖尿病代謝科、消化器内科、老年科、心療内科、遺伝子・呼吸器内科、腫瘍内科	1,308
	外科	肝・胆・膵外科、胃腸外科、移植・再建・内視鏡外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、麻酔科、緩和医療科、呼吸器外科	
	産婦人科・泌尿生殖器科	婦人科、産科、泌尿器科	
	脳・神経・精神科	神経内科、脳神経外科、脳血管内治療科、精神科	
	小児科	小児科、遺伝科、小児外科、小児腫瘍外科、小児腫瘍科	
	感覚器・理学診療科	皮膚科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、肢体不自由リハビリテーション科、運動機能再建リハビリテーション科、内部障害リハビリテーション科、高次機能障害リハビリテーション科	
	放射線科	放射線治療科、放射線診断科、加齢核医学科	
歯科部門	口腔育成系診療科	予防歯科、小児歯科、矯正歯科、咬合機能成育室	
	口腔維持系診療科	口腔診断科、顎顔面外科、口腔外科、歯科麻酔疼痛管理科	
	口腔修復系診療科	保存修復科、咬合修復科、歯内療法科	
	口腔修復系診療科	咬合回復科、歯周病科、口腔機能回復科	

## 患者数

(2006年度)

部門／入院	延患者数	1日平均患者数
医科部門	372,969	1,021.8
歯科部門	7,672	21.0
部門／外来	延患者数	1日平均患者数
医科部門	514,365	2,099.4
歯科部門	139,330	568.8

## 先進医療

経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法

生体部分肺移植術

泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術

内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術

強度変調放射線治療

悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索



高度救命救急センター



医学部附属医院(1930-1940年代)



新病棟(2006年完成)

# 学生

# 学生数

## 学生総数

(2007年5月1日現在)

区分	学生定員	在籍者	内 留学生数			研究生 特別聴講学生 特別研究学生 科目等履修生 日本語研修コース
			国費	私費	計	
学部学生	9,839	10,913 (2,618)	51	73	124	299
大学院学生(修士・前期・専門職)	3,676	4,155 (871)	66	236	302	251
大学院学生(後期・博士)	2,909	2,740 (711)	186	261	447	
計	16,424	17,808 (4,200)	303	570	873	550
附属学校	40	41 (29)	-	-	-	-
研究所	-	-	-	-	-	32
その他	-	-	-	-	-	10
合計	16,464	17,849 (4,229)	303	570	873	592

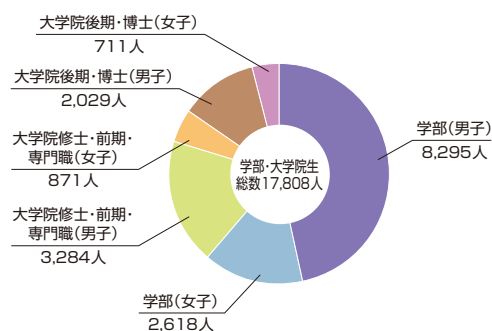
( )の数は女子で内数  
私費留学生については、政府派遣留学生を含む

## 学部

(2007年5月1日現在)

学部名	総定員	在 籍 者		
		総 数	女 子	留学生
文 学 部	840	969	(536)	[11]
教 育 学 部	280	313	(165)	[4]
法 学 部	640	722	(201)	[2]
経 済 学 部	1,080	1,198	(268)	[17]
理 学 部	1,296	1,462	(218)	[7]
医 学 部	1,208	1,230	(490)	[4]
歯 学 部	335	332	(115)	[1]
薬 学 部	320	347	(100)	[4]
工 学 部	3,240	3,698	(306)	[73]
農 学 部	600	642	(219)	[1]
計	9,839	10,913	(2,618)	[124]

( )の数は女子で内数、[ ]の数は留学生で内数



## 大学院

(2007年5月1日現在)

研究科等名	修士・前期・専門職				後期・博士			
	総定員	在 籍 者			総定員	在 籍 者		
		総 数	女 子	留学生		総 数	女 子	留学生
文学研究科	178	175	(68)	[20]	135	258	(86)	[25]
教育学研究科	80	83	(48)	[4]	60	82	(46)	[9]
法学研究科	400	332	(71)	[5]	60	56	(23)	[9]
経済学研究科	180	190	(68)	[46]	60	77	(25)	[31]
理学研究科	524	551	(81)	[20]	390	266	(41)	[35]
医学系研究科	96	82	(51)	[11]	612	561	(190)	[52]
歯学研究科	12	20	(15)	[1]	188	164	(49)	[6]
薬学研究科	114	161	(47)	[3]	78	65	(9)	[9]
工学研究科	1,196	1,439	(103)	[75]	652	602	(55)	[158]
農学研究科	194	259	(95)	[4]	138	116	(31)	[13]
国際文化研究科	96	99	(62)	[44]	114	109	(65)	[34]
情報科学研究科	240	305	(35)	[39]	170	142	(25)	[24]
生命科学研究科	212	218	(70)	[6]	141	108	(31)	[9]
環境科学研究科	130	217	(51)	[16]	96	119	(27)	[30]
教育情報学教育部	24	24	(6)	[8]	15	15	(8)	[3]
計	3,676	4,155	(871)	[302]	2,909	2,740	(711)	[447]

( )の数は女子で内数、[ ]の数は留学生で内数

## 附属学校

(2007年5月1日現在)

学校名	定 員	入学者	在籍者
歯学部附属歯科技工士学校	20×2学年	22(17)	41(29)

( )の数は女子で内数



## 入学状況

### 学部

(2007年度)

学部名	入学定員	入学志願者	入学者
文学部	210	810 (395)	215 (130)
教育学部	70	245 (133)	77 (48)
法学部	160	839 (197)	167 (44)
経済学部	260	1,138 (244)	273 (75)
	20	59 (16)	21 (4)
理学部	324	1,550 (250)	345 (50)
医学部			
医学科	100	508 (103)	105 (14)
保健学科	144	549 (330)	146 (100)
	16	65 (48)	16 (11)
歯学部	55	226 (68)	55 (16)
薬学部	80	446 (148)	86 (26)
工学部	810	2,042 (201)	890 (81)
農学部	150	468 (170)	156 (53)
計	2,363	8,821 (2,239)	2,515 (637)
	36	124 (64)	37 (15)

( )の数は女子で内数

下欄の数は3年次編入学に係る数字で外数、( )の数は女子で内数

### 大学院

(2007年度)

研究科等名	修士・前期・ 後期・博士・ 専門職別	入学定員	入学志願者	入学者
文学研究科	前期	89	127 (53)	76 (35)
	後期	45	54 (21)	41 (17)
教育学研究科	前期	40	99 (58)	40 (20)
	後期	20	22 (14)	14 (9)
法学研究科	前期	20	18 (7)	6 (2)
	後期	20	8 (1)	6 (1)
	専門職	130	541 (102)	134 (23)
経済学研究科	前期	50	83 (30)	32 (12)
	後期	20	22 (9)	19 (7)
	専門職	40	86 (22)	37 (10)
理学研究科	前期	262	335 (50)	253 (37)
	後期	130	64 (7)	64 (7)
医学系研究科	修士	20	34 (19)	19 (12)
	博士	144	115 (41)	109 (38)
	前期	28	21 (13)	18 (12)
	後期	12	14 (8)	13 (7)
歯学研究科	修士	6	10 (8)	10 (8)
	博士	47	48 (19)	48 (19)
薬学研究科	前期	57	100 (25)	81 (19)
	後期	26	21 (4)	20 (4)
工学研究科	前期	598	906 (71)	682 (48)
	後期	217	139 (10)	132 (9)
農学研究科	前期	97	172 (63)	135 (49)
	後期	46	34 (12)	33 (11)
国際文化研究科	前期	48	65 (37)	44 (28)
	後期	38	25 (14)	17 (9)
情報科学研究科	前期	120	176 (20)	125 (11)
	後期	57	25 (6)	22 (6)
生命科学研究科	前期	106	157 (44)	103 (33)
	後期	47	40 (10)	39 (10)
環境科学研究科	前期	65	122 (27)	96 (23)
	後期	32	31 (6)	26 (4)
教育情報学教育部	前期	12	17 (4)	13 (3)
	後期	5	6 (4)	5 (3)
	修士	26	44 (27)	29 (20)
	博士	191	163 (60)	157 (57)
計	前期	1,592	2,398 (502)	1,704 (332)
	後期	715	505 (126)	451 (104)
	専門職	170	627 (124)	171 (33)

( )の数は女子で内数



# 入学状況

(2007年4月1日現在)

## 出身都道府県別 学部入学志願者・入学者

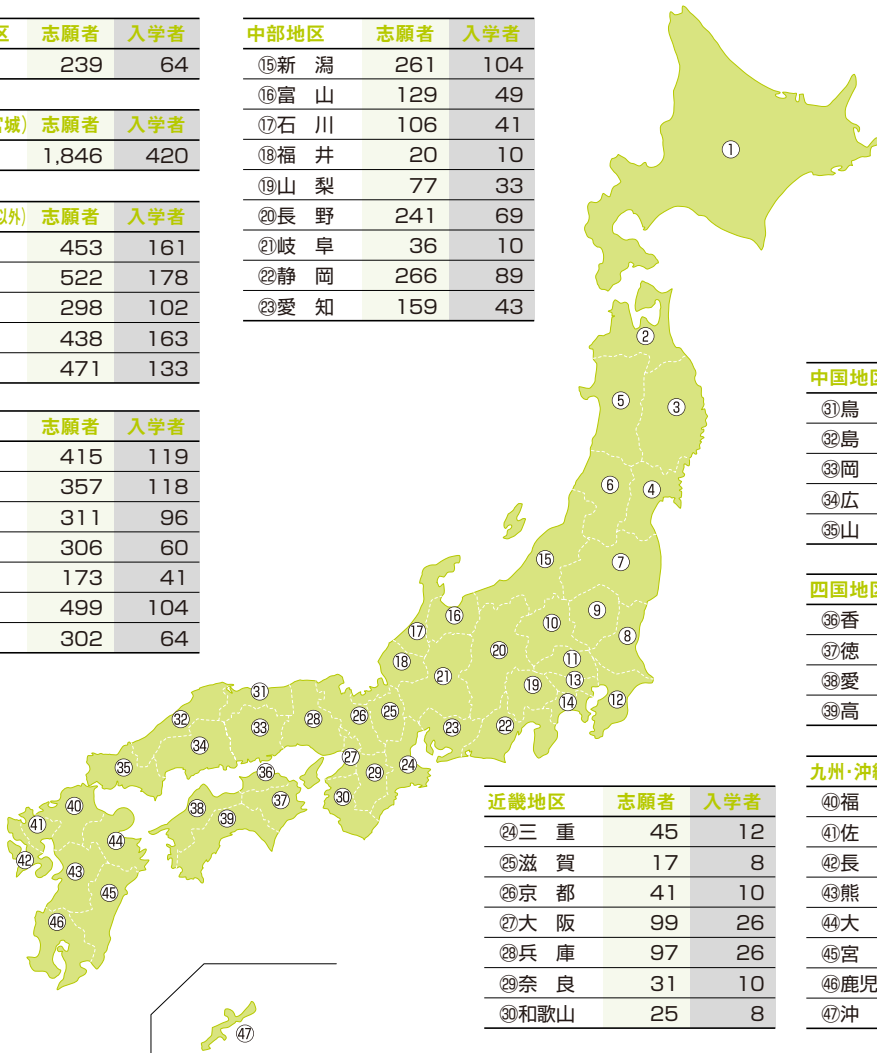
北海道地区	志願者	入学者
①北海道	239	64

東北地区(宮城)	志願者	入学者
④宮城	1,846	420

東北地区(宮城以外)	志願者	入学者
②青森	453	161
③岩手	522	178
⑤秋田	298	102
⑥山形	438	163
⑦福島	471	133

関東地区	志願者	入学者
⑧茨城	415	119
⑨栃木	357	118
⑩群馬	311	96
⑪埼玉	306	60
⑫千葉	173	41
⑬東京	499	104
⑭神奈川	302	64

中部地区	志願者	入学者
⑮新潟	261	104
⑯富山	129	49
⑰石川	106	41
⑱福井	20	10
⑲山梨	77	33
⑳長野	241	69
㉑岐阜	36	10
㉒静岡	266	89
㉓愛知	159	43



中国地区	志願者	入学者
㉔鳥取	17	3
㉕島根	19	7
㉖岡山	35	7
㉗広島	73	23
㉘山口	20	7

四国地区	志願者	入学者
㉙香川	30	8
㉚徳島	15	5
㉛愛媛	39	9
㉜高知	6	3

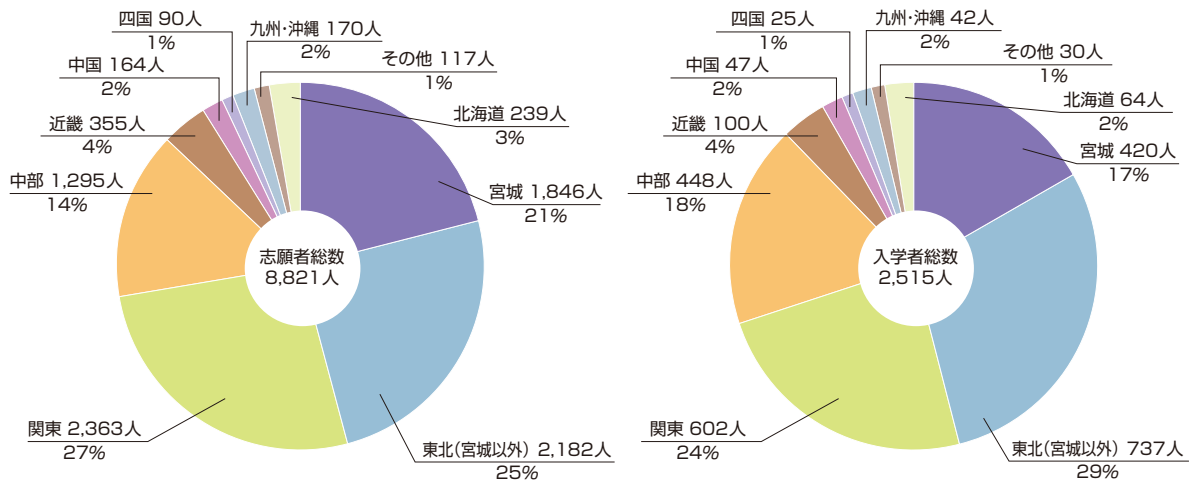
近畿地区	志願者	入学者
㉝三重	45	12
㉞滋賀	17	8
㉟京都	41	10
㊱大阪	99	26
㊲兵庫	97	26
㊳奈良	31	10
㊴和歌山	25	8

九州・沖縄地区	志願者	入学者
㊵福岡	51	8
㊶佐賀	10	2
㊷長崎	11	5
㊸熊本	16	4
㊹大分	14	4
㊺宮崎	13	2
㊻鹿児島	26	11
㊼沖縄	29	6

志願者	入学者	
その他	117	30

※その他は、帰国子女、高専等の高校以外、高等学校卒業程度認定試験、私費外国人留学生及び国費外国人留学生の数である。

## 平成19年度 学部入学者の出身地区別内訳





## 学部卒業生数・学位授与者数

## 学部卒業生数

(2007年3月31日現在)

区分	旧制	新制	
		平成18年度	累計
文学部	1,277	208	9,079
教育学部	—	77	6,146
法学部	3,844	175	11,090
経済学部	1,446	280	11,718
理学部	2,747	327	13,522
医学部	3,290	105	5,542
歯学部	—	60	2,089
薬学部	—	88	2,725
工学部	3,953	851	39,595
農学部	679	165	7,614
計	17,236	2,336	109,120

※農学部の旧制には、林学士59名を含む

## 学位授与者数(修士)

(2007年3月31日現在)

区分	平成18年度	累計
文学研究科	82	2,831
教育学研究科	37	901
法学研究科	13	533
経済学研究科	64	892
理学研究科	218	7,524
医学系研究科	50	318
歯学研究科	8	13
薬学研究科	86	1,724
工学研究科	697	17,657
農学研究科	103	2,902
国際文化研究科	45	514
情報科学研究科	132	1,690
生命科学研究科	113	516
環境科学研究科	72	271
教育情報学教育部	8	41
計	1,728	38,327

## 学位授与者数(専門職)

(2007年3月31日現在)

区分	平成18年度	累計
公共法政策修士(専門職)	26	50
法務博士(専門職)	79	124
会計修士(専門職)	34	35
計	139	209

## 学位授与者数(博士)

(2007年3月31日現在)

区分	旧制	新制(課程)		新制(論博)	
		平成18年度	累計	平成18年度	累計
文学研究科	96	37	252	7	237
教育学研究科	—	13	94	1	109
法学研究科	38	10	72	1	52
経済学研究科	50	14	164	2	104
理学研究科	944	90	2,374	9	1,230
医学系研究科	3,715	140	2,608	20	3,409
歯学研究科	—	45	437	5	196
薬学研究科	—	23	408	8	518
工学研究科	554	210	3,853	28	2,190
農学研究科	152	43	914	15	727
国際文化研究科	—	12	77	0	5
情報科学研究科	—	26	407	3	50
生命科学研究科	—	24	103	5	8
環境科学研究科	—	21	74	7	14
教育情報学教育部	—	3	3	0	0
計	5,549	711	11,840	111	8,849



# 卒業後の状況 進路状況調(平成18年度卒業修了)

(2007年4月1日現在)

## 学部

区分	卒業生数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
文学部	208 (108)	40 (18)	-	122 (68)	20 (12)	102 (56)	46 (22)
教育学部	77 (44)	22 (12)	-	39 (24)	12 (8)	27 (16)	16 (8)
法学部	175 (53)	56 (18)	-	60 (19)	10 (5)	50 (14)	59 (16)
経済学部	280 (80)	21 (3)	-	211 (62)	34 (13)	177 (49)	48 (15)
理学部	327 (59)	272 (47)	-	37 (7)	6 (1)	31 (6)	18 (5)
医学部	105 (10)	0 (0)	105 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
歯学部	60 (15)	0 (0)	60 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
薬学部	88 (23)	67 (12)	-	15 (8)	8 (5)	7 (3)	6 (3)
工学部	851 (67)	723 (57)	-	96 (9)	5 (0)	91 (9)	32 (1)
農学部	165 (64)	123 (44)	-	28 (13)	3 (2)	25 (11)	14 (7)
計	2,336 (523)	1,324 (211)	165 (25)	608 (210)	98 (46)	510 (164)	239 (77)

( )は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

(2007年4月1日現在)

## 研究科:前期2年の課程

区分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
文学研究科	82 (39)	27 (10)	-	30 (15)	5 (3)	25 (12)	25 (14)
教育学研究科	37 (20)	6 (3)	-	22 (11)	5 (4)	17 (7)	9 (6)
法学研究科	13 (3)	3 (1)	-	3 (0)	0 (0)	3 (0)	7 (2)
経済学研究科	64 (30)	15 (5)	-	25 (10)	9 (5)	16 (5)	24 (15)
理学研究科	218 (23)	63 (6)	-	140 (15)	5 (1)	135 (14)	15 (2)
医学系研究科	25 (17)	16 (11)	0 (0)	8 (5)	2 (0)	6 (5)	1 (1)
歯学研究科	-	-	-	-	-	-	-
薬学研究科	86 (31)	18 (4)	-	60 (21)	4 (2)	56 (19)	8 (6)
工学研究科	697 (63)	84 (8)	-	597 (51)	17 (1)	580 (50)	16 (4)
農学研究科	103 (34)	25 (10)	-	67 (21)	8 (5)	59 (16)	11 (3)
国際文化研究科	45 (32)	7 (4)	-	13 (8)	7 (4)	6 (4)	25 (20)
情報科学研究科	132 (8)	11 (1)	-	102 (6)	6 (0)	96 (6)	19 (1)
生命科学研究科	113 (36)	34 (9)	-	67 (23)	4 (3)	63 (20)	12 (4)
環境科学研究科	72 (13)	12 (1)	-	55 (10)	0 (0)	55 (10)	5 (2)
教育情報学教育部	8 (7)	4 (4)	-	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (2)
計	1,695 (356)	325 (77)	0 (0)	1,190 (197)	73 (29)	1,117 (168)	180 (82)

( )は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

(2007年4月1日現在)

## 研究科:後期3年の課程

区分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他	うちポストク
					県内	県外		
文学研究科	37 (7)	0 (0)	-	14 (1)	4 (0)	10 (1)	23 (6)	0 (0)
教育学研究科	13 (6)	0 (0)	-	4 (1)	0 (0)	4 (1)	9 (5)	0 (0)
法学研究科	10 (3)	0 (0)	-	3 (0)	1 (0)	2 (0)	7 (3)	0 (0)
経済学研究科	14 (4)	0 (0)	-	4 (2)	0 (0)	4 (2)	10 (2)	0 (0)
理学研究科	90 (11)	0 (0)	-	32 (2)	2 (0)	30 (2)	58 (9)	16 (1)
医学系研究科	13 (11)	0 (0)	0 (0)	6 (5)	5 (4)	1 (1)	7 (6)	0 (0)
歯学研究科	-	-	-	-	-	-	-	-
薬学研究科	21 (3)	0 (0)	-	18 (2)	0 (0)	18 (2)	3 (1)	2 (0)
工学研究科	210 (13)	0 (0)	-	140 (10)	16 (2)	124 (8)	70 (3)	24 (0)
農学研究科	43 (9)	0 (0)	-	18 (3)	1 (0)	17 (3)	25 (6)	13 (1)
国際文化研究科	12 (8)	0 (0)	-	3 (2)	1 (0)	2 (2)	9 (6)	0 (0)
情報科学研究科	26 (7)	0 (0)	-	14 (4)	3 (1)	11 (3)	12 (3)	0 (0)
生命科学研究科	24 (6)	0 (0)	-	9 (3)	2 (0)	7 (3)	15 (3)	6 (0)
環境科学研究科	21 (2)	0 (0)	-	16 (1)	1 (1)	15 (0)	5 (1)	3 (1)
教育情報学教育部	3 (0)	0 (0)	-	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)
計	537 (90)	0 (0)	0 (0)	282 (36)	36 (8)	246 (28)	255 (54)	64 (3)

( )は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

(2007年4月1日現在)

## 研究科:修士課程

区分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他	うちポストク
					県内	県外		
医学系研究科	25 (12)	6 (3)	0 (0)	16 (8)	3 (3)	13 (5)	3 (1)	0 (0)
歯学研究科	8 (6)	3 (1)	0 (0)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
計	33 (18)	9 (4)	0 (0)	21 (13)	6 (6)	15 (7)	3 (1)	0 (0)

( )は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

(2007年4月1日現在)

## 研究科:博士課程

区分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他	うちポストク
					県内	県外		
医学系研究科	127 (30)	1 (0)	1 (0)	96 (19)	70 (16)	26 (3)	29 (11)	6 (2)
歯学研究科	45 (14)	0 (0)	0 (0)	31 (10)	18 (7)	13 (3)	14 (4)	0 (0)
計	172 (44)	1 (0)	1 (0)	127 (29)	88 (23)	39 (6)	43 (15)	6 (2)

( )は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

(2007年4月1日現在)

## 研究科:専門職課程

区分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
法学研究科	105 (22)	0 (0)	-	25 (5)	1 (0)	24 (5)	80 (17)
経済学研究科	34 (5)	1 (0)	-	13 (2)	3 (1)	10 (1)	20 (3)
計	139 (27)	1 (0)	0 (0)	38 (7)	4 (1)	34 (6)	100 (20)

( )は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

## 産業別就職者数

(2007年4月1日現在)

区分	学部											計
	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部	農学部		
農・林・漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鉱業	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
建設業	3	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	10
製造業	28	0	7	52	12	0	0	1	61	6	167	
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	4	12	0	0	0	0	0	0	16	
情報通信業	19	5	2	23	5	0	0	0	8	3	65	
運輸業	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4	
卸売・小売業	11	0	3	8	2	0	0	13	1	5	43	
金融・保険業	19	2	16	66	6	0	0	0	4	5	118	
不動産業	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	6	
飲食店・宿泊業	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
医療・福祉	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
教育・学習支援業	4	8	0	5	6	0	0	0	3	0	26	
複合サービス事業	3	0	0	3	3	0	0	0	0	0	9	
サービス業	8	7	1	12	2	0	0	0	5	2	37	
公務	22	15	23	22	0	0	0	1	7	4	94	
その他	0	1	0	1	1	0	0	0	2	3	8	
計	122	39	60	211	37	0	0	15	96	28	608	

(2007年4月1日現在)

区分	大学院														計	
	文学研究科	教育学研究科	法学研究科	経済学研究科	理学研究科	医学系研究科	歯学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	国際文化研究科	情報科学研究科	生命科学研究科	環境科学研究科		教育情報学
農・林・漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
鉱業	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	5
建設業	0	0	2	1	1	0	0	0	47	0	0	0	0	4	0	55
製造業	5	0	6	11	100	13	0	55	489	40	1	52	47	56	0	875
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0	2	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	34
情報通信業	8	2	1	2	23	0	0	0	31	4	1	33	5	0	0	110
運輸業	0	0	0	1	1	0	0	0	12	0	1	5	0	1	0	21
卸売・小売業	0	0	0	2	5	0	0	4	1	1	2	1	1	1	0	18
金融・保険業	0	0	6	5	6	1	0	0	4	2	0	2	0	1	0	27
不動産業	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
飲食店・宿泊業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
医療・福祉	0	2	0	2	1	100	31	6	1	4	0	0	1	0	0	148
教育・学習支援業	21	12	2	5	13	6	4	1	30	4	9	10	3	0	1	121
複合サービス事業	0	0	2	1	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	7
サービス業	4	1	3	5	10	6	0	7	67	10	1	2	5	3	0	124
公務	5	8	9	3	8	0	1	5	12	12	0	8	4	0	1	76
その他	1	0	0	2	2	0	0	0	7	4	0	2	9	3	0	30
計	44	26	31	42	172	126	36	78	737	85	16	116	76	71	2	1,658

## 学友会

大学の学問以外に、文化、体育などに関する自発的な活動のための全学的な組織が学友会です。学友会は、本学の教職員・学生の全員で組織され、会員の会費により、その運営(大学祭、新入生歓迎会、海上運動会、サークル活動等の援助)が行われています。大学は学生諸君が積極的に学友会の行事や各自の好きなサークル活動に参加し、楽しみつつ、豊かな教養を身につけていくことを期待しています。

### 中央各部

部名	部長名	部局	職名
総務部	植木 俊哉		理事
文化部	海野 道郎	文学研究科	教授
体育部	永富 良一	医学系研究科	教授
生活部	小菅 一弘	工学研究科	教授
報道部	大村 泉	経済学研究科	教授

### 文化部

部名	部長名	部局	職名
1 男声合唱部	末光 眞希	学際科学国際高等研究センター	教授
2 混声合唱部	島途 健一	国際文化研究科	教授
3 交響楽部	松原 洋一	医学系研究科	教授
4 文芸部	齊藤 征雄	文学研究科	教授
5 美術部	芳賀 京子	文学研究科	准教授
6 映画部	原 研二	文学研究科	教授
7 演劇部	浅野 裕一	環境科学研究科	教授
8 写真部	長岡 龍作	文学研究科	教授
9 茶道部	工藤 純一	東北アジア研究センター	教授
10 能楽部	牧原 出	法学研究科	教授
11 邦楽部	早川 美徳	理学研究科	准教授
12 放送研究部	村岡 裕明	電気通信研究所	教授
13 アマチュア無線部	曾根 秀昭	情報シナジー機構	教授
14 落語研究部	加藤 弘	高等教育開発推進センター	准教授
15 E. S. S. 部	山田 誠	国際文化研究科	准教授
16 囲碁部	徳山 豪	情報科学研究科	教授
17 奇術部	仁平 義明	文学研究科	教授
18 軽音楽部	澤谷 邦男	工学研究科	教授
19 マンドリン楽部	川又 政征	工学研究科	教授
20 化学部	森田 昇	理学研究科	教授
21 オーディオ研究部	金崎 芳輔	経済学研究科	教授
22 吹奏楽部	木村 邦博	文学研究科	准教授
23 将棋部	井上 祥雄	工学研究科	教授

### 体育部

部名	部長名	部局	職名
1 陸上競技部	佐藤 源之	東北アジア研究センター	教授
2 硬式野球部	山田 章吾	病院	教授
3 準硬式野球部	横堀 壽光	工学研究科	教授
4 硬式庭球部	岡 芳知	医学系研究科	教授
5 軟式庭球部	松木 英敏	工学研究科	教授
6 ラグビー部	大島 泰克	生命科学研究所	教授
7 男子バレーボール部 女子バレーボール部	長坂 徹也	環境科学研究科	教授
8 蹴球部	土屋 滋	医学系研究科	教授
9 男子バスケットボール部 女子バスケットボール部	須藤 彰三	理学研究科	教授
10 卓球部	三橋 博三	工学研究科	教授
11 山岳部	川村 宏	理学研究科	教授
12 水泳部	北村 勝朗	教育情報学研究部	准教授
13 漕艇部	黒川 良望	先進医学研究機構	教授
14 ヨット部	高木 敏行	流体科学研究所	教授
15 スケート部	井上 克己	工学研究科	教授
16 乗馬部	工藤 昭彦	農学研究科	教授
17 バドミントン部	玉川 明明	医学系研究科	准教授
18 柔道部	村本 光二	生命科学研究所	教授
19 スキー部	日出間 純	生命科学研究所	准教授
20 ハンドボール部	風間 基樹	工学研究科	教授
21 航空部	小濱 泰昭	流体科学研究所	教授
22 剣道部	福土 審	医学系研究科	教授
23 弓道部	鈴木 章二	理学研究科	准教授
24 空手道部	大滝 精一	経済学研究科	教授
25 自動車部	和田 仁	工学研究科	教授
26 ワンダーフォーゲル部	植松 康	未科学技術共同研究センター	教授
27 ゴルフ部	板谷 謹悟	工学研究科	教授
28 合気道部	珠玖 仁	環境科学研究科	准教授
29 フェンシング部	佐藤 明	医学系研究科	准教授
30 応援団	岡村 州博	医学系研究科	教授
31 サイクリング部	長谷川 昭	理学研究科	教授
32 ボディビル部	宮腰 英一	教育学研究科	教授
33 少林寺拳法部	佐藤 正明	工学研究科	教授
34 体操部	中島 信博	教育学研究科	教授
35 アメリカンフットボール部	池尾 恭一	教育学研究科	准教授
36 オリエンテーリング部	窪 俊一	情報科学研究科	准教授
37 競技舞蹈部	中畑 則道	薬学研究科	教授
38 アーチェリー部	大島 徹	国際文化研究科	准教授
39 トライアスロン部	宗政 昭弘	情報科学研究科	教授
40 ラクロス部	吉岡 敏明	環境科学研究科	教授
41 アイススケート部	永富 良一	医学系研究科	教授
42 レーシングカート部	佐々木 康	工学研究科	准教授
43 極真カラテ部	石井 圭一	農学研究科	准教授
44 相撲部	阿部 宏	文学研究科	教授
45 ソフトボール部	徳山 豪	情報科学研究科	教授





# 財 務

平成18年度貸借対照表

(2007年3月31日)

科目	金額
資産の部	333,626
固定資産	299,082
有形固定資産	296,781
土地	135,557
建物・構築物	101,929
機械備品	33,221
図書・美術品	24,912
船舶・車両	149
建設仮勘定	995
その他	16
無形固定資産	748
投資その他資産	1,552
流動資産	34,544
現金・預金	28,397
未収入金	5,563
たな卸資産等	583

科目	金額
負債の部	141,257
固定負債	106,362
資産見返負債	47,842
長期寄附金債務等	119
国立大学財務・経営センター債務負担金	33,919
その他借入金	16,308
長期未払金等	8,173
流動負債	34,895
運営費交付金債務	2,540
寄附金債務等	9,709
預り金	1,344
一年以内返済予定	3,399
国立大学財務・経営センター債務負担金	345
一年以内返済予定借入金	345
未払金	17,126
未払費用等	429
資本の部	192,369
資本金	180,227
資本剰余金	5,120
利益剰余金	7,021

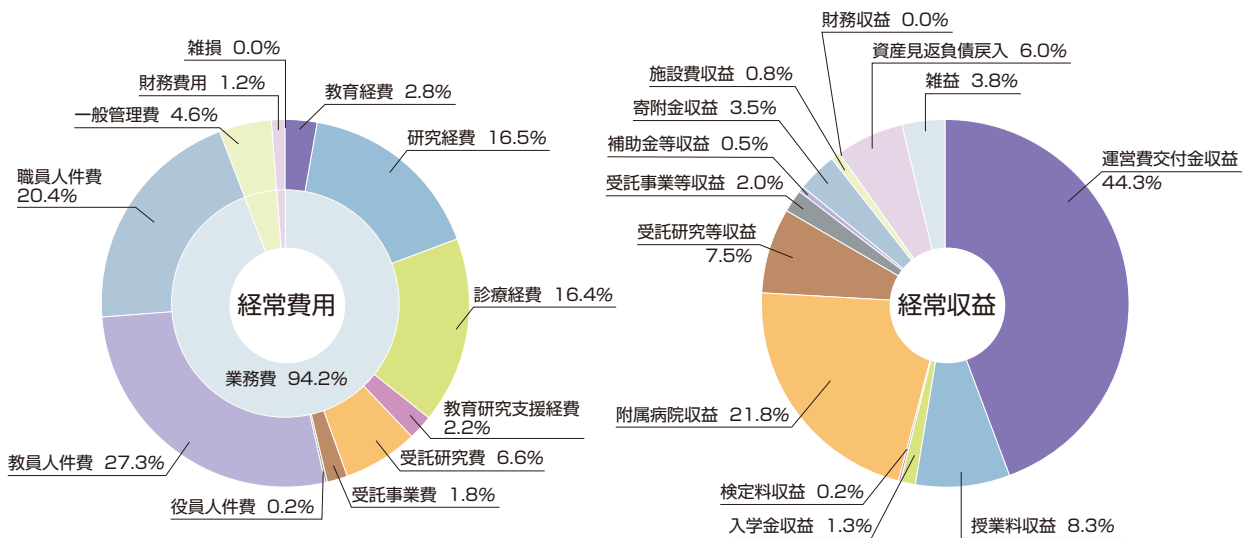
平成18年度損益計算書

(2006年4月1日～2007年3月31日)

科目	金額
経常費用	109,361
業務費	102,984
教育経費	3,008
研究経費	18,021
診療経費	17,891
教育研究支援経費	2,454
受託研究費	7,253
受託事業費	1,966
役員人件費	264
教員人件費	29,862
職員人件費	22,261
一般管理費	5,061
財務費用	1,305
雑損	9
臨時損失	484

科目	金額
経常収益	111,884
運営費交付金収益	49,554
授業料収益	9,286
入学金収益	1,414
検定料収益	265
附属病院収益	24,350
受託研究等収益	8,393
受託事業等収益	2,264
補助金等収益	573
寄附金収益	3,891
施設費収益	887
財務収益	26
資産見返負債戻入	6,731
雑益	4,243
経常利益	2,522
臨時利益	239
当期純利益	2,278
目的積立金取崩額	-
当期総利益	2,278

※6月1日現在 文部科学省未承認



## 研究費等受入状況

### 科学研究費補助金

(2006年度)

研究種目	採択件数(件)	交付額(千円)		
		直接経費	間接経費	計
特別推進研究	12	1,122,655	336,797	1,459,452
特定領域研究	219	1,735,480	-	1,735,480
基盤研究(S・A・B・C)	856	3,976,586	801,213	4,777,799
萌芽研究	252	383,041	-	383,041
若手研究(A・B・スタートアップ)	488	1,026,474	134,190	1,160,664
特別研究促進費	4	12,400	-	12,400
学術創成研究費	8	569,000	170,700	739,700
計	1,839	8,825,636	1,442,900	10,268,536

### 寄付金・受託研究等

(2006年度)

区分			件数(件)	受入金額(千円)
寄附金			2,610	4,248,431
	民間等との共同研究	一般	519	2,028,058
		競争的資金	340	3,538,259
受託研究等経費	受託研究	一般	251	4,388,603
		競争的資金	591	7,926,862
	小計		1,110	9,954,920
学術指導			79	78,655
計			3,799	14,282,006

### その他補助金

(2006年度)

経費	採択件数(件)	交付額(千円)		
		直接経費	間接経費	計
21世紀COEプログラム	13	1,887,300	178,225	2,065,525
産業技術研究助成事業	49	429,142	130,812	559,954
厚生労働科学研究費補助金	30	596,929	82,500	679,429
廃棄物処理等科学研究費補助金	5	57,280	11,488	68,768
大学改革推進等補助金	9	115,902	0	115,902
がん研究助成金	1	11,532	0	11,532
革新的実用原子力技術開発費補助金	1	200,611	6,055	206,666
研究拠点形成費等補助金(21世紀COEを除く)	2	66,195	0	66,195
国際共同研究助成事業	2	78,300	0	78,300
大学発事業創出実用化研究開発事業	1	51,047	0	51,047
がん診療連携拠点病院機能強化事業	1	15,000	0	15,000
計	114	3,509,238	409,080	3,918,318



## ■ 土地・建物

(2007年4月1日現在)

(単位:㎡)

地区名/面積		土地			建物			
		所有	借入	計	所有	借入	計	
宮城県	仙台市	片平地区	237,532	31	237,563	153,099	0	153,099
		米ヶ袋地区	3,231	0	3,231	512	0	512
		川内・青葉山地区	2,401,196	18,793	2,419,989	413,498	0	413,498
		星陵地区	179,155	59	179,214	259,088	0	259,088
		雨宮地区	92,746	0	92,746	31,297	0	31,297
		三条地区	50,612	0	50,612	10,776	0	10,776
		富沢地区	113,877	0	113,877	8,575	0	8,575
		評定河原地区	18,668	0	18,668	781	0	781
		宮城地区	0	399	399	26	0	26
		秋保地区	0	4	4	0	20	20
		越路地区	0	2	2	0	0	0
		北中山地区	0	58	58	0	0	0
		八木山地区	12,810	0	12,810	1,520	0	1,520
		学生寄宿舍	44,212	0	44,212	22,660	0	22,660
		職員宿舎	80,834	0	80,834	43,152	0	43,152
		小計	3,234,873	19,346	3,254,219	944,984	20	945,004
	仙台市外	蔵王地区	0	30,287	30,287	399	0	399
		七ヶ浜地区	0	528	528	355	0	355
		女川・牡鹿地区	23,463	43,338	66,801	1,922	0	1,922
		鹿島台地区	10,077	0	10,077	270	0	270
		鳴子・川渡地区	18,541,862	1,337	18,543,199	17,265	0	17,265
		名取地区	1,863	454	2,317	1,050	0	1,050
		釜房地区	0	144	144	0	5	5
		小牛田地区	0	1,038	1,038	19	0	19
		気仙沼地区	0	112	112	0	0	0
		米山地区	0	1,600	1,600	101	0	101
		丸森地区	0	181	181	6	0	6
		若柳地区	0	100	100	12	0	12
		歌津地区	0	4	4	0	0	0
		雄勝地区	0	4	4	0	0	0
		大和地区	0	4	4	0	0	0
		田尻地区	0	3	3	0	0	0
鶯沢地区	0	3	3	0	0	0		
職員宿舎	5,411	1,123	6,534	1,516	0	1,516		
小計	18,582,676	80,260	18,662,936	22,915	5	22,920		
計	21,817,549	99,606	21,917,155	967,899	25	967,924		
宮城県外	青森県	28,506	76,290	104,796	2,658	0	2,658	
	秋田県	1,049	6,602	7,651	932	0	932	
	山形県	0	1,452	1,452	298	0	298	
	岩手県	10,012	18,193	28,205	934	0	934	
	福島県	990	25,887	26,877	362	0	362	
	新潟県	0	303	303	6	0	6	
	埼玉県	660	1	661	739	0	739	
	茨城県	4,541	12,161	16,702	6,086	0	6,086	
	栃木県	0	25	25	0	0	0	
	岐阜県	0	666	666	424	0	424	
計	45,758	141,580	187,338	12,439	0	12,439		
合計	21,863,307	241,186	22,104,493	980,338	25	980,363		



特色ある研究・教育・社会貢献活動

21世紀COE

21世紀COEプログラムは、我が国の大学が世界トップレベルの大学と伍して、教育及び研究水準の向上や世界をリードする創造的人材を育成していくために、競争的環境を醸成し、学問分野ごとに、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援することにより、活力に富み、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進することを目的に平成14年度から、文部科学省に新規事業として措置されたものです。

平成15年度

拠点リーダー	研究分野	拠点のプログラム名称	内容
医学系 菅村 和夫 教授	統合医科学	シグナル伝達病の治療戦略創生拠点	生命現象の基本メカニズムである「シグナル伝達系」の異常により発症する免疫疾患、がん、糖尿病等代謝性疾患、神経変性疾患等の「シグナル伝達病」の克服をめざします。基礎医学と臨床医学の組織的な融合を図り、「シグナル伝達病」の発症分子基礎解明から新規治療法開発までの一連の研究を、有機的に統合した形で推進します。これによって、世界的な医学・生命科学研究者を育成し、且つ、「シグナル伝達病」の先端的な治療拠点を形成します。
数学、物理学、地球科学 橋本 治 教授	物理学	物質階層融合科学の構築	宇宙進化に伴って形成された素粒子、核子、原子・分子、星・銀河を物質階層としてとらえ、各階層固有の研究を基盤として階層融合物質の新研究分野を開拓し、海外研究機関との双方向教育プログラムと拠点アリーナ教育プログラムを実践して、宇宙進化過程と物質階層構造の統一的研究をめざす国際研究教育拠点を構築します。これによって、宇宙創成・進化・終焉の謎の解明と最先端の実験技術の開発等、人類の知的資産、財産の構築が期待されます。
数学、物理学、地球科学 大谷 栄治 教授	地球惑星科学	先端地球科学技術による地球の未来像創出	広大な空間と時間領域にわたる地球変動を激変とその緩和・修復過程と捉え、地球の進化像を明らかにします。特に地球の核・マントルの変動や地震・火山活動、気候変動や太陽・地球系のダイナミックスの研究、小天体衝突などの地球進化への影響評価などを、独自の先端地球科学技術を開発しつつ推進します。同時に、高度な研究能力と国際性、理学と工学を包含する柔軟な発想を持ち、技術開発力に優れ、高度な観測技術や野外調査能力を持つ独創的な若手研究リーダーを育成することをめざしています。
機械、土木、建築、その他工学 庄子 哲雄 教授	機械	ナノテクノロジー基盤機械科学フロンティア	科学的合理性に基づく次世代機械の機能ならびに構造設計の大なる必要性に鑑み、機械工学における巨視的あるいは連続体としての取り扱いにナノスケールでの科学的合理性を賦与した新しい機械科学の研究を実施し、学際的研究教育と国際研究教育を有機的に組み合わせたダブルスパイラル研究教育プログラムのもと、ナノテクノロジー基盤機械科学に関する世界の最先端レベルの研究教育拠点の形成をめざしています。
機械、土木、建築、その他工学 圓山 重直 教授	総合工学	流動ダイナミクス国際研究教育拠点	原子や分子の動きを捉えるナノスケールから、地球や宇宙を対象とするメガスケールまで、様々な時間/空間スケールにおける「流動」を扱います。流れの仕組みを解明し、力やエネルギーの有効利用につながるような機能を創成し、環境、エネルギー、生命などの21世紀型問題解決に貢献するとともに、海外相互インターンシップ、出る杭のばす教育プログラム、海外相互リエゾンオフィスなどを通して、世界第一線で活躍できる人材育成を目指しています。
社会科学 佐藤 嘉倫 教授	社会学	社会階層と不平等研究教育拠点の形成	まだ社会が貧しかった頃、豊かになれば不平等はなくなると思われていました。しかし豊かな現代社会においても、さまざまな不平等(教育格差、職業格差、ジェンダー格差など)が存在します。なぜこのような不平等が存在するのでしょうか。私たちの拠点では、このような疑問を社会科学の視点から解明していきます。そして得られた研究成果に基づいて、望ましい「公正な社会」はいかなるものなのか探求していきます。
社会科学 辻村みよ子 教授	法学・政治学	男女共同参画社会の法と政策	21世紀の日本と国際社会がめざす「男女共同参画」実現のための理論的課題を法学・政治学を中心に解明し、「ジェンダー法・政策」研究・教育の成果を世界に発信するとともに、日本の地方自治体や法曹界等とも連携して、具体的な政策実践に資することをめざします。

計/7件

平成16年度

拠点リーダー	研究分野	拠点のプログラム名称	内容
革新的な学術分野 今井 潤 教授	臨床薬学	医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点	ある薬が人類の健康と福祉に貢献するまでに成長するためには様々な過程が必要です。基礎的な創薬科学にはじまり、人への応用までの過程です。殊に人への応用の過程では、医学、薬学に加えて、倫理、経済等を含めた知識と経験の集約・統括が必要です。本拠点はこうした知識と経験を有する職能を育成し、臨床開発の提案から管理までを担える「医薬開発学術研究機構(Academic Research Organization)」への発展を期します。

計/1件

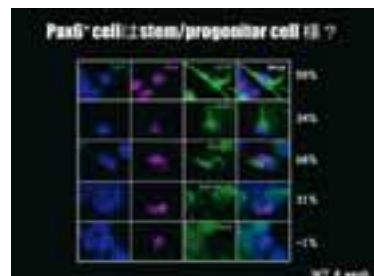
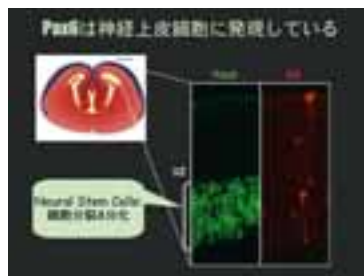
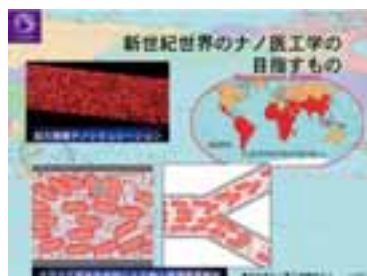
グローバルCOE

グローバルCOEプログラムは、平成14年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的として設置されたものです。

平成19年度

拠点リーダー	研究分野	拠点のプログラム名称	内容
生命科学 大隅 典子 教授	脳神経科学	脳神経科学を社会へ還流する教育研究拠点	遺伝子から個体の行動までを扱う「ゲノム行動神経科学」、脳機能を身体との相互作用によって理解する「身体性認知脳科学」、人間を取り巻く環境や人間同士の関連性までを包括する「社会脳科学」という新規の脳神経科学分野を推し進める研究を通じ、脳神経基礎科学の研究者を国内外のアカデミアに輩出することを目指します。また、育成されるべき人材が社会で果たす役割を意識したアウトカム指向の教育を提供し、脳画像診断、脳数理、精神疾患診断治療、神経経済等の分野の研究者や、先端脳神経科学の素養を社会に還流する教育学者や福祉・介護従事者、創業や福祉機器の開発者、医療行政従事者等の新領域の人材を日本発に育成します。
化学、材料科学 山口 雅彦 教授	複合化学	分子系高次構造体化学国際教育研究拠点	化学の学問的特性に原子・分子レベルの技術革新をもとにして、高度にシステム化するボトムアップ方法論を取りうる点があります。本プログラムでは物質による高機能発現を具現化する目的で、10nm-0.1mmサイズの物質を空間的に制御して配置するとともにその構造体が経時的に変化するプロセスを制御する分子系高次構造体化学の教育研究を行います。あわせて、幅広い物質の高度な研究開発を先端的に担うことのできる博士人材を育成します。
化学、材料科学 後藤 孝 教授	材料工学	材料インテグレーション国際教育研究拠点	材料科学は、全ての産業の基盤をなす学問領域であり、その発展なくして人類の社会活動の発展はありません。本学は、最先端の物質・材料研究教育拠点として、世界を先導してきました。今後、研究開発における世界規模での競争と協調連携は、ますます重要です。本拠点では、社会基盤・生体材料、エレクトロニクス材料、エネルギー・環境材料、物質・材料基礎科学の4分野において、材料インテグレーションの概念（材料科学における融合領域の形成と学際化）を基として、視野の広い世界の第一線で活躍できる人材の育成と、これまでにない新機能・新材料の創製、新材料科学の展開を目指します。
情報、電気、電子 安達 文幸 教授	電気・電子工学	情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点	独創的研究を通じた教育により世界をリードする人材を育成し、教育と研究の両面で世界最強の拠点形成を目指しています。教育面では、複眼的視点を持ち、独創的科学技术の創出と国際性豊かで基礎からシステム応用に至る幅広い分野で世界的な活躍ができる若手研究者を育成します。研究面では、人間性豊かなコミュニケーションを可能とするグローバルネットワークの構築をめざして、情報・デバイス基礎、ネットワークから知能情報システムに至る幅広い分野が連携した研究を行います。
学際、複合、新領域 山口 隆美 教授	人間医工学	新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点	21世紀のキーテクノロジーであるナノ医工学の成否は新たな学術の地平を切り開く医工融合に基づく人材の育成にかかっています。ナノ医工学グローバルCOEプログラムでは、この分野を開拓し発展を担う学生・若手研究者を、国際的に組織された融合領域の教育・研究に没入させます。これを通じ、ナノ医工学を含む21世紀の科学技術の担い手である東アジア・環太平洋地域の諸国、諸社会をリードするグローバルな拠点を形成します。

計/5件



主な科学技術振興調整費

科学技術振興調整費は、総合科学技術会議の方針に沿って科学技術の振興に必要な重要事項の総合推進調整を行うための経費であり、各府省の施策の先鞭となるもの、各府省毎の施策では対応できていない境界的なもの、複数機関の協力により相乗効果が期待されるもの、機動的に取り組むべきもの等で、政府誘導効果が高いものに活用される経費です。

平成15年度

プログラム名	本学採択課題名	内容
戦略的研究拠点育成	先進医工学研究拠点形成	患者さんのQOL向上に貢献する新しい診療・医療技術を開発するため、生命科学と工学の両分野の融合を図る学際的研究システムを構築し、医工学の世界的研究拠点となることを目指しています。

平成18年度

プログラム名	本学採択課題名	内容
若手研究者の自立的研究環境整備促進	先進融合領域フロンティアプログラム	国際的な競争環境下で世界的なレベルで先端領域の開拓ができる人材の育成を推進することを目的としています。
女性研究者支援モデル育成	都の都女性科学者ハードリング支援事業	女性科学者のキャリアパスに障害となる様々なハードルの乗り越えを支援することを目的としています。
先端融合領域イノベーション創出拠点の形成	ナノ・マイクロものづくりITの融合領域	MEMS技術を中心とする異分野技術の融合によって、産学連携で次世代・次々世代の産業技術を創出し、総合的な「ものづくり」イノベーション拠点を構築することを目的としています。



都の都女性科学者ハードリング支援事業（理系白書シンポジウムin仙台）

## 教育

### 特色ある大学教育支援プログラム

各大学・短期大学が実施している大学教育の改善に資する取組を、更に充実・発展する特色ある優れた取組を選定・支援するとともに、広く社会に情報提供を実施する。

実施年度	プログラム名称	内容
平成17年度～ 平成20年度	融合型理科実験が育む自然理解と論理的思考	融合型理科実験は、従来のような物理学、化学、生物学、地学に分けた方式ではなく、「同じ現象を違った側面から実験し、複雑な自然の現象を論理的に整理し、記述することを学べる」ように、まったく新しい発想で実験を設計し開講する。
平成18年度～ 平成20年度	「学びの転換」を育む研究大学型少人数教育	基礎ゼミは、全学的支援体制のもとで運営され、15名平均の学部横断型のクラス編成の下、学生は、実験、実習、調査、合宿等の多彩な授業の中で、特定の課題を調べ、発表、討論する。基礎ゼミを起点として「大学での学び」を構築する。

### 法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム

専門職大学院における教育水準の向上を図るため、専門職大学院と関係する業界団体等が積極的に連携し、各分野の人材ニーズに即した教育の質の向上に寄与する先導的な取組について重点的に支援する。

実施年度	プログラム名称	内容
平成18年度～ 平成19年度	体験型教育の多角的実施と実務教育基盤構築	大学院の基幹科目である公共政策ワークショップの方法論を一層深化させ、発展型のワークショップを開発するとともに、実務教育の教育方法の体系化を図り、包括的FDプログラムにまとめる。
平成18年度～ 平成19年度	会計職業のための資格取得後教育課程の編成	高度会計職業人のための資格取得後教育のための授業科目を実験的に実施し、データを収集することを通して、資格取得後教育実践のための教育課程を日本公認会計士協会と共同して編成し、国際的に通用する高度会計職業人を養成する。

### 地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム

地域医療等社会的ニーズに対応したテーマ設定を行い、国公立大学から申請された取組の中から、質の高い医療人を養成する特色ある優れた取組について財政支援する。

実施年度	プログラム名称	内容
平成18年度～ 平成20年度	地域ニーズ対応型総合周産期実践医育成計画	東北大学病院を中心として、後期臨床研修としての3年間のコースにおいて、産科、麻酔科、NICUを各々研修させることにより、周産期医療を横断的に習熟させることで、総合周産期実践医を育成する。

### 派遣型高度人材育成協同プラン

産学が人材の育成・活用に関して建設的に協力しあう体制を構築することにより、社会の抱える諸問題や産業界の取組を理解し、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を育成する、これまでにない新たなコンセプトのインターンシップの開発を文部科学省が大学に委託する。

実施年度	プログラム名称	内容
平成17年度～ 平成21年度	環境に優しい鉄鋼材料創出教育プログラム	「環境にやさしい鉄鋼材料:グリーンスチール」を実現していく研究実践の場として、鉄鋼企業へ学生を派遣し、社会に有益な新たな技術体系や領域、あるいは価値観を提案・創出していく能力を育成する。

### 特色ある教育への取り組み

実践的英語能力をさらに高めることを目的に、学部学生及び大学院学生を対象とした課外授業を実施する。

実施年度	プログラム名称	内容
平成17年度～	ブラクティカル・イングリッシュコース	ネイティブスピーカーを講師とし、ディスカッションやプレゼンテーション中心の実践の場で必要とされる英語能力取得を目指す。



## 寄附講座・寄附研究部門

寄附講座・寄附研究部門は、企業などからの寄附金によって、大学における教育・研究の豊富化、活性化を図ることを目的として、「寄附講座」(大学院研究科・専攻に置く場合)又は「寄附研究部門」(附置研究所などに置く場合)を設置し、運営する制度です。

(2007年5月1日現在)

### 寄附講座

設置年度	部局名	名称	設置期間
平成19年度	医学系研究科	多発性硬化症治療学	平成19年 5月 1日～平成22年 4月30日
平成19年度	工学研究科	先端応用量子光学	平成19年 4月 1日～平成22年 3月31日
平成19年度(継続)	医学系研究科	血液病理学	平成19年 4月 1日～平成21年 3月31日
平成18年度	経済学研究科	中小企業政策(中小機構)	平成18年 9月15日～平成20年 9月14日
平成18年度(継続)	医学系研究科	先進漢方治療医学(ツムラ)	平成18年10月 1日～平成21年 9月30日
平成18年度	医学系研究科	循環器先端医療開発学	平成18年10月 1日～平成21年 9月30日
平成18年度(継続)	医学系研究科	先端再生生命科学(江東微生物研究所)	平成18年 6月 1日～平成21年 5月31日
平成18年度	歯学研究科	歯科医薬品創生学	平成18年 4月 1日～平成20年 3月31日
平成18年度	理学研究科	分子変換学(サンアロイ)	平成18年 4月 1日～平成21年 3月31日
平成18年度(継続)	工学研究科	先端電力工学(東北電力)	平成18年 4月 1日～平成21年 3月31日
平成18年度(継続)	農学研究科	テラヘルツ生物学(竹本油脂・ミツカン)	平成18年 4月 1日～平成21年 3月31日
平成18年度	情報科学研究科	先端情報交換技術論(KDDI)	平成18年 4月 1日～平成21年 3月31日
平成18年度(継続)	環境科学研究科	環境物質制御学(同和鋳業)	平成18年 4月 1日～平成20年 3月31日
平成17年度	医学系研究科	高齢者高次脳医学	平成17年11月 1日～平成20年10月31日
平成17年度	医学系研究科	地域医療システム学(宮城県)	平成17年 6月 1日～平成20年 3月31日
平成17年度	医学系研究科	腎不全対策研究(アステラス製薬)	平成17年 4月 1日～平成22年 3月31日
平成17年度	工学研究科	コンビナトリアル計算化学	平成17年 4月 1日～平成20年 3月31日
平成15年度	薬学研究科	医薬開発構想	平成15年 4月 1日～平成20年 3月31日

### 寄附研究部門

設置年度	部局名	名称	設置期間
平成19年度	多元物質科学研究所	窒化物結晶	平成19年 4月 1日～平成22年 3月31日
平成19年度(継続)	工学研究科	電力エネルギー未来技術(東北電力)	平成19年 4月 1日～平成22年 3月31日
平成19年度(継続)	金属材料研究所	ナノ金属高温材料学	平成19年 4月 1日～平成22年 3月31日
平成19年度	加齢医学研究所	抗感染症薬開発	平成19年 4月 1日～平成22年 3月31日
平成18年度	多元物質科学研究所	先端圧電セラミックス	平成19年 1月 1日～平成21年12月31日
平成18年度(継続)	加齢医学研究所	臨床医工学(フクダ電子)	平成18年 4月 1日～平成20年 3月31日
平成18年度(継続)	未来科学技術共同研究センター	未来量子生命反応工学創製	平成18年 4月 1日～平成20年 3月31日
平成18年度	学際科学国際高等研究センター	窒化物半導体デバイス基盤技術	平成18年 4月 1日～平成21年 3月31日
平成18年度(継続)	多元物質科学研究所	有機ナノ結晶科学技術	平成18年 4月 1日～平成21年 3月31日
平成17年度(継続)	未来科学技術共同研究センター	未来情報産業創製	平成17年 4月 1日～平成20年 3月31日



### 産学連携ポリシー

大学における社会貢献は、教育と学術研究という基本的使命に加え、第三の使命です。東北大学は、研究中心大学としての知の成果を積極的に社会に還元し、人類社会の福祉と発展に寄与します。

産学等の連携は、知の成果の社会還元の中でも重要であり、大学として今後ともより積極的に取り組むことが必要です。

そのために、東北大学は、

1. 開学以来の「実学尊重」の伝統と実践を礎に、学術成果を産業界等に積極的に技術移転することを通じ、本学における教育と研究の社会的付加価値を高めます。
2. 大学における知的活動の成果を活用するための組織をおき、産学連携活動を通じ、国際競争力を持つ我が国産業の発展に貢献します。
3. 「産学連携」活動を効果的に推進し、我が国の経済・社会の発展に貢献します。
4. 地域産業界との持続的な連携を目指します。

産学連携

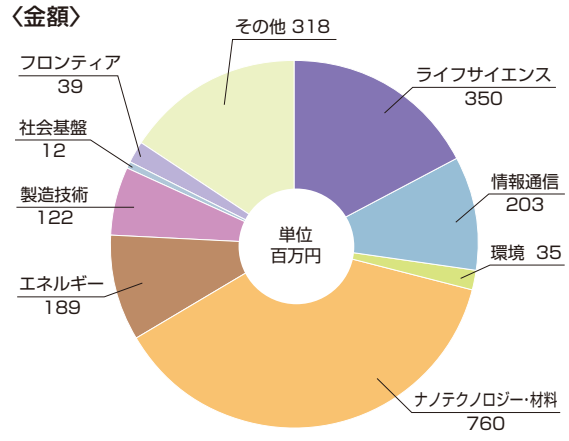
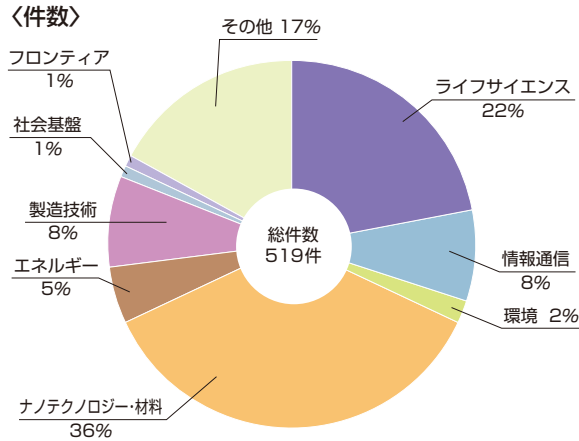
民間等との共同研究実施状況の推移

年度	受入件数(件)	受入金額(単位:百万円)
2002年度	233	889
2003年度	284	1,129
2004年度	392	1,675
2005年度	479	1,827
2006年度	519	2,028

受託研究の受入状況の推移

年度	受入件数(件)	受入金額(単位:百万円)
2002年度	374	3,910
2003年度	373	3,450
2004年度	456	6,149
2005年度	483	7,358
2006年度	591	7,927

2006年度 民間等との共同研究実施状況



※文部科学省産学連携等実施状況調査による区分

組織的連携

本学では、研究開発、人材育成、地域社会への責任、など相互の協力が可能な全ての分野において、大学全体として民間企業等と組織的連携を行い、具体的な協力を有機的に推進しています。

協定締結年月日	民間企業等名称	目的
2006. 1. 19	日立製作所	電気、情報、材料、機械分野における共同研究や相互交流を目指す。
2006. 1. 31	産業技術総合研究所	環境、材料、情報通信、エレクトロニクス分野等における共同研究を目指す。
2006. 2. 21	放射線医学総合研究所	PET(陽電子断層撮像法)を利用した分子イメージング研究の高度専門人材育成を目指す。
2006. 7. 27	セイコーエプソン	共同研究の推進、研究者の相互交流、教育及び人材の育成、留学生への奨学金支援業務及び国際交流助成を目指す。
2006.12.26	河北新報	共同研究・調査、イベント共催・協力、人材育成などの面での協力を軸に、教育・研究機能と、報道・情報発信機能を連携させることを目指す。
2007. 1. 31	七十七銀行	東北大学発ベンチャー企業に関する情報交換・支援、東北大学シーズと地域企業とのマッチングコーディネート、技術相談、相互人材交流を目指す。
2007. 3. 6	DOWAホールディングス	共同研究の推進、研究者の相互交流、若手研究者の育成、研究施設、研究設備の相互利用を目指す。

Major Research Projects

社会との連携協力

サイエンスカフェ

サイエンスカフェとは、高校生など一般の方々と科学者が、コーヒーカップを片手にサイエンスについて気軽に話し合い、社会の広い範囲の方々にサイエンスの楽しさに触れてもらう場であり、毎月1回仙台市内で開催しています。

イノベーションフェア(先端技術交流会)

開催日	内容	開催地
平成19年 2月 1日	ナノテク・材料、情報通信、バイオ・医工連携、ロボット、環境の各分野における独創的研究及び若手研究者による萌芽的研究の紹介とプレゼンテーション	赤坂プリンスホテル



サイエンスカフェ

社会との連携協力

公開講座

(2006年度)

区分	講座の名称	実施部局		
部局主催	原子力安全セミナー 研究開発マネージメント論 スピン工学・スピンシステム 先端工学セミナー「極限知能デバイスシステム工学」 先端工学セミナー「極限表面制御半導体プロセス工学」 先導的機能材料の物性制御と高機能化 先進材料システムの加工プロセスと評価 「最新耐震設計入門」-コンクリート構造物の耐震設計と地盤の動的解析- マンション-過去・現在・未来- 実態論ベースの原子力安全学に向けて 検査でわかるあなたの健康	工学研究科 大学院先端工学セミナー		
	子宮体内膜細胞診ワークショップ(Ⅰ) 「生きざま」の研究 Part2 -人間の魅力とは何か-	医学系研究科 国際文化研究科		
	環境問題を科学する-物質循環を中心として- 地殻エネルギー環境学の最前線 環境融和型社会を支える材料技術	環境科学研究科		
	みやぎ県民大学	東北のこぼ学 地域企業イノベーションの切り口 生涯元気は口から始まる 安全な食資源と私たちの健康 地域・時代による「環境問題」の諸相と亘理町 流れを科学する エネルギーと環境 サイクロトロンで何? -放射線を探る原子から脳まで- よりよき進路選択のために~大学入学をめぐる最近の状況から~	文学研究科 経済学研究科 歯学研究科 農学研究科 環境科学研究科 流体科学研究所 多元物質科学研究所 サイクロトロンラジオアイソトープセンター 高等教育開発推進センター	
		学部仙台サテライト キャンパス	当てにならなさを科学する 子どもの才能を考える メンタル・トレーニング入門	教育情報学研究部
			鏡としての異文化・宗教 国際政治について 解を見つける 言語学の世界 体育学の世界 地理学の世界 医学の世界 工学の世界 物理学の世界 キャリア教育-将来を考える意味- 裁判員制度とは何か-君も裁判員になるかも- 再生医療・遺伝子治療などの新しい医療 薬の資源としての天然物と現代医療 レスキューロボットの研究開発 水産資源の有効活用	泉館山高校 宮城野高校
		高校生のための公開 講座	各学部・学科においてどのような研究が行われているのか受験勉強以外に、高校生として今やるべきことは何か 各学部・学科においてどのような研究が行われているのか受験勉強以外に、高校生として今やるべきことは何か 各学部・学科においてどのような研究が行われているのか受験勉強以外に、高校生として今やるべきことは何か 各学部・学科においてどのような研究が行われているのか受験勉強以外に、高校生として今やるべきことは何か 地球科学における微化石の役割 各学部・学科においてどのような研究が行われているのか受験勉強以外に、高校生として今やるべきことは何か 各学部・学科においてどのような研究が行われているのか受験勉強以外に、高校生として今やるべきことは何か くすりを科学する 酵素のはたらきと応用 磁気機能材料最先端~磁力が生み出す新しい生活~ 浦島太郎と指輪物語 学校を科学的に研究する もの見え方、見方の発達 看護に求められているものとは~高齢者の看護を通して~ ナノテクノロジーと私たちの生活 国文学とはどんな学問か 南極・北極から見た地球の環境 刑罰って何だろう? 宇宙航空機とエンジン 文学、史学あるいは心理学について 国際社会と法について 現代社会と経済について 理学部における研究の最前線について(1)、理学部における研究の最前線について(2) 現代医学の諸問題について 歯学部研究の最前線について 現代薬学の諸問題について 各学科について(5学科) 農学部における研究の最前線について	仙台一高会場 白石高校会場 仙台南高校 白石女子高校 佐沼高校会場 角田高校 石巻高校 仙台二高
			文学研究科 法学研究科 理学研究科 文学研究科 教育学研究科 理学研究科 医学系研究科 工学研究科 農学研究科 電気通信研究所 教育学研究科 法学研究科 医学系研究科 薬学研究科 工学研究科 農学研究科	

開放講座

講座の名称	実施部局
社会教育主事講習 教育指導者講座 アメリカの社会と文化~現在と未来~(全5回)	教育学研究科
当てにならなさを科学する・日常生活のなかの確率と統計(全5回)	教育情報学研究部

特色ある研究・  
教育・社会貢献活動





国際交流

# 学術交流協定締結等

大学間協定 122機関  
 部局間協定 264機関

- フィンランド**  
 \*ヘルシンキ工科大学  
 \*オウル大学  
 \*タンペレ工科大学
- スウェーデン**  
 スウェーデン王国王立工科大学  
 ウーメオ大学歯学部  
 \*ウーメオ大学  
 リンショーピン大学工学部  
 チャルマース工科大学  
 \*スウェーデン王国王立工科大学  
 \*ウプサラ大学  
 スウェーデン農科大学農業・景観計画・園芸学部及び獣医学部  
 \*ストックホルム大学  
 \*ルンド大学  
 \*チェルマース工科大学
- デンマーク**  
 コペンハーゲン大学  
 デンマーク工科大学
- オランダ**  
 ユトレヒト大学生物学部  
 トウェンテ大学応用物理学部材料科学研究所  
 ユトレヒト大学生物学部
- ベルギー**  
 ベルギー原子力研究所材料研究部  
 ベルギー原子力研究センター
- イギリス**  
 ロンドン大学"The London School of Economics and Political Science"  
 ロンドン大学"The School of Oriental and African Studies"  
 ロンドン大学クイーンメアリー・ウェストフィールドカレッジ  
 クランフィールド工科大学航空学部  
 英国リサーチカウンシル中央研究機構ダースペリ研究所  
 サセックス大学化学、物理及び環境科学部  
 ロンドン大学"Imperial College of Science, Technology and Medicine"  
 ロンドン大学インスティテュート・オブ・エデュケーション  
 レスター大学社会科学部  
 \*ノッ丁ガム大学  
 マンチェスター工科大学機械、航空、製造工学部  
 ヨーク大学電子工学部  
 ヨーク大学  
 ヨーク大学教育学部  
 キングスカレッジ ロンドン・デンタル・インスティテュート  
 マンチェスター大学物理学工学部機械・航空・土木工学部
- フランス**  
 ロレーヌ国立総合工科大学  
 レンヌ第1大学レンヌ経営研究所  
 サンテティエヌ・鉱山大学材料構造センター  
 レンヌ第2大学多言語学部  
 ルイ・パスツール大学流体物理学研究所  
 \*ピエール・マリイ・キュリー大学  
 アルピ鉱山大学  
 リヨン1クラウドベルナル大学発光材料物理化学研究所  
 \*レンヌ第2大学  
 \*グルノーブルコンソーシアム及びストラスブールコンソーシアム  
 グルノーブル第1大学ジョセフ・フーリエ  
 グルノーブル第2大学ピエール・メンデス・フランス  
 グルノーブル第3大学スタンダール  
 グルノーブル理科大学(INPG)  
 ストラスブール第1大学ルイ・パスツール  
 ストラスブール第2大学マルク・ブロック  
 ストラスブール第3大学ロバール・シューマン  
 \*レンヌ第1大学  
 グルノーブル国立理工科大学熱力学物理化学冶金研究所  
 \*The Global Education for European Engineers and Entrepreneurs  
 メッス大学  
 国立応用科学院リヨン校  
 IFMA大学工学部  
 \*国立応用科学院リヨン校  
 \*ポルドー第1大学  
 国立科学研究所固体材料ナノサイエンス研究センター  
 \*国立中央理工学校(Ecole Centrale)5校  
 リール校  
 リヨン校  
 マルセイユ校  
 ナント校  
 パリ校  
 国立応用科学院トゥールーズ校  
 \*アルピ鉱山大学  
 フランス高等師範学校リヨン校
- スイス**  
 ローザンヌ工科大学  
 \*ローザンヌ工科大学
- イタリア**  
 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」  
 ローマ大学トアヴェルガータ校ヴォルテラ・センター  
 ビサ大学物理学部  
 トリエステ大学工学部  
 ミラノ大学法学部  
 ミラノ大学薬学部  
 ラキウラ大学実験医学部  
 バジリカータ大学工学部

- チェコ**  
 VSB-オストラハ工科大学  
 チェコ科学アカデミープラズマ物理研究所  
 マサリク大学理学部
- ドイツ**  
 ミュンヘン社会科学研究所  
 アーヘン工科大学機械工学部、  
 鉱山冶金・地球科学部  
 ゲッティンゲン大学金属物理学研究所  
 マックス・プランク金属研究所  
 ハンブルグ・ハールブルグ工科大学  
 ベルリン自由大学物理学部  
 \*アーヘン工科大学  
 カールスルーエ大学流体力学研究所  
 \*ドルトムント大学  
 フライブルグ大学マイクロシステム技術研究所  
 イエナ・フリードリッヒ・シラー大学固体物理研究所  
 \*ザールラント大学  
 ゲッティンゲン大学法学部  
 アイエチビー(IHP-Innovations for High Performance microelectronics)  
 \*ダルムシュタット工科大学  
 ゲッティンゲン大学化学研究科  
 ハイデルベルグ大学化学研究科  
 ハイデルベルグ大学法学部  
 \*ゲッティンゲン大学  
 エルランゲン大学工学部  
 \*ドレステン工科大学  
 ライプニッツ応用地球化学研究所  
 結晶成長研究所

- モロッコ**  
 \*ムハンマド5世大学-アグダル
- スペイン**  
 ビゴ大学理学部
- ギリシア**  
 アテネ工科大学機械工学部
- エジプト**  
 アシウト大学
- ウクライナ**  
 \*ウクライナ国立工業大学(キエフ工科大学)  
 材料科学基礎国立研究所
- キルギス**  
 キルギスタン国際大学
- イラン**  
 \*テヘラン大学  
 シラス大学工学部
- インド**  
 伊国国立化学研究所  
 \*インド工科大学ボンバイ校

- ウズベキスタン**  
 タシケント国立経済大学  
 タシケント国立経済大学
- ルーマニア**  
 フカレスト工科大学電気工学部  
 レーザー・プラズマ・放射物理国立研究所
- ハンガリー**  
 セントイストヴァン大学農学部及び食品学部  
 (旧校名:ハンガリー農科・食品工科大学)  
 ハンガリー科学アカデミー物理材料技術研究所  
 デブレツェン大学医学部  
 ブダペスト工科大学化学工学部
- スロベニア**  
 リュブリャナ大学工学系4学部  
 ジョセフ・ステファン研究所
- ポーランド**  
 ポーランド科学アカデミー物理研究所  
 ポーランド科学アカデミー触媒表面化学研究所  
 ポーランド真空工学研究所  
 ポーランド科学院物理研究所  
 ポーランド国電子材料技術研究所  
 マリア・キュリー・スクロドゥスカ大学法学部  
 ヴロツワフ大学数学研究所

- タイ**  
 チュロンコン大学理学部  
 カセサート大学理学部  
 カセサート大学農学部  
 \*アジア工科大学院  
 スラナリー工科大学大学院加速物理学研究科  
 スラナリー工科大学農業工学研究所バイオテクノロジー研究科  
 ソンクラウ大学工学部  
 \*スラナリー工科大学  
 カセサート大学水産学部  
 チュロンコン大学理学部  
 \*キングモンクット工科大学ラカバン校  
 チュロンコン大学教育学部  
 タマサト大学シリンドン国際工学部
- シンガポール**  
 シンガポール国立大学工学部  
 ナンヤン工科大学機械・生産工学部  
 \*シンガポール国立大学  
 シンガポール生産技術研究所
- インドネシア**  
 インドネシア大学大学院学部  
 バンドン工科大学  
 \*インドネシア大学  
 インドネシア科学院  
 \*ガジャマダ大学  
 セブル・ノーベンバー工科大学

- ニュージーランド**  
 \*オークランド大学

国際交流



**ロシア**

- ロシア科学アカデミー理論及び応用力学研究所
- ロシア科学アカデミーシベリア支部
- ロシア科学アカデミー総合物理学研究所
- ロシア科学アカデミー固体物理学研究所
- トムスク工科大学原子核物理学研究所
- \*モスクワ国立大学
- ロシア科学アカデミー通信電子工学研究所
- ロシア科学アカデミーマイクロ電子工学・高純度物質研究所
- ロシア科学アカデミーレベデフ物理研究所
- モスクワ電力工学研究所(工科大学)電力機械工学部
- ロシア科学アカデミーシベリア支部V.N.スカチヨフ森林研究所
- ロシア連邦ユゴラ情報技術研究所
- \*ノボシビルスク国立大学
- スモレンスクステートメディカルアカデミー
- ロシア科学アカデミー極東支部自動制御処理研究所
- ロシア科学アカデミー極東支部・V.I. Il'ichev太平洋海洋研究所
- ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所
- 国際技術投資振興財団
- ロシア科学アカデミー極東支部自動制御プロセス研究所
- ロシア連邦サハ共和国アカデミー人文科学研究所

**モンゴル**

- \*モンゴル科学アカデミー
- モンゴル技術大学ジオサイエンスセンター
- \*モンゴル科学技術大学

**カナダ**

- トロント大学航空宇宙研究所
- マギル大学金属プロセス研究センター
- トロント大学金属・材料科学科
- ウォーターロー大学工学部
- プリティッシュコロンビア大学歯学部
- カルガリー大学医学部
- トロント大学医学部
- オタワ大学医学部
- \*ウォーターロー大学

**アメリカ**

- シカゴ大学ジェームス・フランク研究所
- イリノイ大学工学部・バイオアクステクス研究所
- イリノイ大学工学部・バイオアクステクス研究所
- \*ペンシルバニア州立大学
- ワシントン大学工学部
- \*カリフォルニア大学
- バークレー校
- デイビス校
- アーヴィン校
- ロスアンゼルス校
- リバーサイド校
- サンディエゴ校
- サンタバーバラ校
- サンフランシスコ校
- サンタクルス校
- マーセド校
- ワシントン大学医学部
- アラスカ大学フェアバンクス校
- コロンビア大学化学科
- \*ワシントン大学(シアトル)
- ペンシルバニア大学工学部
- \*バーデュー大学
- アメリカ合衆国国際教育協会
- コロンビア大学理工学部地球・環境工学科
- コタ大学金属工学科
- \*アラスカ大学
- イリノイ大学シカゴ校
- シラキュース大学工学部
- ハーバード大学理工学部
- イリノイ工科大学
- スタンフォード大学シボール先端材料科学研究所
- \*コロラド鉱山大学
- ジョージア工科大学工学部
- ワイオミング大学工学部
- フォーサイス研究所

**韓国**

- 済州大学校農科大学
- 全北大学校工科大学
- 韓国科学技術研究院
- 全南大学校歯科大学
- \*全北大学校
- 釜山水産大学校(釜慶大学校)
- ソウル大学校工科大学
- 成均館大学情報通信技術研究所
- 産業科学技術研究所
- 国立釜山大学校生産技術研究所
- 延世大学原子スケール表面研究所
- 成均館大学校薬学大学
- \*ソウル大学校
- 大邱大学校情報通信工学部
- 忠北大学校薬学大学
- 韓国高等科学技術院工学部
- 漢陽大学校セラミックス工程研究センター
- 慶北大学校工科大学
- 延世大学校工科大学
- 嶺南大学校工科大学
- 明知大学校社会教育大学院
- 韓国科学技術院電子部品・材料設計人力教育センター
- 成均館大学校技術革新センター
- 仁荷大学工科大学
- 忠南大学校工科大学
- \*光州科学技術院
- \*釜慶大学校
- \*浦項工科大学校
- 延世大学校教育科学大学
- \*韓国科学技術院
- \*忠南大学校
- 東義大学校電子セラミックス研究センター
- 順天大学校農業生命科学大学
- \*慶北大学校
- 韓南大学ハイブリット材料研究所
- 成均館大学情報通信用新機能性素材及び工程研究センター
- \*嶺南大学校
- \*東義大学校
- \*朝鮮大学校
- \*高麗大学
- 韓国水産研究振興院
- 昌原大学校基礎科学研究所
- 昌原大学校産業技術研究院
- 国民大学校社会科学大学
- \*国立昌原大学校
- 高麗大学校工科大学材料工学科
- 国立光州大学大学院
- 韓国生産技術研究院光州研究センター
- \*西江大学校
- 釜山大学校素材技術研究所
- \*延世大学校

**台湾**

- 国立台湾大学工学院
- 国立中山大学文学院中国文学系
- \*国立台湾大学
- 国立台湾海洋大学
- 財団法人工業技術研究院工業材料研究所
- 中央研究院歴史語言研究所
- \*国立中正大学
- 国立応用研究所・ナノデバイス研究所
- \*国立成功大学
- \*国立交通大学
- 台湾台北医学大学公衆衛生栄養学院

**ベトナム**

- ベトナム国立大学ハノイ校ハノイ科学大学
- 水資源大学

**フィリピン**

- ミンダナオ州立イリガン工科大
- サンラザロ病院

**オーストラリア**

- シドニー大学理学部
- メルボルン大学理学部
- オーストラリア国立大学アジア研究学部
- \*シドニー大学
- ニューサウスウェールズ大学工学部
- \*ニューサウスウェールズ大学
- \*オーストラリア国立大学
- クイーンズランド工科大学衛生保健学部看護学科
- グリフィス大学工学・情報学部

**中国**

- 東北工学院(東北大学)
- 東北工学院(東北大学)
- 中国医科大学
- 浙江医科大学
- \*東北大学(瀋陽)
- 中国科学院固体物理研究所
- ハルビン工業大学計算機科学工程系
- 浙江大學工学系
- 重慶工科大学
- 上海第二医科大学
- 湖北医学院
- 深圳大学科研処
- 中国科学院物理研究所
- 清華大学水利水電工程系
- 武漢工業大学新材料研究所
- 清華大学近代物理研究所、応用物理系
- 衛生部北京医院
- ハルビン工業大学
- 香港科学技術大学
- 中国科学院金属研究所
- 南京大学電子科学技術系
- \*中国科学技術大学
- \*清華大学
- 北京大学ナノ科学技術研究センター
- 中国科学院上海硅酸塩研究所
- 遼寧省腫瘍病院;遼寧省腫瘍研究所
- 北京大学日本研究センター
- 西安電子科技大學
- \*南京大學
- 北京大學
- 大連理工大學研究生院
- ハルビン医科大学
- 中国科学院理論物理研究所
- 中国科学院長春光学精密機械物理研究所
- 復旦大学日本研究センター
- \*吉林大學
- \*浙江大學
- \*復旦大學
- \*武漢理工大學
- 中国科学院物理研究所
- 華僑大学材料科学工程学院
- 広東省民族研究所
- \*重慶大學
- 青島海洋大学水産学院(現中国海洋大学)
- 山西經濟管理幹部学院
- \*同濟大學
- 南京航空航天大学機電學院
- \*中国海洋大学(旧青島海洋大学)
- \*北京科技大学
- 上海水産大学
- 厦門大学海洋・環境科学院
- \*南京航空航天大学
- 鄭州大学材料工程学院
- 中国社会科学院日本研究所
- 中国社会科学院法学研究所
- 聖南大学生命科学・工学部
- \*陝西科技大学
- \*青島科技大学
- 中国科学院南海海洋研究所
- 中国人民大学商学院
- 揚州大学動物科学技術学院
- 東北財経大学会計学院
- 中国科学院上海有機化学研究所
- 西北有色金属研究院
- \*厦門大學
- \*華中科技大学
- 大連理工大學材料科学工程学院
- 北京航空航天大学材料学院
- 天津大学材料学院
- \*西安交通大学
- 蘭州大學
- \*華東師範大學
- 四川大學華西口腔医学院
- 中国科学院上海有機化学研究所
- 中山大學環境科学・工程学院
- 中国科学院化学研究所
- 大連理工大學化学工業院
- \*北京航空航天大学
- 漢陽大学校工科大学及び大学院
- 中国科学院半導体研究所
- \*天津大學
- \*大連理工大學
- メキシコ
- メキシコ国立工科大学
- キューバ
- フィンレイ研究所
- ブラジル
- リオ・グランジ・ド・スル州立大学工学部
- チリ
- アタカマ大学

注1) 赤字は大学間協定大学名、他は、部局間協定大学名を表す。  
 注2) 国ごとの協定大学名は、部局間協定・大学間協定を問わず協定締結時期で時系列に表示。  
 注3) 複数の部局が協定を結んでいる同一機関名を複数回挙げています。  
 注4) \*印は、授業料等を不徴収とする交流協定を締結している機関を示す。

大学間協定

大学間協定校名(122機関)	国・地域名(25ヶ国)	締結年月日
*ペンシルバニア州立大学	アメリカ	1988.11.29
バークレー校		
デビス校		
アーヴィン校		
ロスアンゼルス校		
*カリフォルニア大学		1990. 3.15
リバーサイド校		
サンディエゴ校		
サンタバーバラ校		
サンフランシスコ校		
サンタクルス校		
マーセド校		
*ワシントン大学(シアトル)		1996. 7. 3
*バーデュー大学		1997. 9.23
*アラスカ大学		1999. 1.12
*コロラド鉱山大学		2004. 1. 7
ロンドン大学(Imperial College of Science, Technology and Medicine)	イギリス	1998. 5. 4
ロンドン大学(The London School of Economics and Political Science)		1989. 1. 3
ロンドン大学(The School of Oriental and African Studies)		1989. 4.10
*ノッthingガム大学		2001. 5.15
ヨーク大学		2004. 6. 7
ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	イタリア	1990. 9.27
*テヘラン大学	イラン	1999. 8.25
*インド工科大学ボンベイ校	インド	2000. 8.21
*インドネシア大学	インドネシア	2004. 3.19
*ガジャマダ大学		2006.12.16
*ウクライナ国立工業大学(キエフ工科大学)	ウクライナ	2004. 6. 2
*シドニー大学	オーストラリア	1993. 1. 8
*ニューサウスウェールズ大学		2001. 4. 7
*オーストラリア国立大学		2002. 7.16
*ウォータールー大学	カナダ	2006.10.30
*全北大学校	韓国	1991.11.12
*ソウル大学校		1998. 7. 8
*光州科学技術院		2000. 8.21
*釜慶大学校		2000. 8.21
*浦項工科大学校		2000. 9.22
*韓国科学技術院		2001. 4.24
*忠南大学校		2001. 7. 9
*慶北大学校		2002. 9. 2
*嶺南大学校		2003.12. 3
*東義大学校		2003.12.19
*朝鮮大学校		2004. 3.18
*高麗大学		2004. 3.31
*国立昌原大学校		2005.10. 2
*西江大学校		2007. 2. 2
*延世大学校		2007. 5.29
*シンガポール国立大学	シンガポール	2000. 9.16
*ローザンヌ工科大学	スイス	2000.11.20
*ウーメオ大学	スウェーデン	1997. 8.18
*スウェーデン王国王立工科大学		2000. 9.20
*ウプサラ大学		2002. 3.20
*ストックホルム大学		2003. 1.14
*ルンド大学		2003. 4.10
*チャルマース工科大学		2006. 4.19
*アジア工科大学院	タイ	1998.11. 9
*スラナリー工科大学		2001. 3. 1
*キングモンクット工科大学ラカバン校		2004. 4.15
*東北大学(瀋陽)	中国	1983. 8. 5
*中国科学技術大学		1998. 6.15
*清華大学		1998. 8.31
*南京大学		1999. 9. 1
北京大學		1999.11.10
*吉林大学		2001. 3. 1
*浙江大学		2001. 4. 9
*復旦大学		2001. 4.19
*武漢理工大学		2001. 4.30
*重慶大学		2001. 7. 4
*同済大学		2002. 8.13
*中国海洋大学(旧青島海洋大学)		2002.10.21
*北京科技大学		2002.10.25
*南京航空航天大学		2003. 3.10
*陝西科技大学		2004. 5.30
*青島科技大学		2004. 7. 7

(2007年6月現在)

大学間協定校名(122機関)	国・地域名(25ヶ国)	締結年月日	
* 廈門大学	中国	2005. 6.29	
* 華中科技大学		2005.10.12	
* 西安交通大学		2006. 8.31	
* 華東師範大学		2006. 9.20	
* 北京航空航天大学		2006.12.16	
* 蘭州大学		2007. 4.17	
* 天津大学		2007. 6. 8	
* 大連理工大学		2007. 6.16	
* 国立台湾大学		台湾	2000.11.18
国立台湾海洋大学			2002. 3. 8
* 国立中正大学	2003.11.14		
* 国立成功大学	2005. 8. 9		
* 国立交通大学	ドイツ	2005.12.15	
* アーヘン工科大学		1998. 5.19	
* ドルトムント大学		1999. 3. 2	
* ザールラント大学		1999.10. 5	
* ダルムシュタット工科大学		2003. 4.30	
* ゲッティンゲン大学		2003.10.23	
* ドレスデン工科大学		2006.6.26	
* オークランド大学		ニュージーランド	2002.11.15
* ヘルシンキ工科大学		フィンランド	2001.11. 5
* オウル大学			2004. 8. 9
* タンペレ工科大学	フランス	2006. 1.31	
* ピエール・マリー・キュリー大学		1999. 8.19	
* レンヌ第2大学		1999.12. 3	
* グルノーブルコンソーシアム及び ストラスブールコンソーシアム	グルノーブル第一大学「ジョセフ・フーリエ」 グルノーブル第二大学「ピエール・マンデス＝フランス」 グルノーブル第三大学「スタンダール」 グルノーブル理工科大学「INPG」 ストラスブール第一大学「ルイ・パスツール」 ストラスブール第二大学「マルク・ブロック」 ストラスブール第三大学「ロベール・シューマン」	2000. 3.31	
* レンヌ第1大学		2000.12.20	
* The Global Education for European Engineers and Entrepreneurs		2002.11.14	
* 国立応用科学院リヨン校		2004. 7.13	
* ボルドー第一大学		2005. 7.28	
* 国立中央理工科学校5校 (Ecole Centrale)	リール校 リヨン校 マルセイユ校 ナント校 パリ校	2006. 2.13	
* アルビ鉱山大学		2006.9.12	
ベルギー原子力研究センター	ベルギー	2005. 6.16	
ポーランド科学アカデミー触媒表面化学研究所	ポーランド	1999. 8. 4	
* ムハンマド5世大学－アグダル	モロッコ	2001. 4.30	
* モンゴル科学アカデミー	モンゴル	2000. 8.21	
* モンゴル科学技術大学		2001.11.16	
ロシア科学アカデミー・シベリア支部	ロシア	1992. 8.10	
* モスクワ国立大学		1998. 2.19	
* ノボシビルスク国立大学			

\*印は、授業料等を不徴収とする交流協定を締結している機関を示す



南アフリカ共和国(IDT)とのMOU調印式



100周年記念「知の世紀」グローバル・サミット

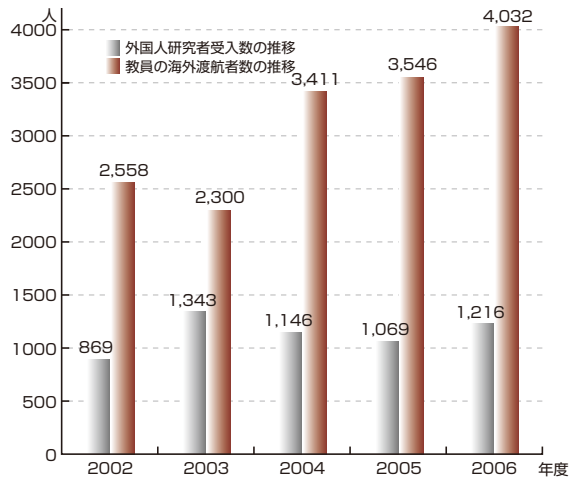


北京航空航天大学との学術協定調印式

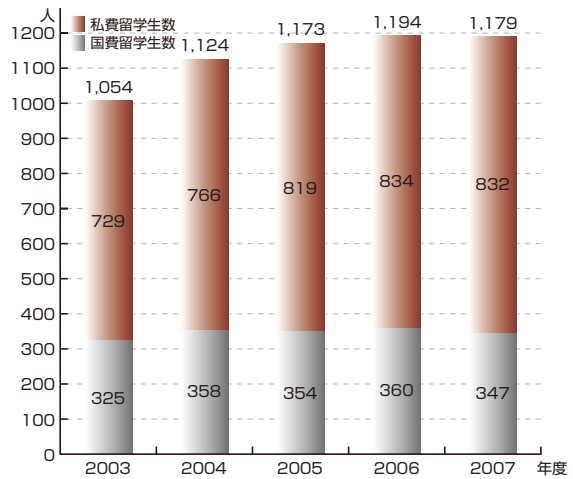


## 研究者等受入状況

教職員の海外渡航者数及び外国人研究者受入数の推移



外国人留学生受入数の推移



## 海外拠点

### リエゾンオフィス

締結機関(設置場所)	国名(締結年月日)	オフィス名	世話部局
① ロシア科学アカデミー・シベリア支部 (ノボシビルスク学術センター)	ロシア (1997. 9.22)	東北アジア研究センターシベリア連絡事務所	東北アジア研究センター
② ケンブリッジ大学 (金属冶金学科)	イギリス (2002. 4.23)	IFCAM Cambridge Office	金属材料研究所
③ ニューサウスウェールズ大学 (国際交流センター)	オーストラリア (2002. 5.17)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 法学研究科
④ ハーバード大学 (理工学部)	アメリカ (2002. 5.31)	IFCAM Harvard Office	金属材料研究所
⑤ モスクワ国立大学 (物理学部)	ロシア (2002. 6.21)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科 金属材料研究所
⑥ スウェーデン王国王立工科大学 (材料科学科)	スウェーデン (2002. 9. 6)	IFCAM Stockholm Office	金属材料研究所
⑦ スタンフォード大学 (シボル先端材料科学研究所)	アメリカ (2003. 2.11)	IFCAM Stanford Office	金属材料研究所
⑧ 中国科学院物理学研究所 (表面物理国家重点実験室)	中国 (2003. 2.20)	IFCAM Beijing Office	金属材料研究所
⑨ シラキュース大学 (計算機科学・工学部)	アメリカ (2003.11.19)	流体科学研究所リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑩ 韓国科学技術院 (機械工学部)	韓国 (2003.12.18)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑪ 国立応用科学院リヨン校 (金属材料物理研究所)	フランス (2004. 1.23)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科 加齢医学研究所

### 海外事務所

	設立年月日
⑫ 米国代表事務所 Tohoku University US Office	2006. 5.24
⑬ 中国代表事務所 Tohoku University China office	2007. 4.20







(2007年5月1日現在)

## 外国人留学生数(国・地域別、部局別)

地域	国籍	在籍者数	部局別在籍者数																						
			文学部・文学研究科	教育学部・教育学研究科	法学部・法学研究科	経済学部・経済学研究科	理学部・理学研究科	医学部・医学系研究科	歯学部・歯学研究科	薬学部・薬学研究科	工学部・工学研究科	農学部・農学研究科	国際文化研究科	情報科学研究科	生命科学研究科	環境科学研究科	教育情報学教育部	金属材料研究所	加齢医学研究所	流体力学研究所	電気通信研究所	多元物質科学研究所	未来科学技術共同研究センター	東北アジア研究センター	高等教育開発推進センター
アジア 19か国	インド	17					5	1				7			1						1				
	インドネシア	41	3	1		1	7	2		1	13	4	1	4	1										3
	韓国	193	35	3	10	12	5	3	3	1	91	4	12	5	3	4	1	1							
	カンボジア	2				2																			
	シンガポール	1		1																					
	スリランカ	5					2					1			1		1								
	タイ	24	2			2	2		2		1	11		2		2									
	中国	485	24	14	10	12	1	28	44	3	7	87	6	52	33	7	29	13	2	1	2			1	1
	台湾	41	13	2		3						8	1	8	2	2		1	1						
	ネパール	8				3						4			1										
	パキスタン	6				1		1				2			1										1
	বাংলাদেশ	19	1			2	1	1			3	7	1		3										
	フィリピン	11				1						4	1	1	1	2	1								
	ブータン																								
	ベトナム	25			1	5	1				1	15			1		1								
	マレーシア	33	1				1	2			1	27				1									
	ミャンマー	6	1				1	1				1		1											1
	モンゴル	45	4	5	2	12	3	1			2	1	9			5								1	
	ラオス	2										1				1									
	中近東 4か国	イエメン	1			1																			
イラン		33	2			2	4	1			20			3	1										
シリア		3					1	1	1																
トルコ		6					1				5														
アフリカ 16か国	アルジェリア																								
	ウガンダ	2									2														
	エジプト	11					2				5	1		2										1	
	ケニア	2									1					1									
	コンゴ民主共和国	2				1																		1	
	ジンバブエ	1									1														
	ザンビア	1						1																	
	スーダン																								
	セネガル	1									1														
	コートジボワール	1						1																	
	チュニジア	3				2	1																		
	ナイジェリア																								
	マダガスカル																								
	モーリタニア																								
	モロッコ	4										2			1	1									
	リビア	2															2								
	オセアニア 3か国	オーストラリア																							
バファニューギニア		2													1	1									
北米 2か国	アメリカ合衆国	39	8			2					29														
	カナダ	3					1				1													1	
中南米 16か国	アルゼンチン	1																						1	
	ウルグアイ																								
	キューバ																								
	グアテマラ	2									1				1										
	コスタリカ	2									1													1	
	コロンビア	5									4					1									
	ジャマイカ																								
	チリ																								
	パナマ	1						1																	
	パラグアイ																								
	ブラジル	7	1					1		1	1		1	2											
	ベネズエラ	1													1										
	ペルー	1									1														
	ボリビア	3						1			1						1								
	ニカラグア	1						1																	
	メキシコ	5						1			2			2											
	ヨーロッパ 19か国	イギリス	2	1								1													
		イタリア																							
		オーストリア																							
		オランダ																							
スウェーデン		10	1				1				7			1											
スペイン		3									1			1	1										
チェコ		1	1																						
デンマーク		1									1														
ドイツ		6	1			1	2				1			1											
ハンガリー																									
フィンランド		6									5			1											
フランス		8						1			5		1	1											
ブルガリア																									
ベルギー		1						1																	
ボスニア・ヘルツェゴビナ		3				1					1			1											
ポルトガル		2									2														
ポーランド		2					1												1						
ユーゴスラビア																									
NIS 7か国		ルーマニア	8				2				3		2	1											
		アゼルバイジャン	2						2																
	アルメニア	1											1												
	ウクライナ	1											1												
	ウズベキスタン	1																1							
	キルギス	1						1																	
	モルドバ	1																							
ロシア	9	3	1		2		1			2												1	3	10	
合計(86か国)	1,179	102	27	23	176	70	75	8	17	388	21	91	74	18	51	15	4	2	2	1		1	3	10	

## 国際シンポジウム等開催状況

開催日	名称	内容	開催地
平成16年6月10日、11日	東北大学ケンブリッジフォーラム	東北大学と英国をはじめとする欧州の学術研究機関との幅広い学術交流の促進を目的に、2回目の海外フォーラムとして、東北大学ケンブリッジフォーラムを開催した。	ケンブリッジ市(イギリス)
平成16年10月22日、23日	魯迅先生東北大学留学100周年記念事業	中国の文豪魯迅が東北大学医学部の前身である仙台医学専門学校への留学100周年を迎えることを記念して、東北大学が交流協定を締結している中国の主要6大学の学長、副学長を招聘し、一連の行事を開催した。記念式典をはじめ、仙台財界人とのパネルディスカッション形式の公開シンポジウムや東北大学との今後の学術交流について協議する学術セミナー及び東北大学史料館において魯迅に関する特別展を実施した。	宮城県仙台市
平成17年9月27日、28日	国際シンポジウム —魯迅の起点:仙台の記憶—	経済学研究科の教員・学生を中心とする魯迅・東北大学留学百周年史編集委員会が東北大学出版会より出版した「魯迅と仙台:東北大学留学百周年」の中国語版の発行を記念し、学際的観点から魯迅留学の意義を検討し、魯迅研究の更なる発展への寄与に関心を寄せる研究者、政府関係者、市民が集い、意見交換を行うことを目的とし、魯迅北京博物館との共催、在中国日本大使館の後援により開催した。	北京(中国)
平成19年2月8日、9日	日仏ジョイントフォーラム "Lyon - Tohoku, Teaming for the Future" 2020年の科学・技術の姿	東北大学創立100周年と東北大学の大学間交流協定校であり、ダブルディグリープログラムの協定を締結している国立中央理工学校リヨン校(ECL)の150周年、国立応用科学院リヨン校(INSA-Lyon)の創立50周年を記念した事業で、フランス各地から高等教育・研究機関、政財界、商工会議所、日仏の研究者、仙台市などの自治体、企業関係者ら延べ300人以上が参加し、運輸、材料、エネルギーをテーマに10年後の科学技術の姿を論じ合った。	リヨン(フランス)



国際シンポジウム—魯迅の起点:仙台の記憶—



日仏ジョイントフォーラム



日仏ジョイントフォーラム

### 国際交流戦略の基本指針

2005年3月8日 東北大学

東北大学は、真理を探究して、新たな知識の創造とその普及に努め、それによって、人類が尊厳を保ちながら平和のうちに共生する社会の実現に貢献することを使命にしている。より具体的には、本学は、多様な分野の学術が集い相互に協力・刺激し合いながら研鑽を積む総合大学として、世界と歴史の知の成果に学び、現在と未来の学問的課題を見極め、新たな知識の発見・創出と社会における公開・応用に取り組むと共に、知を以て人類社会に貢献する意欲と能力を備えた人材を育成することを目指すものである。

本学は、既にこれまで1世紀の間、「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」を精神的支柱として掲げてきた。このことは、本学構成員が、開学以来一貫して、研究・教育の国際化が本学の使命・目標を達成するための不可欠の条件をなすと明確に意識してきたことを示している。

近年に目を向けると、本学は、2000年8月に国際交流を通じて世界最高水準の研究・教育拠点作りを目指すことを世界に向けて宣言した。また、2004年4月の法人化に当たり、本学は、「国際競争力のある研究・教育拠点」として発展することを主要目標に挙げた。さらに2004年11月には、本学が今後、「Tohoku University, Creating Global Excellence」(「東北大学は世界最高水準の研究・教育を創造します」)を標榜することを表明した。

このような宣言・表明からも明らかのように、今日、国際交流の推進は、本学の使命・目標の達成にとってますます重要な位置を占めるものとなっている。また、それ故に、今後の国際交流の立案・実施に当たっては、それを本学の使命・目標の実現に可能な限り役立てるといった戦略性が強く求められるに至っている。

したがって、本学は、今後、以下の主要目的を最大限に果たすことを基本指針にして国際交流戦略を立案・実行していかなければならない。

- (1) 国際学術ネットワークを通じた世界最高水準の研究を推進する。
- (2) 広く世界から意欲と能力を備えた俊秀を受け入れて世界の発展に役立つ指導的人材を育成する。
- (3) 研究教育を国際社会に発信するとともに、国際貢献に活用する。
- (4) 上記を達成するために研究・教育基盤を強化し、本学の国際的知名度・信頼性を向上させる。



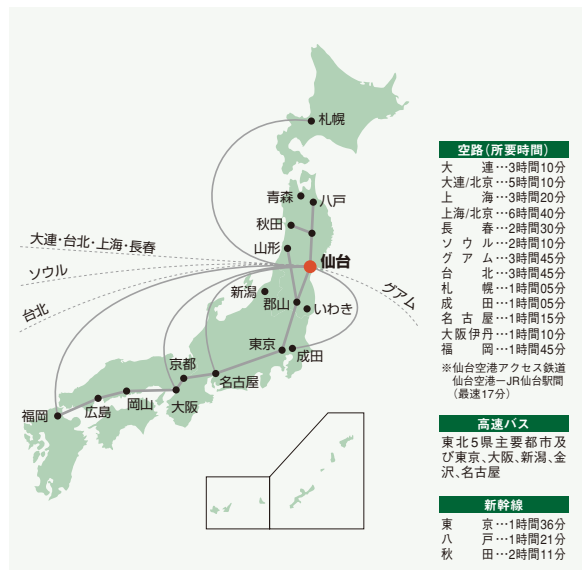
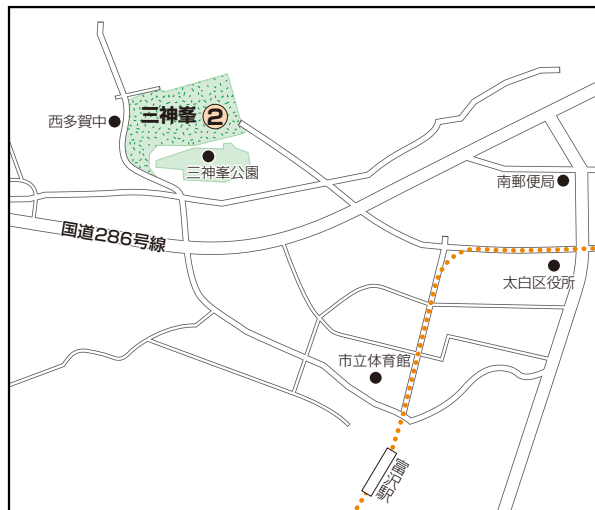
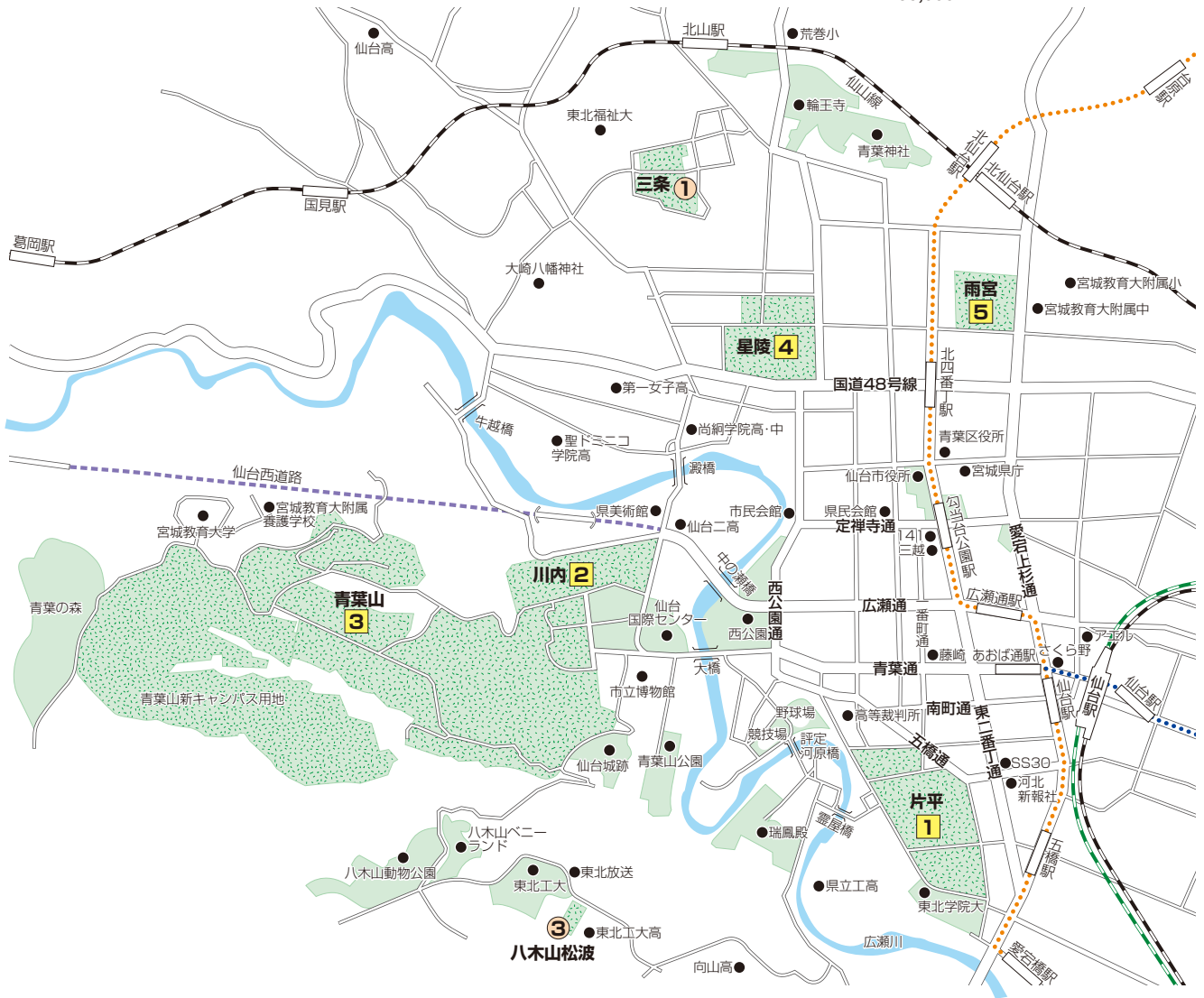
# キャンパス

# 施設所在地一覧

## 主要地区

- 1 片平地区 2 川内地区 3 青葉山地区 4 星陵地区 5 雨宮地区

1 : 35,000  
0 300 600 900m



## 施設所在地一覧

## その他の地区

施設名	住所・郵便番号	代表電話番号
① 国際交流会館(本館)	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022(275)9901
② 理学研究科附属原子核理学研究施設	〒982-0826 仙台市太白区三神峯1-2-1	022(743)3412
③ 国際交流会館(分館)	〒982-0836 仙台市太白区八木山松波町4-5	022(229)9120
④ 理学研究科附属惑星・プラズマ・大気研究センター 惑星圏女川観測所	〒986-2204 宮城県牡鹿郡女川町桐ヶ崎	0225(53)3374
⑤ 農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	〒986-2242 宮城県牡鹿郡女川町小乗浜字向15	0225(53)2436
⑥ 農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3	0229(84)7312
⑦ 川渡共同セミナーセンター	〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字原75	0229(84)7309
⑧ 理学研究科附属惑星・プラズマ・大気研究センター 惑星圏蔵王観測所	〒989-0800 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉 七日原200-1	0224(34)2743
⑨ 生命科学研究所附属浅虫海洋生物学研究センター	〒039-3501 青森市大字浅虫字坂本9	017(752)3388
⑩ 学術資源研究公開センター植物園八甲田山分園	〒030-0111 青森市大字荒川字南荒川山1-1	017(738)0621
⑪ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (秋田県地震観測所)	〒011-0936 秋田市將軍野南1-14-46	018(845)8716
⑫ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (本荘地震観測所)	〒015-0091 秋田県由利本荘市大築	0184(29)2124
⑬ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (三陸地震観測所)	〒022-0101 岩手県大船渡市三陸町越喜来字小泊114	0192(44)2107
⑭ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (遠野地震観測所)	〒028-0545 岩手県遠野市松崎町駒木干地割120-74	0198(62)2800
⑮ 金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センター	〒311-1313 茨城県東茨城郡大洗町成田町2145-2	029(267)3181
⑯ 金属材料研究所附属研究施設大阪センター	〒593-8531 大阪府堺市中央区学園町1-1 大阪府立大学内	072(254)5603
⑰ 理学研究科附属惑星・プラズマ・大気研究センター 惑星圏飯館観測所	〒960-1636 福島県相馬郡飯館村前田	0224(42)0530
⑱ 理学研究科附属ニュートリノ科学研究センター 液体シンチレーター反ニュートリノ観測施設	〒506-1205 岐阜県飛騨市神岡町東茂住上町408	0578(85)0030
⑲ 流体科学研究所附属流体融合研究センター 東北大学宮崎大学共同研究施設(日向灘研究施設)	〒889-1111 宮崎県日向市美々津町松ノ本1610-3	0982(58)1988
⑳ 東北大学東京分室	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー10階	03(3218)9612
㉑ 東北大学米国代表事務所(Tohoku University US Office)	4410 El Camino Real,Suite#111,Los Altos CA94022,USA	+650-947-0664
㉒ 東北大学中国代表事務所(Tohoku University China Office)	北京市中关村北四环西路33号 中国科学院文献情报中心616号室 日本学術振興会北京研究連絡センター内	+86-10-6253-8332

## 学寮、ユニバーシティ・ハウス

施設名称	概要	所在地	電話番号
日就寮(男子)	収容定員103名	〒982-0832 仙台市太白区八木山緑町16-3	022-229-1858
以文寮(男子)	// 96名	〒982-0832 //	022-229-5392
霽風寮(男子)	// 81名	〒982-0832 //	022-229-4954
如春寮(女子)	// 64名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022-272-9857
明善寮(男子)	// 160名	〒980-0011 仙台市青葉区上杉6丁目3-2	022-234-0134
松風寮(男子)	// 150名	〒980-0011 //	022-275-1221
ユニバーシティ・ハウス三条(男子、女子、留学生)	// 416名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022-274-7305

## 課外活動施設

施設名称	住所	代表電話番号
評定河原運動場・合宿所	仙台市青葉区花壇2-1	〒980-0815
名取ボート艇庫・合宿所	名取市下増田字屋敷10-1	〒981-1201 022-384-0455
戸田ボート艇庫・合宿所	埼玉県戸田市戸田公園5-50	〒335-0024 048-447-0658
七ヶ浜ヨット艇庫・合宿所	宮城県七ヶ浜町吉田浜 字浜屋敷61-5	〒985-0802 022-357-2659
萩雪ヒュッテ	山形市蔵王温泉荒敷820-1	〒990-2301 0236-94-9094
清溪小屋	刈田郡蔵王町字倉石岳 国有林305口林小班	〒980-0800
片平中央体育館	仙台市青葉区片平2-1-1	〒980-8577
片平(1・2・4・5・6)ホール	//	
片平武道場	//	
片平テニスコート	//	
富沢野球場・自動車練習場	仙台市太白区三神峯1-5	〒982-0826
青葉山馬場	仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	〒980-0845
川内ホール	仙台市青葉区川内41	〒980-8576
川内サークル会館	//	
課外活動施設A	//	
サークル部室E・F・G	//	

## 国際交流会館

(入居収容室数)

区分	単身室	夫婦室	家族室	計
本館 留学生	147	42	31	220
研究者	12	14	8	34
分館 研究者	12	6	6	24
計	171	62	45	278



ユニバーシティ・ハウス三条

# 建物配置図

## 1 片平地区

●土地: 237,563㎡ ●建物: 153,099㎡(2007年4月1日現在)

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1 電話番号案内 022(717)7800

### 大学本部、研究所



大学本部棟



- 総務部 12
- 人事部、研究協力部、財務部 13
- 施設部、キャンパス移転推進室 15
- 広報部 11
- 情報部 9
- 国際交流部 14
- 金属材料研究所 3
  - 附属金属ガラス総合研究センター 4
  - 附属強磁場超伝導材料研究センター 7
  - 附属材料科学国際フロンティアセンター 2
- 流体科学研究所 17
  - 附属流体融合研究センター 17
  - 衝撃波学際応用実験棟 22
  - 環境流体研究棟 33
- 電気通信研究所 29 31
  - 附属ブレインウェア実験施設 30
  - 附属ナノ・スピニング総合研究棟 27
  - 附属21世紀情報通信研究開発センター 34
- 多元物質科学研究所素材工学研究棟・附属資源変換・再生研究センター 28
  - 反応化学研究棟・附属資源変換・再生研究センター・附属多元ナノ材料研究センター・附属新産業創造物質基盤技術研究センター 8
  - 科学計測研究棟・附属先端計測開発センター 10
- 材料・物性総合研究棟 26
- 生命科学研究科 23 24 31
- 法科大学院 16
- 公共政策大学院 16
- 極低温科学センター 5
- 学術資源研究公開センター(史料館) 18
- 片平さくらホール 25

- 百万ボルト電子顕微鏡室 19
- 埋蔵文化財調査室(生命科学研究科3階) 21
- 職員研修所片平会館 1
- 厚生施設・学生ホール 6
- 体育館 32
- 考古学収蔵庫 20



建物配置図

2 川内地区

人文社会科学学部、全学教育

●土地: 820,738㎡ ●建物: 120,236㎡(2007年4月1日現在)

川内北キャンパス 〒980-8576 仙台市青葉区川内41  
 川内南キャンパス 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1  
 電話番号案内 022(717)7800



- 文学研究科 ⑬ ⑱
- 経済学研究科 ⑳ ㉑
- 演習室 ㉒
- 法学研究科 ⑰ ⑲
- 教育情報学研究部・教育情報学教育部 ⑯
- 国際文化研究科棟 ⑪
- 附属図書館 ⑭
- 植物園本館 ㉔
- 記念館 ㉕
- 保健管理センター・学生相談所・セクハラ相談室 ⑩
- 教育・学生支援部(管理棟)、キャリア支援センター ⑫
- 国際交流センター 国際交流部留学生課 ①
- 東北アジア研究センター ⑦
- 高等教育開発推進センター ③ ⑧
- 入試センター、教育・学生支援部入試課 ⑬
- マルチメディア教育研究棟 ③△

- 川北合同研究棟 ⑦※
- 文学研究科・法学研究科合同研究棟 ⑱
- 文科系総合研究棟(教育学研究科) ⑲
- 文科系合同研究棟 ㉓
- 講義棟 ④
- 大講義棟 ㉑
- 中講義棟 ㉒
- 学生実験棟 ②
- 川内ホール ⑥
- 川内体育館 ⑤
- 川内サークル会館 ⑨
- 川内北キャンパス学生会館 ⑧
- 文系厚生施設 ㉗
- 記念講堂・松下記念会館 ⑮



文科系総合研究棟

※には国際文化研究科・国際文化研究科附属言語脳認知総合科学研究センター・東北アジア研究センター・高等教育開発推進センターを含む  
 △には高等教育開発推進センター・国際文化研究科を含む



3 青葉山地区

理工系学部



情報科学研究科



工学研究科



●土地:785,049㎡ ●建物:291,303㎡(2007年4月1日現在)

工学研究科・工学部・環境科学研究科 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6  
 工学研究科・工学部・環境科学研究科以外 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3  
 電話番号案内 022(717)7800



理学部・理学研究科管理棟 12

- 数学専攻 7
- 物理系専攻 2 19
- 化学専攻 8
- 地学専攻 11
- 生物学科 10
- 理学総合研究棟 19

- 附属巨大分子解析研究センター 9
- 附属大気海洋変動観測研究センター 17
- 附属惑星プラズマ・大気研究センター 17
- 附属地震・噴火予知研究観測センター 48
- 附属ニュートリノ科学研究センター 16
- 大講義棟 3
- 数理科学記念館 4
- 自然史標本館、総合学術博物館 18

薬学研究科・薬学部 6

- 応用薬学総合研究棟 5
- 附属薬用植物園管理棟 13
- 工学部・工学研究科管理棟 41
- 機械・知能系各専攻 33
- 量子エネルギー工学専攻 46
- 電子情報システム・応物系各専攻 25 28
- 化学・バイオ系各専攻 29
- マテリアル・開発系各専攻 44
- 人間・環境系各専攻 38
- 技術社会システム専攻 39
- 創造工学センター 30
- 建築実験所 21
- 附属災害制御研究センター 39
- 附属エネルギー安全科学国際研究センター 39
- 附属超臨界溶媒工学研究センター 39
- 総合研究棟 39
- 共通講義棟 43
- 附属マイクロ・ナノマシニング研究教育センター 34

情報科学研究科 24 25 26 28 33 38 39 41

- 生命科学研究科 8 10 19
- 環境科学研究科 11 19 29 33 35 38 39 44
- 附属図書館北青葉山分館 15
- 附属図書館工学分館 31
- サイクロトロン・RIセンター 20
- 極低温科学センター 1
- 未来情報産業研究館 36
- 未来科学技術共同研究センター、産学官連携推進本部 37
- ハッチェリースクエア 40
- 学際科学国際高等研究センター 22
- 国際高等研究教育機構 22
- 環境保全センター 47
- 情報シナジー機構 24
- 青葉山体育館 23
- けやきダイニング 27
- 厚生施設 32
- 理・薬厚生施設 14
- 青葉記念会館 42
- 食堂、コンビニエンスストア 45



# 建物配置図

## 4 星陵地区

医・歯学部、病院

●土地: 179,214㎡ ●建物: 259,088㎡(2007年4月1日現在)

病院 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1  
 附属歯科医療センター 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1  
 医学部・医学系研究科 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1  
 歯学部・歯学研究科/加齢医学研究所 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1  
 電話番号案内 022(717)7000



### 医学部0号館 ⑫

- 1号館 ⑮
- 2号館 ⑰
- 3号館 ⑱
- 4号館 ⑲
- 5号館 ⑲
- 保健学科 ⑩
- フロンティア研究棟 ⑫
- バイオメディカル研究棟 ⑳
- プリオン研究実験棟 ⑪
- 附属動物実験施設 ⑭
- 動物実験施設腫瘍分室 ⑥
- 実習講義棟 ⑳
- 臨床講義棟 ㉑
- 星陵ラジオアイソトープセンター ⑮
- 歯学研究科臨床研究棟 ⑨
- 附属歯科医療センター ⑨
- 基礎研究棟 ⑧
- 実習講義棟 ④

- 病院管理棟 ③
- 外来診療棟 ⑩
- 中央診療棟 ⑮
- 総合研究施設棟(仮称) ⑮
- 西病棟 ⑰
- 東病棟 ⑱
- 新南病棟 ⑲
- 加齢医学研究所研究棟 ②\*
- 星陵プロジェクト総合研究棟 ③\*
- ブレインダイナミクス研究棟 ⑦
- 附属図書館医学分館 ⑳
- 星陵学生サークル棟 ①
- 星陵体育館 ⑤
- 星陵会館 ⑬
- 医学部長陵会館 ⑳

\*には生命科学研究科を含む



大学病院



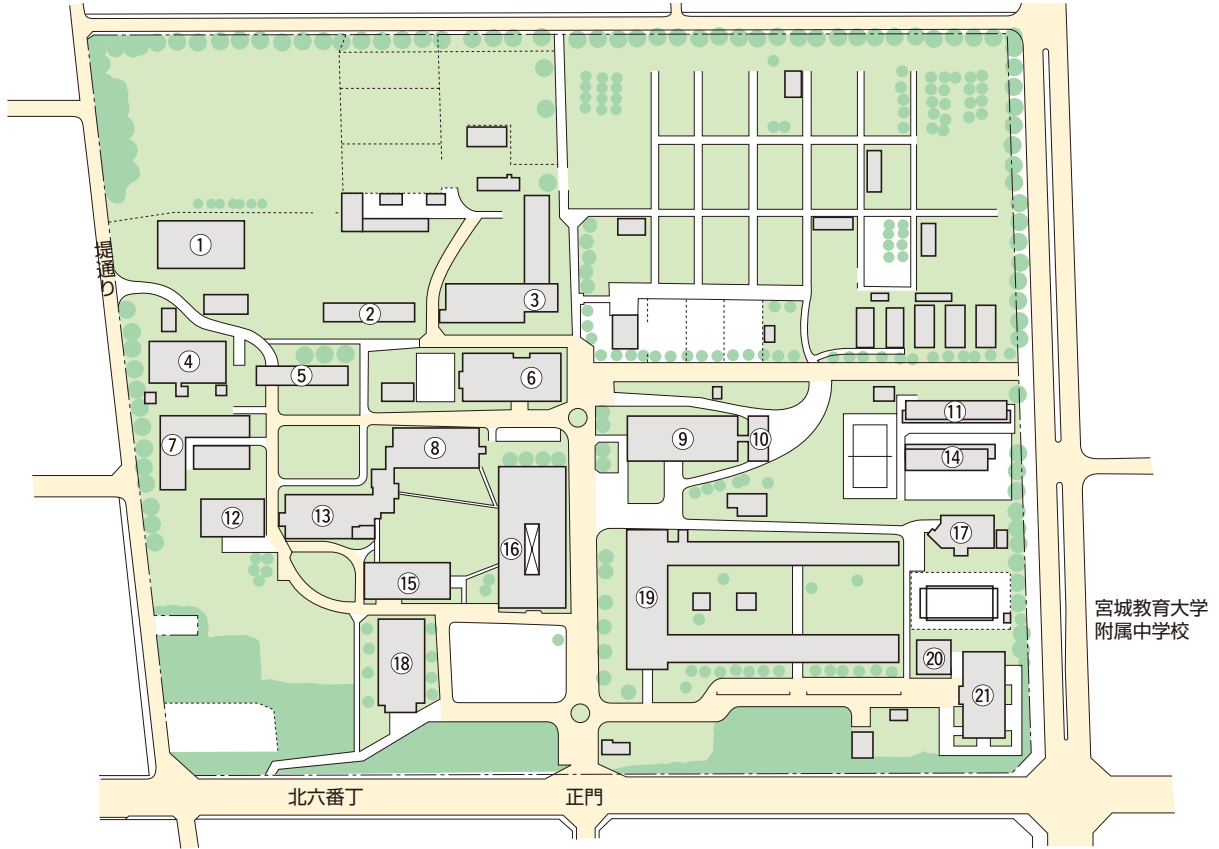
建物配置図

5 雨宮地区

●土地:92,746㎡ ●建物:31,297㎡(2007年4月1日現在)

〒981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 電話番号案内 022(717)8604

農学部



農学研究科本館 ⑱\*

- 管理棟 ⑮
- 第一研究棟 ⑬
- 第二研究棟 ⑧\*
- 研究実験棟第一 ⑭
- 研究実験棟第二 ⑪
- 研究実験棟第三 ⑤\*
- 研究実験棟第四 ②
- 動物飼育実験棟 ③
- 食品加工実験棟 ④
- 水産生物飼育実験棟 ⑦
- 植物環境応答実験施設 ⑳
- 講義棟 ⑯
- 講堂 ①

RI実験施設 ⑰

- パワーセンター ⑫
- 旧体育館 ⑱
- 加齢医学研究所附属ゲノムリサーチセンター ㉑
- 附属図書館農学分館 ⑥
- 厚生施設 ⑨
- 学生談話室 ⑩



農学研究科

\*には生命科学研究所を含む



## 東北大学概要 2007

●  
[編集・発行]

東北大学広報部広報課

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1

Tel.022-217-4977

●  
<http://www.tohoku.ac.jp/>

